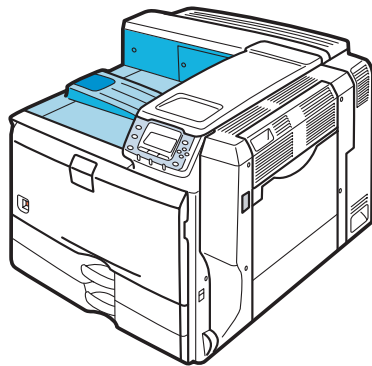
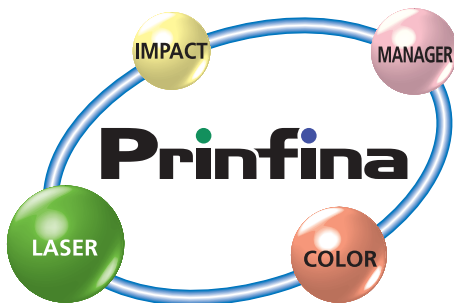


**HITACHI**  
Inspire the Next

日立モノクロページプリンター  
**Prinfina** LASER BX3550

# Prinfina

## PC-PL3550シリーズ ページプリンター取扱説明書 ソフトウェアガイド



マニュアルはよく読み、保管してください。

- ・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分に理解してください。
- ・このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

## ■重要なお知らせ

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- (4) 本製品を運用した結果については(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 弊社指定のオプションまたは消耗品以外を装着してのトラブルについては(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

## ■プリンターの信頼性について

本プリンターは、一般事務用を意図して設計・作成されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

## ■規制、対策などについて

### ●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### ●国際エネルギースタープログラムについて



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

『国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマークは参加国間で統一されています。』

### ●高調波電流規格：JIS C 6100-3-2 適合品

JIS C 6100-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第3-2部：限度値 - 高調波電流発生限度値（1相当の入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

### ●プリンターでの印刷について

紙幣、有価証券などをプリンターで印刷すると、その印刷物の使用如何に拘らず、法律に違反し、罰せられます。

#### (1) 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- ・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- ・日本や外国の郵便切手、印紙
  - ・ 関連法規 刑法 第148条、第149条、第162条
  - ・ 通貨及証券模造取締法 第1条、第2条
  - ・ 郵便切手類模造等取締法
  - ・ 紙幣類似証券取締法
  - ・ 印紙等模造取締法 等

#### (2) 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- ・外国の紙幣、貨幣、銀行券
- ・株券、手形、小切手などの有価証券
- ・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- ・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
  - ・ 関連法規 刑法 第149条 第155条 第159条 第162条
  - ・ 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

#### (3) 著作権法で保護されているもの

- ・著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

### ●輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

### ■保守部品について

本プリンターの保守用部品の保有期限は製造打ち切り後5年です。

### ■著作権についてのお知らせ

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

# はじめに

このたびは、日立ページプリンターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。  
本機を正しくお使いいただくために、本書は必ずお読みください。  
また、お読みいただいたあとも大切に保管してください。

添付品に欠損・欠品等ありましたら、担当営業またはご購入先までご連絡ください。

## お問い合わせ先

### ●プリンターの操作方法などについてのお問い合わせ

HITAC カスタマ・アンサ・センターにお問い合わせください。

製品の技術的なお問い合わせについて回答いたします。

ただし、各言語によるユーザープログラム等の技術支援は除きます。

また、明らかに故障であると思われる内容につきましては、販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。

HITAC カスタマ・アンサ・センター（HCA センター）

フリーダイヤル 0120-2580-12

受付時間 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

### ■コールバック方式

受付担当者がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話またはメールでお答えします。

### ●故障や保守サービスについてのお問い合わせ

トラブルが発生した場合は、まず、取扱説明書（本書）をご確認ください。

故障と判断される場合は販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。



---

# 目次

---

使用説明書について	9
使用説明書の分冊構成	9
各使用説明書の記載内容	10
マークについて	11
IP アドレスについて	11
表示画面とキー操作について	12

## 1. 印刷するための準備

---

接続方法を確認する	13
ネットワーク接続	14
Windows の印刷ポートを使用する	14
プリントサーバを使用する	15
ローカル接続	16
おすすめインストール	17
各ポート別インストール	19
Network Monitor for Client ポートを使う	19
Network Monitor for Client のインストール	19
プリンタードライバのインストール (TCP/IP)	20
プリンタードライバのインストール (IPP)	22
Network Monitor for Client ポートの設定を変更する	25
Standard TCP/IP ポートを使う	26
LPR ポートを使う	28
WSD ポートを使う	30
Windows ネットワークプリンターを使う	33
USB 接続	35
Windows 2000 と USB で接続する	35
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する	36
Windows Vista と USB で接続する	38
USB 接続がうまくいかないとき	39
パラレル接続	40
CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき	42
Windows 2000 の場合	42
Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合	42
Windows XP Home Edition の場合	42
Windows Vista の場合	43
オプション構成の設定	44
双方向通信が働く条件	44
双方向通信が働かない場合	45

## 2. プリンタードライバ画面と設定方法

---

2 種類の操作画面	47
Windows 2000 の場合	48
Windows 2000 で [プリンタ] ウィンドウからプロパティを表示する	48
Windows 2000 で [プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示する	49
Windows 2000 でアプリケーションからプロパティを表示する	50
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合	51
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で [プリンタと FAX] ウィンドウからプロパティを表示する	51

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で [プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示する	52
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 でアプリケーションからプロパティを表示する	53
<b>Windows Vista の場合</b>	<b>54</b>
Windows Vista で [プリンタ] ウィンドウからプロパティを表示する	54
Windows Vista で [プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示する	55
Windows Vista でアプリケーションからプロパティを表示する	56

### 3. いろいろな印刷

<b>PDF ファイルを直接印刷する</b>	<b>57</b>
コマンドを使用する	57
<b>文書の複製を抑止する</b>	<b>58</b>
不正コピーガード機能	58
マスクパターン	59
おことわり	60
<b>文書印刷機能を使用する</b>	<b>61</b>
文書印刷画面を表示する	61
<b>文書一覧画面から文書を印刷する</b>	<b>64</b>
試し印刷する	64
2 部目以降を印刷する	65
試し印刷文書を消去する	66
機密印刷する	67
操作部を使って機密印刷する	68
機密印刷文書を消去する	69
保留文書を印刷する	70
操作部を使って保留文書を印刷する	72
保留印刷文書を消去する	73
保存文書を印刷する	73
操作部を使って保存文書を印刷する	75
保存文書を消去する	76
<b>ユーザー ID 一覧から文書を印刷する</b>	<b>77</b>
文書を選択して印刷する場合	77
文書をすべて印刷する場合	78
<b>強制印刷する</b>	<b>80</b>
トレイを選んで印刷するとき	80
印刷を中止するとき	81
<b>印刷を中止する</b>	<b>83</b>
中止したいデータが印刷されている場合	83
中止したいデータが印刷されていない場合	84
<b>エラー履歴を確認する</b>	<b>85</b>
<b>ソートについて</b>	<b>87</b>
<b>スプール印刷について</b>	<b>88</b>
<b>表紙について</b>	<b>89</b>
<b>合紙について</b>	<b>90</b>
<b>印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える</b>	<b>91</b>
<b>フィニッシャーについて</b>	<b>92</b>
ステープルについて	93
ステープルの位置	93
ステープルを行うときの注意事項	94
パンチについて	95
パンチの位置	95
パンチを行うときの注意事項	95
<b>仮想プリンターを使用する</b>	<b>97</b>

仮想プリンターを追加する	97
仮想プリンターの設定を変更する	99
仮想プリンターの設定内容を確認する	100
仮想プリンターを削除する	101
仮想プリンターで印刷する	101

## 4. 用紙に独自の名前をつけて使用する

用紙種類の登録から使用するまでの流れ	103
用紙種類に名前をつけて登録する	105
トレイにユーザー用紙種類を設定する	107
Web Image Monitor からトレイの設定をする	107
登録した用紙種類に印刷をする	108

## 5. プリンター本体の設定

[メニュー] キー機能一覧	109
メモリー内残存データ状態確認メニュー	113
メモリー内のデータ状態を確認する	113
用紙設定メニュー	114
用紙設定メニューの設定項目	114
用紙設定メニューの設定を変更する	116
特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す	116
優先給紙トレイを設定する	117
調整/管理メニュー	119
調整/管理メニューの項目	119
調整/管理メニューの設定を変更する	123
保存文書をすべて消去する	123
テスト印刷メニュー	125
テスト印刷メニューの項目	125
テスト印刷をする	126
システム設定リストを印刷する	126
システム設定リストの見かた	127
システム設定メニュー	128
システム設定メニューの設定項目	128
システム設定メニューの設定を変更する	131
印刷設定メニュー	133
印刷設定メニューの設定項目	133
印刷設定メニューの設定を変更する	139
セキュリティー管理メニュー	141
セキュリティー管理メニューの設定項目	141
セキュリティー管理メニューの設定を変更する	143
インターフェース設定メニュー	145
インターフェース設定メニューの設定項目	145
インターフェース設定メニューの設定を変更する	147
表示言語切替	149
補助メニュー	150
補助メニューの項目	150
補助メニューの設定を変更する	150
エラー履歴を確認する	150

## 6. 機器の監視

Web ブラウザーを使う	153
トップページを表示する	154
ユーザー認証が設定されているとき	156
Web Image Monitor からのログインのしかた	156
Web Image Monitor からのログアウトのしかた	156
メニュー構成とモード	157
管理者モードでアクセスする	159
Web Image Monitor のヘルプについて	159
ヘルプのダウンロード	160
ヘルプへのアドレス (URL) リンク	161
Network Monitor for Admin を使う	162
Network Monitor for Admin のインストール	163
ネットワークインターフェースボードの設定を変更する	164
機器側操作部のメニューをロックする	165
用紙種類を設定する	166
ユーザー情報を管理する	167
ユーザー情報管理ツールを起動する	167
印刷枚数を表示する	168
印刷枚数の情報を保存する	169
印刷枚数の情報をリセットする	170
利用制限を設定する	171
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する	172
省エネモードを設定する	174
パスワードを設定する	174
機器の状態を表示する	175
本体機器名とコメントを変更する	176
スプール印刷ジョブの一覧を確認する	177
アドレス情報を管理する	178
Network Monitor for Client を使う	179
監視する機器を設定する	179
機器の状態を表示する	180
Network Monitor for Client で IPP を使用する場合	181
機器の状態をメールで通知する	182
「自動メール通知」の設定	183
「要求時メール通知」の設定	184
メールの認証について	185
要求時メールの送信	186
telnet を使う	188
操作の流れ	188
access	189
authfree	190
autonet	190
devicename	191
dhcp	191
dhcp6	192
diprint	193
dns	193
domainname	195
help	195
hostname	195
ifconfig	196
info	197
ipds	197



ipp	197
ipsec	198
ipv6	198
lpr	198
passwd	198
pathmtu	199
prnlog	199
rhttp	199
route	200
set	201
show	203
smb	203
snmp	204
sntp	206
spoolsw	207
ssdp	207
ssh	208
status	208
syslog	209
upnp	209
web	209
wins	210
wsmfp	210
<b>SNMP</b>	<b>212</b>
<b>ネットワーク経由で確認できる情報</b>	<b>213</b>
機器の状態	213
機器情報	216
<b>取得情報の内容</b>	<b>218</b>
プリントジョブ情報	218
プリントログ情報	218
ネットワークインターフェイスボードの情報	219
<b>メッセージ一覧</b>	<b>225</b>
システムログ情報	225

## 7. プリントサーバーの準備

<b>Windows ネットワークプリンターを設定する</b>	<b>231</b>
Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする	232
プリントサーバーの設定をする	232
クライアントの設定をする	233

## 8. UNIX で使う

<b>セットアップ</b>	<b>235</b>
IP アドレスの設定	236
インストールシェルの実行	236
インストールシェルの実行結果	239
/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加	239
/etc/printcap へのエントリーの追加	239
スプールディレクトリの作成	240
ログファイルの作成	241
<b>オプション指定 (UNIX)</b>	<b>242</b>
エミュレーションとプログラム	242
給紙トレイ	243

用紙サイズ	244
用紙種類	244
排紙トレイ	245
印刷部数	245
ソート部数	245
両面印刷	246
解像度	246
ステープル	247
パンチ	247
オプション指定の変更方法	248
<b>本機の状態表示</b>	<b>249</b>
表示する場合	249
ファイルにコピーする場合	249

## 9. 付録

<b>注意と制限</b>	<b>251</b>
プリンターおよびシステムについて	251
最新情報の入手	251
接続について	251
仕様（プリントタイム、本体・消耗品寿命）	252
PDL について	253
電源について	253
使用環境	253
使用上の注意と制限事項	254
OS のサポートについて	254
ソフトウェアに関して	255
ドライバーインストール・アンインストール	255
ドライバーに関する注意と制限事項	255
RPCS プリンタードライバーに関する注意と制限事項	258
PostScript ドライバーについて	261
Network Monitor for Admin に関する注意と制限事項	263
Network Monitor for Client に関する注意と制限事項	265
印刷ポートについての注意と制限事項	268
TCP/IP 使用時の注意と制限	268
ハードウェアに関して	269
使用上の条件	269
用紙の保管について	270
再生紙について	270
再生紙の購入、保管	270
用紙が詰まったとき	270
注意と制限事項	271
トナー寿命について	272
保守・運用	272
運用上の注意事項	272
保守・運用について	272
性能低下の条件	273
その他	273
形名の読み替え	273
USB について	273
560 について	274
印刷結果の相違について注意事項	274
印字品質について	274
移行に関する注意事項	275
清掃について	275

内蔵フォント	276
有償部品について	276
寿命および保守について	278
装置寿命	278
保守部品の保有期間	278
サービス期間について	278
サポート対象外機能一覧	278
本体、オプション、消耗品一覧	280
最新ソフトウェアのダウンロード	281
最新の OS について	281
<b>CD-ROM 収録ソフトウェア</b>	<b>282</b>
ファイル一覧	282
ドライバー (RPCS)	282
RPCS プリンタードライバー	282
ドライバー (PS3)	283
PS3 プリンタードライバー	283
Network Monitor for Admin	283
Network Monitor for Client	283
TrueTypeWorld	285
基本仕様	286
Windows へのインストール	287
各種マニュアル	288
PDF 形式の使用説明書	288
<b>Windows からのファイル直接印刷</b>	<b>289</b>
セットアップ	289
IP アドレスの代わりにホスト名を使用する	290
DNS を使用している場合	290
DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合	290
その他の場合	290
印刷方法	291
lpr	291
rcp	292
ftp	292
sftp	293
<b>Windows ターミナルサービス /Citrix Presentation Server(MetaFrame) を使用する場合</b>	<b>294</b>
動作環境	294
制限	294
<b>DHCP を使用する</b>	<b>296</b>
AutoNet 機能を使用する	296
<b>WINS サーバーを使用する場合</b>	<b>297</b>
Web ブラウザーを使用する方法	297
telnet を使用する方法	298
<b>ダイナミック DNS 機能を使用する</b>	<b>299</b>
更新処理について	299
動作対象の DNS サーバー	300
動作対象の DHCP サーバー	300
ダイナミック DNS 機能の設定方法	300
<b>使用上の注意</b>	<b>301</b>
ネットワークに ISDN 回線を接続している場合	301
<b>本機でできるセキュリティー対策</b>	<b>302</b>
認証機能の利用とユーザー管理	302
情報の漏洩を防ぐ	302
アクセスの制限と管理	303
ネットワークの平行インターフェース設定強化	304
SSL (暗号化通信) の概要	305

---

<b>搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報</b> .....	<b>306</b>
expat について .....	306
NetBSD について .....	306
Netatalk(NetBSD)/Neta Talk 1.4b2+asun2.1.3 について .....	314
FreeBSD 4.6.2/netipx について .....	314
Sablotron .....	314
JPEG LIBRARY について .....	314
SASL について .....	314
Samba (Ver.3.0.4) について .....	316
RSA BSAFE® .....	316
Open SSL .....	316
Open SSH .....	319
Open LDAP .....	323
Heimdal .....	324
IPS™ print language emulations .....	324
racocon .....	324
Trousers .....	325
<b>索引</b> .....	<b>329</b>

---

# 使用説明書について

---

本機には、紙の使用説明書と電子の使用説明書（PDF 形式）が用意されています。電子の使用説明書は、CD-ROM に収録されています。電子の使用説明書の開きかたについては、『ハードウェアガイド』を参照してください。本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

---

## 使用説明書の分冊構成

---

お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

### ◆ かんたんセットアップ



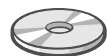
本機に同梱されています。プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

### ◆ クイックガイド



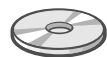
本機に同梱されています。困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

### ◆ ハードウェアガイド



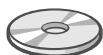
付属の CD-ROM には、電子の使用説明書が収録されています。オプションの接続方法や用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご利用ください。

### ◆ ソフトウェアガイド（本書）



付属の CD-ROM に、電子の使用説明書が収録されています。プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

## ◆ セキュリティーガイド



付属の CD-ROM に、PDF 形式の電子の使用説明書が収録されています。管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

### ↓ 補足

・ PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

## 各使用説明書の記載内容

本機に添付されている、説明書の記載内容を簡単に説明します。

かんたん セットアップ (紙面)	ハードウェア ガイド (PDF)	ソフトウェア ガイド (PDF)	PostScript3 ガイド (PDF)	クイック ガイド (紙面)	セキュリティー ガイド (PDF)
プリンターの 設置	お使いいただく ための注意事項	ソフトウェア ガイド	PSドライバーの インストール(Mac)	お使いいただく ための注意事項	認証の概念と 運用
オプションの 取り付け	プリンターの 概要紹介	ユーティリティ プリンタードライバ のインストール	PSドライバーの 設定 (Mac)	各部の名称	情報漏洩を防止する
ケーブルの 接続	オプションの 取り付け	プリンタードライバ の設定	PSドライバーの インストール(Win)	用紙が詰まったとき	本機へのアクセス 管理
インターフェースの 設定	インターフェース ケーブルの接続	いろいろな印刷 の操作	PSドライバーの 設定 (Win)	困ったときには	ネットワークの セキュリティー強化
プリンタードライバ のインストール	インターフェースの 設定	プリンターの 設定	設定項目の一覧	消耗品の交換	セキュリティー強化機能
	用紙のセット	プリンターの 監視		メッセージ一覧	
	消耗品の交換	ネットワークプリンタ の設定			
	プリンターの 清掃・調整				
	困った時の 対処				
	消耗品のご案内 と注意事項				
	仕様				

---

---

## マークについて

---

本書で使われているマークには次のような意味があります。

### ★重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

### ↓補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

### E参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。各タイトルの一番最後に記載しています。

### [ ]

キーとボタンの名称を示します。

### 『 』

本書以外の分冊名称を示します。

---

---

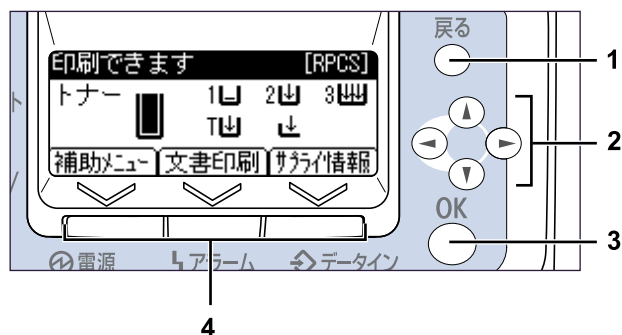
## IP アドレスについて

---

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

# 表示画面とキー操作について

表示された画面とキー操作について説明します。  
ネットワーク設定時の画面を例に操作キーの操作方法を説明します。



BEJ003S

- 1 [戻る] キー**  
設定を有効にせずに上位の階層に戻るとき、メニューから通常の表示に戻るときに使用します。
- 2 スクロールキー**  
カーソルを上下左右に移動します。  
本書で[▲][▼][▶][◀]と表記されているときは、同方向のスクロールキーを押します。
- 3 [OK] キー**  
設定や設定値を確定させるとき、または下位の階層に移動するときに使用します。
- 4 選択キー**  
画面下部に表示された項目を選ぶときに押します。  
本文中で「[補助メニュー] を押します。」と説明されているときは、左の選択キーを押します。



# 1. 印刷するための準備

---

同梱のCD-ROMからドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

1

## 接続方法を確認する

---

プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

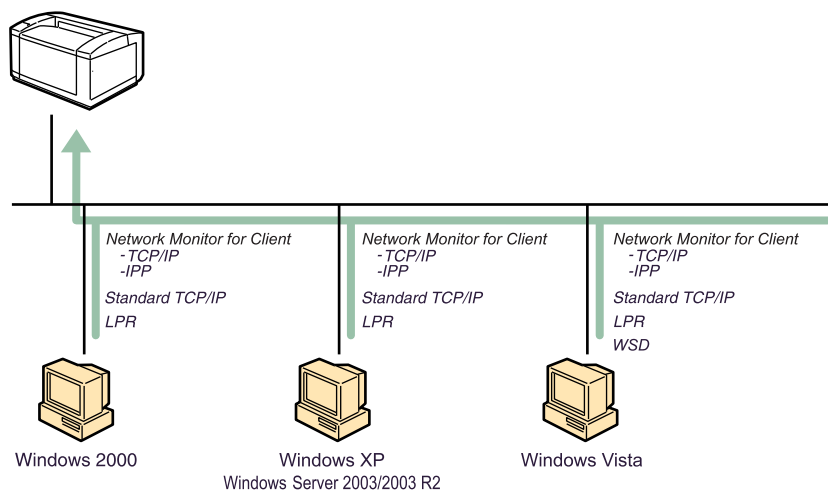
## ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷 (Peer-to-Peer ネットワーク)、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

1

### Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネットを使用します。



BEJ0885

#### ◆ Windows 2000/XP の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Network Monitor for Client ポート (推奨)</li> <li>• Standard TCP/IP ポート</li> <li>• LPR ポート</li> </ul>

#### ◆ Windows Vista の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Network Monitor for Client (推奨)</li> <li>• Standard TCP/IP ポート</li> <li>• LPR ポート</li> <li>• WSD ポート</li> </ul>

## ◆ Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Network Monitor for Client ポート (推奨)</li> <li>• Standard TCP/IP ポート</li> <li>• LPR ポート</li> </ul>

## ↓ 補足

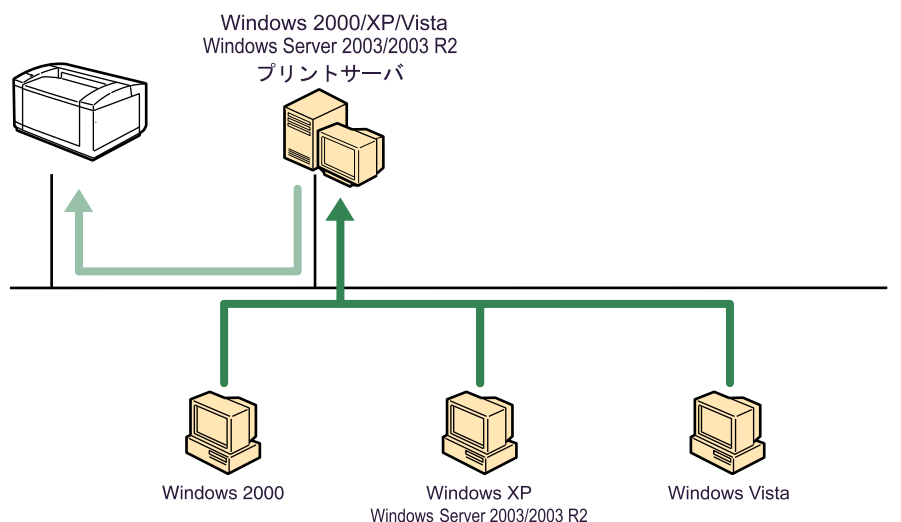
- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。

## 目 参照

- P.19 「Network Monitor for Client ポートを使う」
- P.26 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.28 「LPR ポートを使う」
- P.30 「WSD ポートを使う」

## プリントサーバを使用する

Windows ネットワークプリンターとして使用できます。



BEJ021S

## ↓ 補足

- ネットワークプリンターの種類ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のネットワークプリンターの記載を参照してください。

## 目 参照

- P.33 「Windows ネットワークプリンターを使う」

---

## ローカル接続

---

ローカル接続には、USB 接続とパラレル接続があります。

### ↓ 補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。

### ☰ 参照

- P.35 「USB 接続」
- P.40 「パラレル接続」

# おすすめインストール

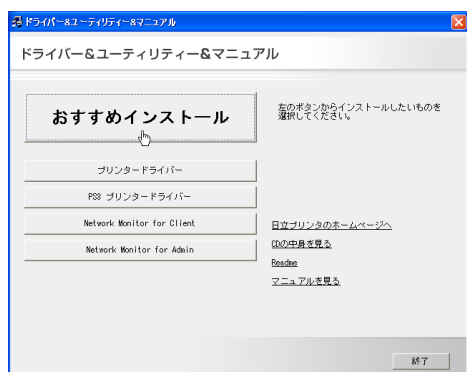
同梱の CD-ROM から簡単にソフトウェアをインストールすることができます。  
[おすすめインストール] ボタンをクリックすると、プリンターをネットワーク接続している場合は「プリンタードライバ」と「Network Monitor for Client」がインストールされ、TCP/IP ポートが設定されます。プリンターをパラレル接続している場合は「プリンタードライバ」がインストールされ、LPT1 ポートが設定されます。

## ★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・ x 64 Edition OS はオートランプログラム非対応となります。  
ご使用の場合は、P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」参照してドライバをインストールしてください。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。



**3** [おすすめインストール] をクリックします。

「使用許諾」ダイアログが表示されます。

**4** ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は [次へ] をクリックします。

**5** [モデル名] をクリックし、使用する機種を選択します。

ネットワーク接続の場合、[接続先] に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。

パラレル接続の場合、[接続先] にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

## 6 [インストール] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされ、「導入完了」ダイアログが表示されます。インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

## 7 [完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示された場合は、Windows を再起動してください。

## 8 最初の画面で [終了] をクリックし、CD-ROM を取り出します。

### ↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- 本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバをインストールすることができません。USB 接続で使用する場合は、「USB 接続」を参照してください。
- パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールをすることができません。「双方向通信が働かない場合」を参照して、本機とパソコン間の双方向通信を設定してください。

### 目 参照

- P.35 「USB 接続」
- P.45 「双方向通信が働かない場合」

# 各ポート別インストール

1

## Network Monitor for Client ポートを使う

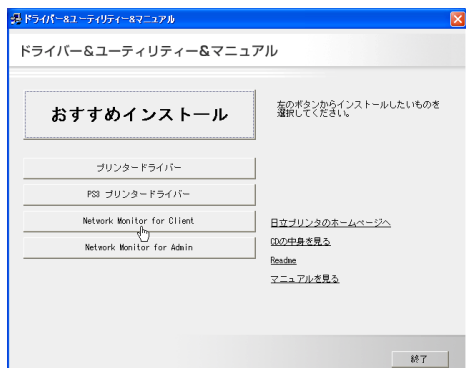
ここでは Network Monitor for Client を使用する場合の方法を説明します。

### ★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Network Monitor for Client をインストールします。

## Network Monitor for Client のインストール

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [Network Monitor for Client] をクリックします。



Network Monitor for Client のインストーラーが起動します。

- 4 Network Monitor for Client のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。
- 5 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。
- 6 [フルインストール] または [カスタムインストール] をクリックします。
- 7 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Client をインストールします。  
インストールが完了するとメッセージが表示されます。

## 8 [完了] をクリックします。

「Windows の再起動」ダイアログが表示されます。Windows を再起動してください。

### ↓ 補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

1

## プリンタードライバーのインストール (TCP/IP)

TCP/IP を使用する場合の、インストール方法です。

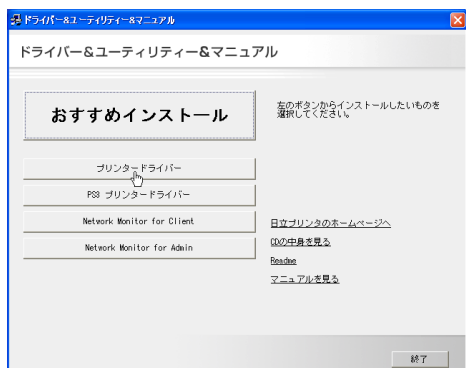
### ★重要

- ・「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログで、使用するプリンタードライバーをチェックし、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

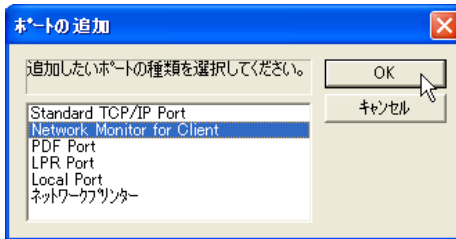
6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバー:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。



**7** [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

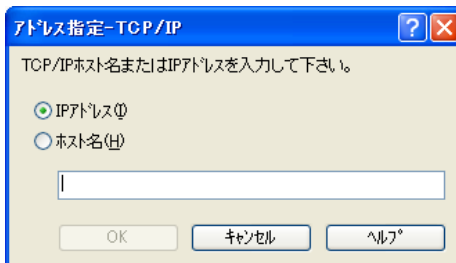
**8** 「Network Monitor for Client」 を選択し、[OK] をクリックします。



**9** [TCP/IP] をクリックします。

**10** [機器検索] をクリックします。

TCP/IP プロトコルで印刷可能なプリンターが検索され、一覧表示されます。コンピューターからのブロードキャストに응答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、[アドレス指定] をクリックし、本機のアドレスまたはホスト名を直接入力してください。



**11** 印刷するプリンターをクリックして選択します。

**12** [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

**13** [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

**14** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

**15** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

**16** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

**17 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。**  
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

**18 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。**  
ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- ・P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

---

## プリンタードライバーのインストール (IPP)

---

IPP を使用する場合のインストール方法です。

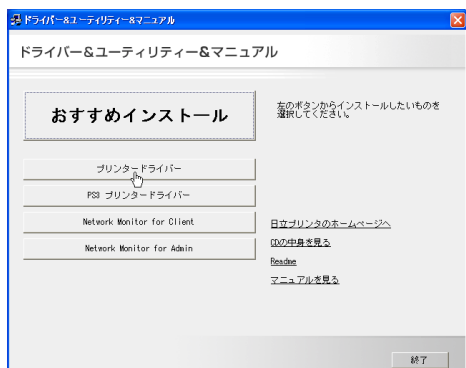
★ 重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。

### 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

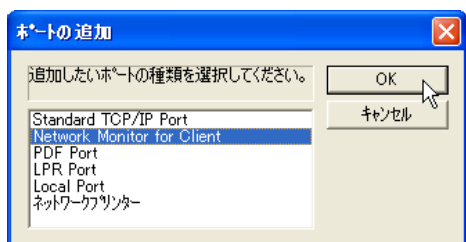
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンタ名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 「Network Monitor for Client」を選択し、[OK] をクリックします。



9 [IPP] をクリックします。

「IPP の設定」ダイアログが表示されます。

10 [プリンタの URL] に「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」のように入力します。

SSL (暗号化通信) の設定を有効にしている場合、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。

[プリンタの URL] には「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /ipp」のように入力することもできます。

- 11** 必要に応じて [IPP ポート名] にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。  
入力を省略すると、[プリンタの URL] に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。
- 12** プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、[詳細設定] をクリックし、必要な項目を設定し、[OK] をクリックします。  
詳しい設定項目については、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。
- 13** [OK] をクリックします。  
「ポートの追加」ダイアログが閉じます。
- 14** [ポート :] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。
- 15** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。  
[ユーザーコード :] をクリックして選択します。  
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。
- 16** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。
- 17** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。  
プリンタードライバがインストールされます。  
インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。
- 18** 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。  
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 19** 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。  
ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

**↓ 補足**

- ・「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」で本機のアドレスを入力するとき、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.034.146」と入力すると、本機に接続できません。
- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

**📖 参照**

- ・P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

## Network Monitor for Client ポートの設定を変更する

TCP/IP のタイムアウト、代行印刷や並行印刷、プリンタグループなど、Network Monitor for Client の設定を変更することができます。

### ■ Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。  
ポートの設定画面が表示されます。

### ■ Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。  
ポートの設定画面が表示されます。

### ■ Windows Vista の場合

- 1 [プリンタ] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。  
ポートの設定画面が表示されます。

#### ↓ 補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定でおこないます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択してください。
- [代行印刷 / 並行印刷] はポート毎に設定できます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択し、[代行 / 並行印刷をポート毎に設定する] にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法の詳細は、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。

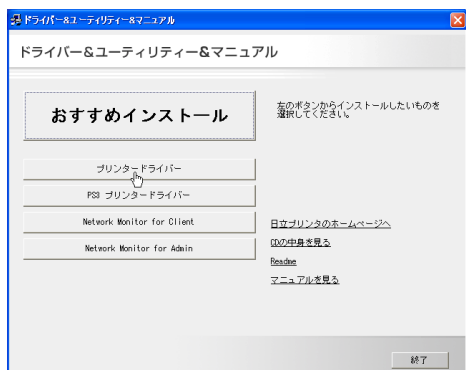
## Standard TCP/IP ポートを使う

Standard TCP/IP ポートを使用する場合の、インストール方法です。

### ★重要

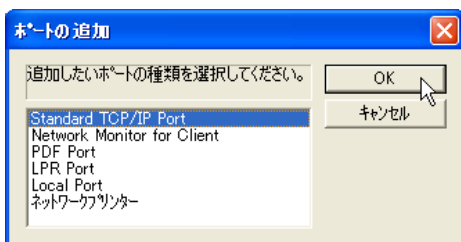
- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



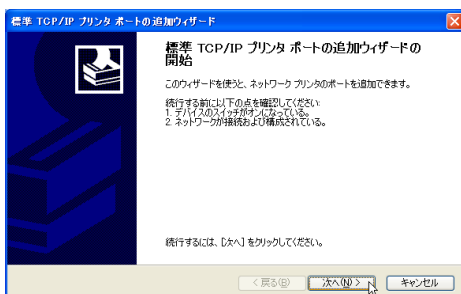
- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。  
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。  
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

## 8 「Standard TCP/IP Port」 を選択し、[OK] をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

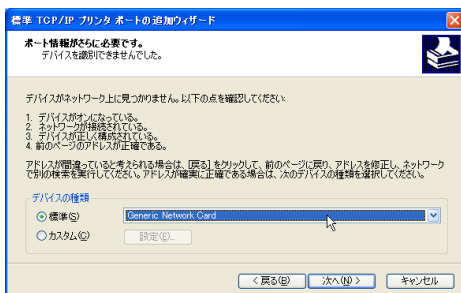
## 9 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の開始画面で、[次へ] をクリックします。



## 10 [プリンタ名または IP アドレス] ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

[ポート名] ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「Generic Network Card」を選択してください。



## 11 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード完了」の画面で、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーの導入画面に戻ります。

## 12 [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

## 13 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

**14** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

**15** [完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

**16** 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

**17** 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- ・P42 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

---

## LPR ポートを使う

---

LPR ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★ 重要

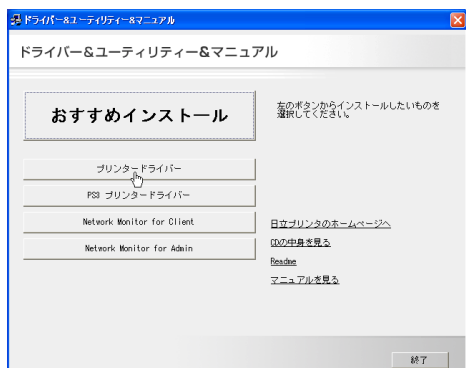
- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。



### 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」 ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」 ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

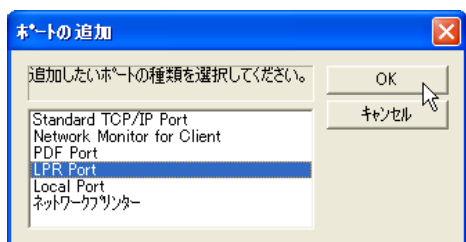
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」 ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 「LPR Port」 を選択し、[OK] をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して組み込んでください。

9 [lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス] ボックスに、本機のアドレスを入力します。

10 [サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名] ボックスに「lp」と入力し、[OK] をクリックします。

ポートが追加されます。

11 [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

## 12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

## 13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

## 14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

## 15 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

## 16 「導入完了」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

### ↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

### E 参照

- P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

---

## WSD ポートを使う

---

WSD ポートを使用する場合の、インストール方法です。

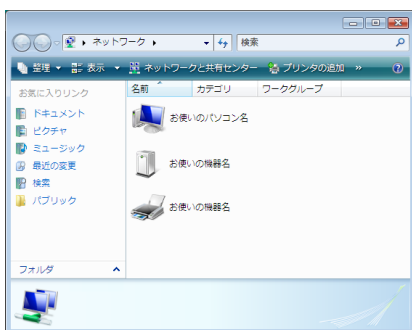
### ★ 重要

- Windows Vista の場合のみご使用いただけます。

- 工場出荷時の設定ではプロトコルが無効になっています。WSD ポートを使用する前に、Web Image Monitor の「IPv4」「IPv6」設定か、telnet の set コマンドで、WS-Device を有効にしてください。設定やコマンドについては、Web Image Monitor のヘルプ、または「telnet を使う」を参照してください。
- 管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。
- WSD ポートを使用して接続した場合、双方向通信が働きません。双方向通信については、「オプション構成の設定」を参照してください。
- 本機とパソコンが異なるネットワークセグメントに接続されている場合や、Windows Vista の「ネットワーク探索」が無効になっている場合、本機を検出することができません。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** [スタート] ボタンをクリックし、[ネットワーク] をクリックします。  
[ネットワーク] ウィンドウが表示され、機器の検索が自動的に始まります。



**3** 本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [インストール] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。  
「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されます。

**4** [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。  
[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

**5** [オンラインで検索しません] をクリックします。

**6** [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します (上級)] をクリックします。

**7** 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

「自動再生」ダイアログが表示された場合は、[クローズ] ボタンをクリックして次の手順に進みます。

**8** [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合「D:¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_XP¥DISK1」です。

## 9 [次へ] をクリックします。

インストールの途中で [ドライバソフトウェアの発行元を検証できません] というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

## 10 [閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「WSD」から始まるポートを [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

### ↓ 補足

- 「WSD」に続くポート名は不特定の文字列になります。任意に変更することはできません。
- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。再度インストールを行う場合は、[ネットワーク] ウィンドウで本機のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [アンインストール] を実行してください。

### E 参照

- P188 「telnet を使う」
- P44 「オプション構成の設定」

# Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

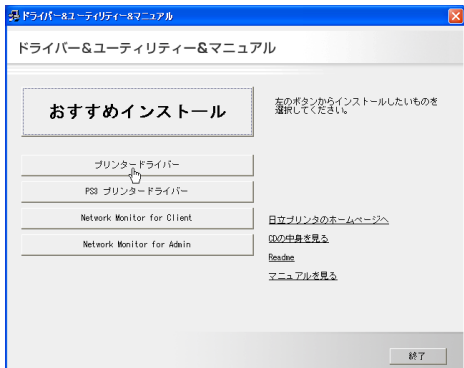
## ★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷を行うことはできません。
- ・Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。

**3** [プリンタードライバー] をクリックします。



**4** 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。

**5** 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

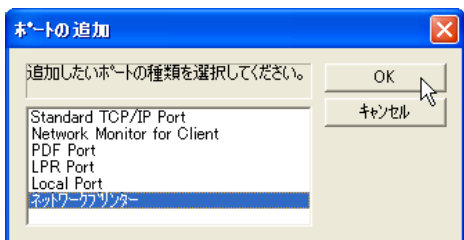
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

**6** 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

**7** [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

**8** [ネットワークプリンター] を選択し、[OK] をクリックします。



**9** ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

**10** 印刷するプリンターを選択し、[OK] をクリックします。

**11** [ポート :] に選択したプリンターのパスが表示されていることを確認します。

**12** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード :] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

**13** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

**14** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

**15** 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。
- ・Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールを続けることができません。インストールをキャンセルしてから、「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して Windows ネットワークプリンターを設定してください。

E 参照

- ・P42 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」
- ・P231 「Windows ネットワークプリンターを設定する」

# USB 接続

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、必要なドライバーをインストールする方法を説明します。

セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- ・ OS 以外のソフトウェアが起動していない
- ・ 印刷を行っていない

1

## Windows 2000 と USB で接続する

Windows 2000 の USB 接続について説明します。

### ★重要

- ・ 管理者権限が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows 2000 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機と同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

- 1** 本機の電源が切れていることを確認します。
- 2** 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。
- 3** 本機の電源を入れます。  
プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。
- 4** [次へ] をクリックします。
- 5** [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 6** [場所を指定] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 7** キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機と同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。  
CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。

**8** [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP\_VISTA¥DISK1」です。

**9** [製造元のファイルのコピー元] にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。

**10** [次へ] をクリックします。

**11** プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

**12** [完了] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- ・P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

## Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の USB 接続について説明します。

★ 重要

- ・管理者権限が必要です Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログインしてください。

USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。



- 1 本機の電源が切れていることを確認します。
- 2 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。
- 3 本機の電源を入れます。  
プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。
- 4 [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 5 キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機と同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。
- 6 [次の場所で最適のドライバを検索する] の [次の場所を含める] をチェックし、[参照] をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。  
インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_VISTA¥DISK1」です。
- 7 プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 プリンタードライバーのインストールが開始されます。  
インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。
- 9 [完了] をクリックします。  
インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷先のポート先] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

**↓ 補足**

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

**📖 参照**

- ・P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

## Windows Vista と USB で接続する

Windows Vista の USB 接続について説明します。

### ★重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

### 1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

[新しいハードウェアが見つかりました] ダイアログが表示されます。

### 2 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は[続行]をクリックします。

[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

### 3 [オンラインで検索しません] をクリックします。

本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

### 4 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

自動的に検索が始まり、プリンタードライバーの一覧が表示されます。

### 5 本機の RPCS プリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

### 6 [閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

### ↓補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

### E 参照

- ・P42 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

## USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルを再接続し、接続した後電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしてしまった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを [ユニバーサル シリアル バス コントローラ] または [USB(Universal Serial Bus) コントローラ] から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の [!] がついたり、黄色の [?] がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

# パラレル接続

プリンターをパラレル接続して使う場合は、プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

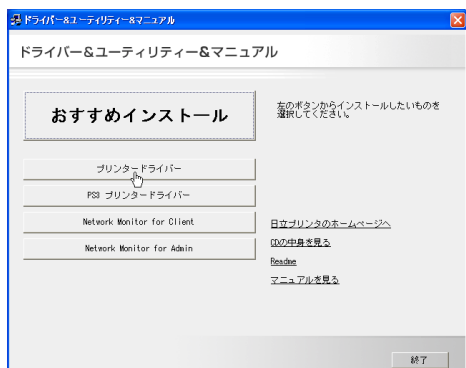
## ★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・パラレル接続をするためには、オプションの拡張 1284 ボードが必要となります。

**1** すべてのアプリケーションを終了します。

**2** 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。  
インストーラーが起動します。

**3** [プリンタードライバー] をクリックします。



**4** 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。

**5** 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

**6** 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

**7** [ポート:] にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。

**8** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

**9** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

**10** [完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。  
インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

**11** 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。  
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

**12** 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。  
「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくことで、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- P.42 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

## CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき

---

1

おすすめインストールに失敗したときは、「Network Monitor for Client ポートを使う」を参照してインストールしてください。CD-ROM の [プリンタードライバー] のインストールにも失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

---

### Windows 2000 の場合

---

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
  - 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
  - 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。  
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。
- 

### Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

---

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
  - 2 [プリンタの追加] をクリックします。
  - 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。  
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_XP¥DISK1、x64 Edition は ¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP\_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。
- 

### Windows XP Home Edition の場合

---

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックします。
- 3 [プリンタと FAX] をクリックします。

**4** [プリンタのインストール] をクリックします。

**5** [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_XP¥DISK1、x64 Edition は ¥DRIVERS¥x64 ¥RPCS¥XP\_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

1

---

## Windows Vista の場合

---

**1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。

**2** [ハードウェアとサウンド] をクリックします。

**3** [プリンタ] をクリックします。

**4** [プリンタのインストール] をクリックします。

**5** [プリンタの追加] に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_XP¥DISK1、x64 Edition は ¥DRIVERS¥x64 ¥RPCS¥XP\_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

# オプション構成の設定

1

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

↓ 補足

- ・本体オプションを設定する方法は、「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

---

## 双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件についての説明です。

### ◆ ネットワーク接続の場合

- ・標準 TCP/IP ポートが使用されている
- ・RPCS プリンタードライバーの [ポート] タブにある [双方向サポートを有効にする] が選択されており、[プリンタプールを有効にする] が選択されていない

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合、上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- ・プロトコルに TCP/IP を使っている
- ・IPP プロトコル使用時に、ポート名に IP アドレスを含んでいる

### ◆ ローカル接続の場合

- ・パソコンが双方向通信に対応している
  - ・プリンターのプロパティで双方向通信が可能な設定になっている
- 上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。
- ・本機の平行コネクタとパソコンの平行コネクタが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている
  - ・本機の USB インターフェースコネクタとパソコンの USB コネクタが、USB ケーブルで接続されている

↓ 補足

- ・Network Monitor for Client は付属の CD-ROM からインストールしてください。



## 双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定します。

### ★重要

- ・ [プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログインしてください。

### 1 Windows XP と Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリーの中から、[プリンタ] をクリックします。

### 2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

### 3 [オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブをクリックします。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

### 4 [オプション選択:] ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。

### 5 SDRAM モジュールを増設した場合は、[トータルメモリー:] で増設後の合計メモリー容量を選択し、[OK] をクリックします。

### 6 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの [印刷設定] をクリックします。

### 7 [基本] タブの [給紙トレイ:] で設定するトレイを選択し、[原稿サイズ]・[原稿方向]・[用紙種類] を正しく設定します。

### 8 [OK] をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。



# 2. プリンタードライバー画面と設定方法

プリンタードライバー画面の説明と、設定方法についての説明です。

2

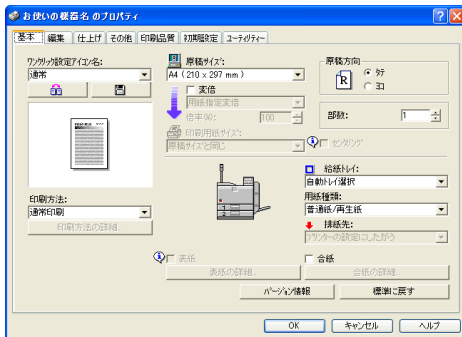
## 2 種類の操作画面

プリンタードライバーの設定画面は「機能別ウィンドウ」と「ワンクリック設定」の2つの表示タイプがあります。

本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方について詳しくはヘルプの「プリンタードライバーのウィンドウタイプを切り替える」を参照してください。

### ◆ 機能別ウィンドウ

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方向向いているウィンドウタイプです。



### ◆ ワンクリック設定

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方向向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

# Windows 2000 の場合

Windows 2000 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

## 2

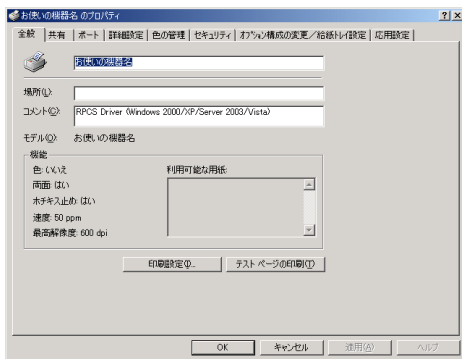
## Windows 2000 で [プリンタ] ウィンドウからプロパティを表示する

[プリンタ] ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

### ★重要

- ・プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

[プリンタ] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更/給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows 2000 が追加するタブで、Windows 2000 の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更/給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

**1** [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

**2** 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

### ↓補足

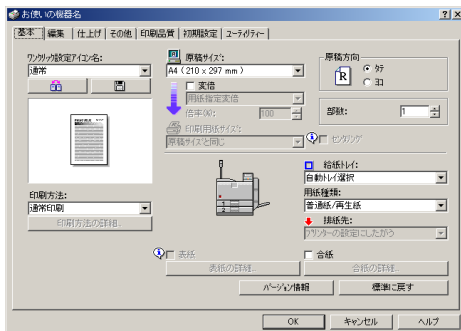
- ・ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- ・設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## Windows 2000 で [プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示する

[プリンタ] ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバの設定画面を表示する方法です。

### ★重要

- ・印刷設定（ドキュメントプロパティ）は、設定項目によって動作が異なります。プリンタードライバごとやプリンターアイコンごと、プリンターアイコンごとのユーザーごとに、それぞれの設定を保持できる設定項目があります。
- ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。[プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質] タブはプリンタードライバの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [印刷設定] をクリックします。  
印刷設定が表示されます。

### ↓補足

- ・ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- ・設定方法の詳細は、プリンタードライバのヘルプを参照してください。

## Windows 2000 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows 2000 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[全般]、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[表紙 / 合紙]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



[全般] タブは Windows 2000 が追加するタブで、Windows 2000 の機能に関する設定を行います。

[基本]、[編集]、[仕上げ]、[表紙 / 合紙]、[その他]、[印刷品質] タブには [プリンタ] ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows 2000 に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

### 1 [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

「印刷」ダイアログが表示されます。

印刷部数や印刷範囲など基本的な項目は、プリンターのプロパティを開かなくても、このダイアログで指定できます。

### 2 プリンターを選択し、右クリックして [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

#### 補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の手順はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの「印刷」ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

# Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

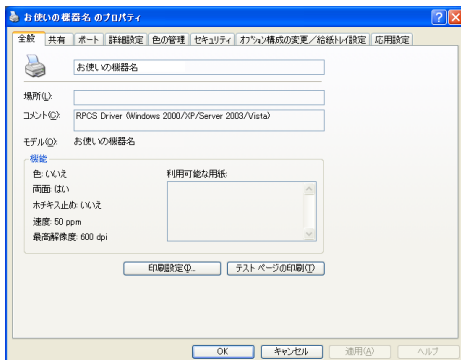
2

## Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で [プリンタと FAX] ウィンドウからプロパティを表示する

[プリンタと FAX] ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

### ★重要

- Windows XP Professional および Windows Server 2003/2003 R2 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
  - プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
  - アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- [プリンタと FAX] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更/給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 が追加するタブで、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更/給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。  
プリンターのプロパティが表示されます。

↓ 補足

- ・ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- ・設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

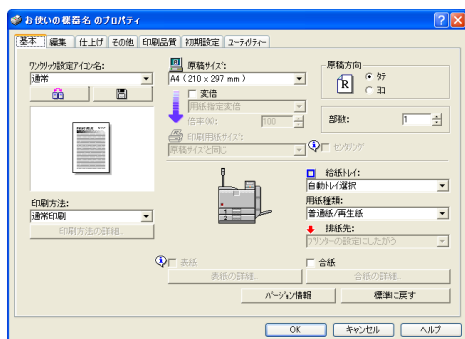
2

## Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で [プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示する

[プリンタと FAX] ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

★ 重要

- ・印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。
  - ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- [プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[印刷設定] をクリックします。  
印刷設定が表示されます。

↓ 補足

- ・ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- ・設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。



## Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。

2



これらのタブには [プリンタと FAX] ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

**1** [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

**2** プリンターを選択し、[詳細設定] をクリックします。

「印刷設定」ダイアログが表示されます。

### 補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの「印刷」ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## Windows Vista の場合

Windows Vista で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

### 2

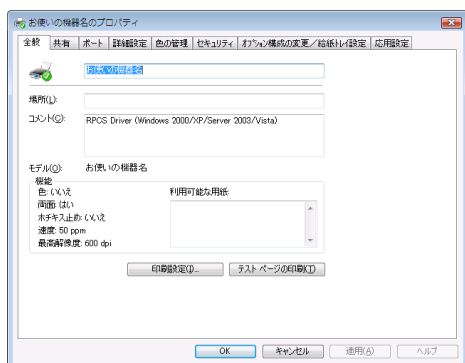
## Windows Vista で [プリンタ] ウィンドウからプロパティを表示する

[プリンタ] ウィンドウから、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

### ★重要

- ・プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

Windows Vista では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows Vista が追加するタブで、Windows Vista の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ハードウェアとサウンド] カテゴリーの中から、[プリンタ] をクリックします。
- 3 初期値を設定するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックします。  
プリンターのプロパティが表示されます。

### ↓補足

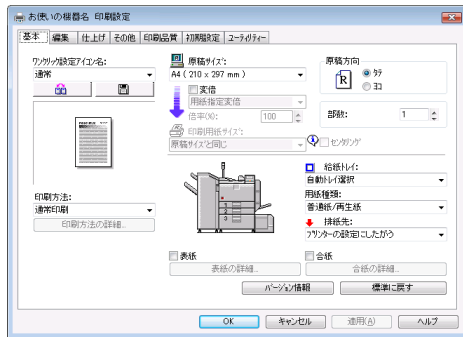
- ・ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- ・設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## Windows Vista で [プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示する

[プリンタ] ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

### ★重要

- ・印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。
  - ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- [プリンタ] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ハードウェアとサウンド] のカテゴリの中から、[プリンタ] をクリックします。
- 3 初期値を設定するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [印刷設定] をクリックします。  
印刷設定が表示されます。

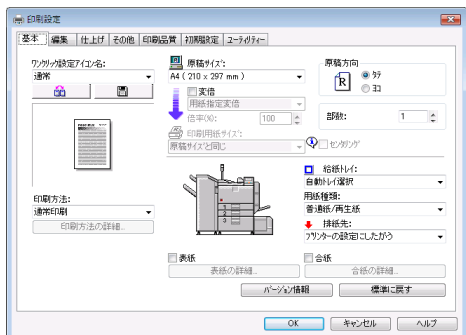
### ↓補足

- ・ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- ・お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- ・設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## Windows Vista でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows Vista で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



これらのタブには [プリンタ] ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows Vista に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

**1** [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

**2** 本機を選択し、[詳細設定] をクリックします。

「印刷設定」ダイアログが表示されます。

### 補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの「印刷」ダイアログから表示したプロパティは、標準ユーザーでも変更することができます。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

# 3. いろいろな印刷

PDF ファイルの直接印刷、試し印刷、機密印刷、強制印刷や印刷の中止、およびソートなどの注意事項についての説明です。

## PDF ファイルを直接印刷する

3

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

### ★重要

- この機能は、PS3 カードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは、1.3、1.4、1.5、1.6 です。
- PDF バージョン 1.4 の固有機能である Transparency を使用した PDF ファイルは印刷できない場合があります。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter、16bit カラーイメージには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能には対応していません。
- 当社の複合機のスキャナー機能で作成されたクリアライト PDF は印刷できない場合があります。

### ↓補足

- 不定形サイズ用の紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

## コマンドを使用する

UNIX から、ftp、lpr などのコマンドを使用して、PDF ファイルを直接印刷できます。

### E 参照

- P.235 「セットアップ」

## 文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷は、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」により構成されています。

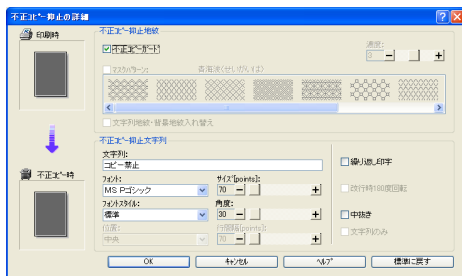
### ★重要

- ・不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。

## 不正コピーガード機能

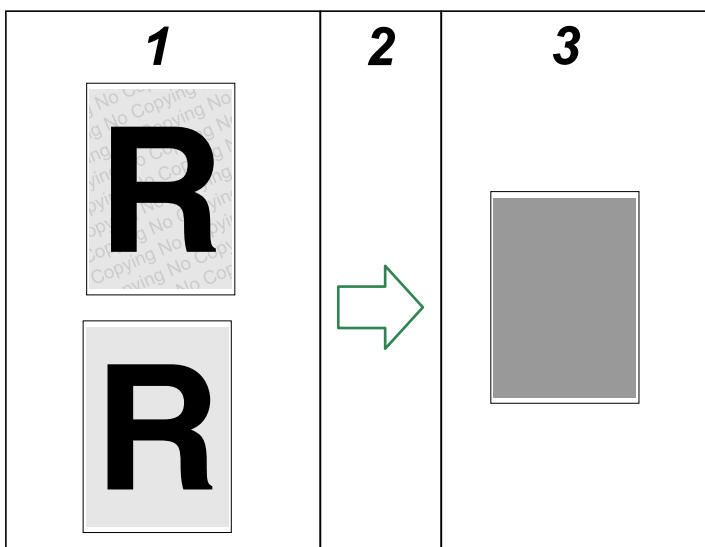
プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。

### ◆必要な設定項目



- ・[不正コピーガード] のチェックボックスにチェックを入れます。[文字列] に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- ・[マスクパターン] を選択することはできません。

### ◆不正コピーガード機能を使って印刷された文書をコピーすると



BEK229S

- 1 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。
- 2 当社の不正コピーガードモジュールが搭載された複写機/複合機を使って、コピーを行います。
- 3 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

#### ↓ 補足

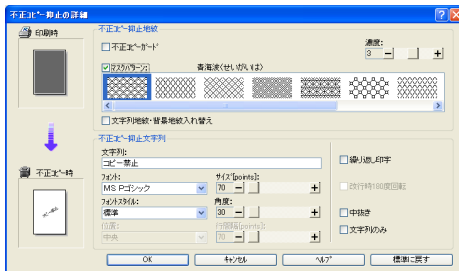
- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面での詳しい設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは当社の複合機/複写機用のオプションです。本機には装着できません。

3

## マスクパターン

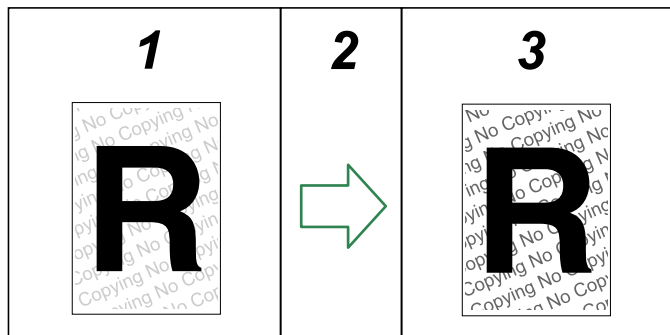
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

### ◆ 必要な設定項目



- [マスクパターン:] で不正コピー抑止地紋を選択し、[文字列] で不正コピー抑止文字列を設定します。
- [色:] からブラック、マゼンタ、シアンのいずれかの色を設定します。
- [文字列:] だけを設定することはできますが、[マスクパターン:] だけを設定することはできません。

## ◆ 不正コピー抑止印刷機能を使って印刷された文書をコピーすると



BEK228S

- 1 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。
- 2 複写機／複合機を使って、コピーを行います。
- 3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

↓ 補足

- ・RPCS プリンタードライバにのみ対応しています。
- ・印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- ・地紋効果は、コピー結果をすべて保証しているものではありません。またコピー結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- ・地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- ・「不正コピー抑止の詳細」画面での詳しい設定方法は、プリンタードライバのヘルプを参照してください。

## おことわり

- 1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
- 2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおい兼ねますので、あらかじめご了承ください。



# 文書印刷機能を使用する

本機に蓄積された文書を印刷する、文書印刷機能の説明です。

文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機のハードディスクに蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。

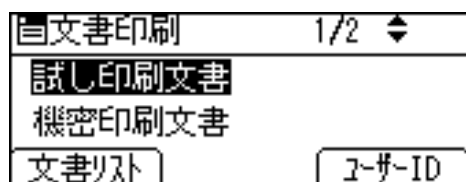
試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。

## 文書印刷画面を表示する

本機にハードディスクが装着されている場合、電源を入れたときに以下の初期画面が表示されます。



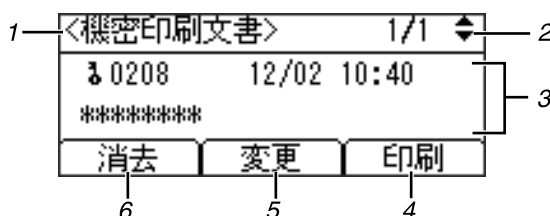
初期画面で [文書印刷] を押すと、文書印刷の種類を選択する画面が表示されます。



文書を選択する画面は、[文書リスト] を押したときに表示される文書一覧画面と、[ユーザーID] を押したときに表示されるユーザーID一覧画面の2種類があります。

### ◆ 文書一覧画面

プリンター初期画面で [文書印刷] を押して文書印刷の種類を選択し、[文書リスト] を押すと、次の画面が表示されます。



#### 1 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

#### 2 画面ページ数表示

蓄積されている文書を表示します。[▲] [▼] キーを押すごとに選択した種類の印刷文書を1画面ずつ表示します。

**3 ユーザー ID / 日時 / 文書名表示**

- ・ユーザー ID には、プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。
- ・日時には、パソコンから印刷を指示した時刻が表示されます。
- ・文書名には文書名が表示されますが、機密印刷文書は文書名が「\*\*\*\*\*」と表示されます。

**4 [印刷]**

選択している文書を印刷します。

**5 [変更]**

保存文書にパスワードを追加したり、パスワードを設定した文書からパスワードを変更または削除できます。パスワードを変更または削除する場合は、[変更] を押して最初に設定したパスワードを入力した後、新しいパスワードを入力するか、削除する場合は新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに [OK] キーを押します。機密印刷文書に対しては、パスワードの変更ができます。

**6 [消去]**

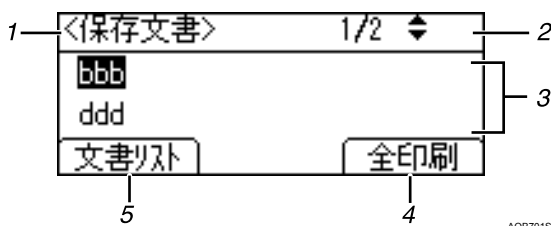
選択している文書を消去します。

**↓ 補足**

- ・パスワードの変更、削除に関しては、最初に設定したパスワードを正しく入力してください。パスワードが一致しない場合、パスワードの変更、削除はできません。
- ・[変更] を押してパスワードを追加、削除する機能は保存文書が本機に蓄積されている場合に使用できます。

**◆ ユーザー ID 一覧画面**

プリンター初期画面で [文書印刷] を押して文書印刷の種類を選択し、[ユーザー ID] を押すと、次の画面が表示されます。

**1 文書印刷機能表示**

選択した文書印刷の種類を表示します。

**2 画面ページ数表示**

現在のページ番号を表示します。[▲] [▼] キーを押すごとに画面を切り替えます。

**3 ユーザー ID**

- ・選択した種類の文書を蓄積しているユーザーの ID が表示されます。
- ・プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。

**4 [全印刷]**

選択した ID のユーザーが蓄積した文書をすべて印刷します。

## 5 [文書リスト]

文書一覧画面の表示に切り替えます。ここでは、ユーザー ID 画面で選択したユーザーのジョブのみが表示されます。

### ↓ 補足

- 文書を選択を取りやめる場合は、[戻る] キーを押します。
- 文書一覧やユーザー ID 一覧を表示しているときに新たに文書が蓄積された場合、表示は更新されません。表示を更新するには、いったん [戻る] キーをプリンター画面に戻るまで押してから、もう一度 [文書印刷] を押してください。
- 本機に多くの文書を蓄積・保存している場合は、お使いの機能によっては機器の反応が一時的に遅くなることがあります。

# 文書一覧画面から文書を印刷する

ここでは、試し印刷、機密印刷、保留印刷、保存印刷について記載しています。

## 試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に1部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

### ★重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - ハードディスクが装着されていない場合
  - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が100ジョブのときに、送信された101番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - 1文書あたり1,000ページを超える文書
  - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて9,000ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）

## ■ 1部目を印刷する

- 1 試し印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバーの【印刷設定】の【基本】タブで、【印刷方法】から【試し印刷】を選択します。  
「ワンクリック設定」を選択しているときは、【印刷機能】タブをクリックします。
- 3 【印刷方法の詳細】をクリックします。  
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 【ユーザーID】を半角英数字8文字以内で入力します。
- 5 【OK】をクリックします。
- 6 印刷の指示をします。  
1部目が印刷され、本機に文書が蓄積されます。
- 7 印刷結果を確認し、操作部から2部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

### 補足

- ・ハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ここでは RPCS プリンタードライバを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバを使用した場合は『PostScript 3』使用説明書を参照してください。
- ・本体の電源を「Off」にしても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

### 参照

- ・P.150 「エラー履歴を確認する」
- ・P.119 「調整 / 管理メニュー」

## 2 部目以降を印刷する

試し印刷で、2 部目以降を印刷する方法です。

### 重要

- ・印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

#### 1 [文書印刷] を押します。

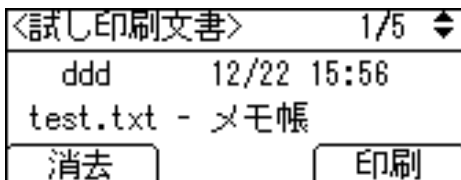


- 2 [▼] [▲] キーを押して [試し印刷文書] を選択し、[文書リスト] を押します。  
[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている試し印刷文書の一覧が表示されます。セキュリティの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

- 4 [印刷] を押します。  
2 部目以降が印刷されます。

### 補足

- ・印刷を中止する場合は、[取消] を押します。
- ・2 部目以降の印刷中に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- ・他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- ・蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

### 参照

- ・P.77 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

## 3

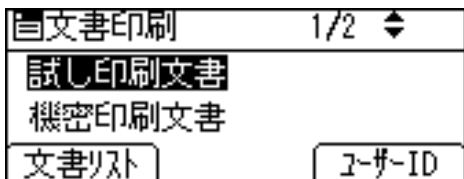
## 試し印刷文書を消去する

試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

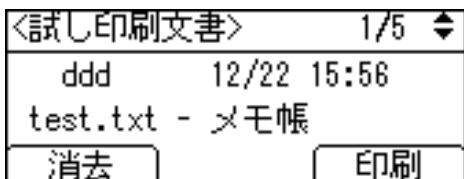
### 1 [文書印刷] を押します。



### 2 [▼][▲]キーを押して[試し印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。 セキュリティの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。



### 3 [▼][▲]キーを押して消去したい文書を選択し、[消去]を押します。



消去の確認画面が表示されます。

### 4 [消去] を押します。

文書が消去されます。

### 補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

## 機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

### ★重要

- ・ 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - ・ ハードディスクが装着されていない場合
  - ・ 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - ・ 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - ・ 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）

## ■ プリンターに文書データを送る

1 機密印刷する文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバの [印刷設定] の [基本] タブで、[印刷方法] から [機密印刷] を選択します。

「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。

3 [印刷方法の詳細] をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 [パスワード] を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。

6 [OK] をクリックします。

パスワードの確認画面が表示されます。

7 パスワードを再度入力して、[OK] をクリックします。

8 印刷の指示をします。

本機に文書が蓄積されます。

9 操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。

### ↓補足

- ・ ハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ ここでは RPCS プリンタードライバを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバを使用した場合は『PostScript 3』使用説明書を参照してください。

- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

#### 目 参照

- P.150 「エラー履歴を確認する」
- P.119 「調整 / 管理メニュー」

## 操作部を使って機密印刷する

### 3

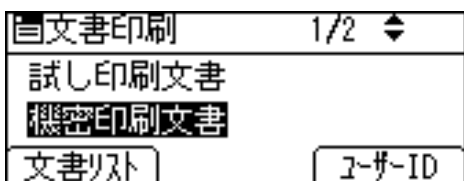
#### ★重要

- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。

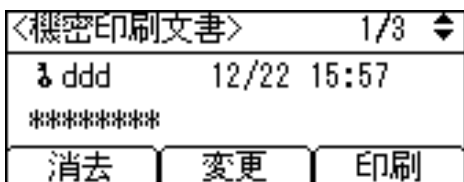


2 [▼][▲]キーを押して[機密印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。  
[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている機密印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

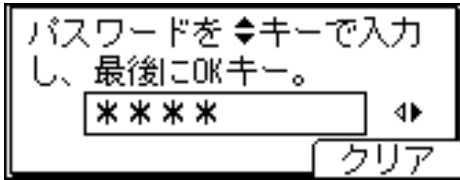
3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



パスワード入力画面が表示されます。



#### 4 スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



印刷の確認画面が表示されます。入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されますので [確認] を押して、再度入力します。

パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

#### 5 [印刷] を押します。

機密印刷文書が印刷されます。

##### ↓ 補足

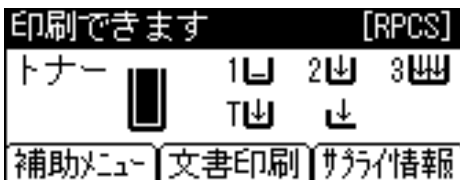
- 印刷を中止する場合は、[取消] を押します。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

##### 目 参照

- P.77 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

## 機密印刷文書を消去する

#### 1 [文書印刷] を押します。



#### 2 [▼][▲] キーを押して [機密印刷文書] を選択し、[文書リスト] を押します。



本機に蓄積されている機密印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

**3** [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。

<機密印刷文書>		1/3
ddd	12/22	15:57
*****		
消去	変更	印刷

パスワード入力画面が表示されます。

**4** スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。

パスワードを ◆キーで入力 し、最後にOKキー。	
*****	◀▶
クリア	

消去の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されます。[確認] を押して、再度入力します。パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

**5** [消去] を押します。

文書が消去されます。

↓ 補足

- ・ 消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

## 保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

★ 重要

- ・ 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - ・ ハードディスクが装着されていない場合
  - ・ 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - ・ 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - ・ 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）

## ■ プリンターに文書データを送る

- 1 保留印刷文書で印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバの [印刷設定] の [基本] タブで、[印刷方法] から [保留印刷] を選択します。  
「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。
- 3 [印刷方法の詳細] をクリックします。  
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 印刷の指示をします。  
文書が本機に蓄積されます。

### ↓ 補足

- ハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバを使用した場合は『PostScript 3』使用説明書を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- 保留文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

### 目 参照

- P.150 「エラー履歴を確認する」
- P.119 「調整 / 管理メニュー」

## 操作部を使って保留文書を印刷する

### ★重要

- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

#### 1 [文書印刷] を押します。

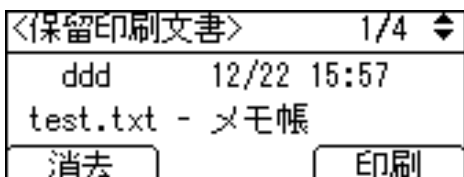


- #### 2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。
- [ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている保留印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- #### 3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。

- #### 4 [印刷] を押します。

保留文書が印刷されます。

### ↓補足

- 印刷を中止する場合は、[取消] を押します。
- 保留印刷文書として蓄積された文書を印刷するときに、部数の変更はできません。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

### 目参照

- P.77 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

## 保留印刷文書を消去する

- 1 [文書印刷] を押します。

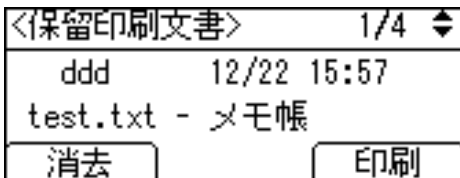


- 2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



本機に蓄積されている保留印刷文書が1文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼][▲]キーを押して消去したい文書を選択し、[消去]を押します。



消去の確認画面が表示されます。

- 4 [消去] を押します。

文書が消去されます。



補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

## 保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されないの、繰り返し印刷するときなどに有効です。



重要

- ・以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - ・ハードディスクが装着されていない場合
  - ・本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が100ジョブのときに、送信された101番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - ・1文書あたり1,000ページを超える文書
  - ・送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて9,000ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）

## ■プリンターに文書データを送る

- 1 保存文書にする文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバのプロパティの [基本] タブで、[印刷方法] から [プリンターに保存する] または [プリンターに保存して印刷] を選択します。
  - ・ [プリンターに保存する] を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
  - ・ [プリンターに保存して印刷] を選択した場合は、1 部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。
  - ・ 「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。
- 3 [印刷方法の詳細] をクリックします。  
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 印刷の指示をします。  
本機に文書が蓄積されます。

### ↓ 補足

- ・ ハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ ここでは RPCS プリンタードライバを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバを使用した場合の説明については、『PostScript 3』使用説明書を参照してください。
- ・ 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保存印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- ・ 保存文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

### 目 参照

- ・ P.150 「エラー履歴を確認する」
- ・ P.119 「調整 / 管理メニュー」

## 操作部を使って保存文書を印刷する

- 1 [文書印刷] を押します。



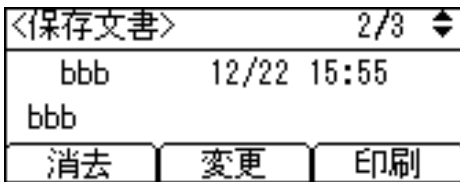
- 2 [▼] [▲] キーを押して [保存文書] を選択し、[文書リスト] を押します。



蓄積されている保存文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間やユーザーID、文書名が表示されます。

- 3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

- 4 [印刷] を押します。

保存文書が印刷されます。

印刷が終了しても、保存文書は消去されません。

### ↓ 補足

- 印刷を中止する場合は、[取消] を押します。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。[ジョブリセット] を押しても、保存文書は消去されません。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。
- 文書にパスワードを追加するには、文書一覧画面で [変更] を押して、パスワードを設定します。
- 文書に設定したパスワードを削除するには、文書一覧画面で [変更] を押して、設定したパスワードを入力して [OK] キーを押し、新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに [OK] キーを押します。

## 保存文書を消去する

- 1 [文書印刷] を押します。



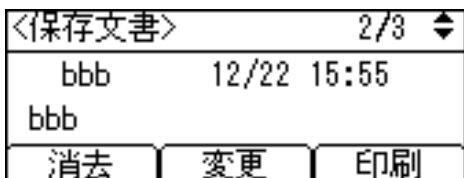
3

- 2 [▼] [▲] キーを押して [保存文書] を選択し、[文書リスト] を押します。



蓄積されている保存文書が1文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



消去の確認画面が表示されます。

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

- 4 [消去] を押します。

文書が消去されます。

### 補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。



# ユーザー ID 一覧から文書を印刷する

ユーザー ID 一覧から文書を選択し、印刷する方法の説明です。

## 文書を選択して印刷する場合

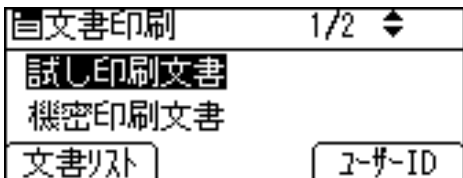
### ★重要

- 印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザー ID] を押します。



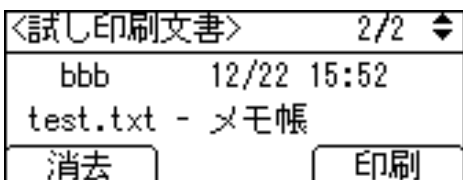
選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザー ID 一覧が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、[文書リスト] を押します。



選択したユーザー ID が蓄積した文書のみが 1 文書ずつ表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷を取りやめる場合は、[取消] を押します。

**5** 【印刷】 を押します。

選択した文書が印刷されます。

**↓** 補足

- ・手順4で【印刷】の代わりに【消去】を押すと、表示されている文書を消去できます。

**文書をすべて印刷する場合****★**重要**3**

- ・印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

**1** 【文書印刷】 を押します。**2** [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザーID] を押します。

選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザーID一覧が表示されます。

**3** [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザーIDを選択し、【全印刷】を押します。

選択した種類の文書印刷を蓄積しているユーザーIDの文書をすべて印刷します。選択した種類以外の印刷文書は、同じユーザーIDで本機に蓄積していても、印刷されません。



【機密印刷文書】、【保留印刷文書】を選択した場合は、印刷の確認画面が表示されます。【試し印刷文書】、【保存文書】を選択した場合は、部数を設定する画面が表示されます。

#### 4 [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定します。

1111
文書数：3
部数： <input type="text" value="2"/> <1~999>
<input type="button" value="取消"/> <input type="button" value="印刷"/>

#### 5 [印刷] を押します。

印刷が実行されます。印刷を中止する場合は [取消] を押します。

#### ↓ 補足

- ・蓄積されていない種類の文書を選択することはできません。
- ・保存文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。部数を指定しなかった場合は、設定してある部数中もっとも少ない部数で、すべての文書が印刷されます。
- ・複数の文書がある試し印刷文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。確認画面で部数を指定しなかった場合は、設定した中でもっとも少ない部数より 1 部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した部数の中でもっとも少ない部数が 1 の場合は、すべての文書が 1 部ずつ印刷されます。
- ・機密印刷文書を選択した場合は、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書だけが印刷の対象になります。
- ・保存文書を選択した場合、蓄積されている保存文書にパスワードが設定されているときは、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書と、パスワードが設定されていない文書だけが印刷の対象になります。

## 強制印刷する

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致するトレイがないときや、本機にセットした用紙がなくなったときは、操作部に警告画面が表示されます。この場合、トレイを選んで強制印刷するか、印刷を中止することができます。

### ★重要

- 以下の場合、トレイを変更して強制印刷することはできません。
  - 両面印刷ができないトレイを指定して、両面印刷を設定している場合
  - 表紙を設定している場合
  - 合紙を設定している場合

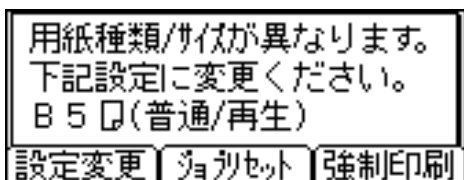
### ↓補足

- 以下の場合、機能を解除すると、トレイを変更して強制印刷することができます。
  - 両面印刷を設定している場合
  - ステープルを設定している場合
- エラースキップの設定がされている場合は、設定時間経過後に、いずれかのトレイの用紙で印刷されます。

## トレイを選んで印刷するとき

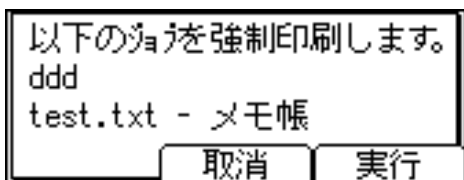
トレイを選んで強制印刷する方法です。

### 1 警告画面で [強制印刷] を押します。



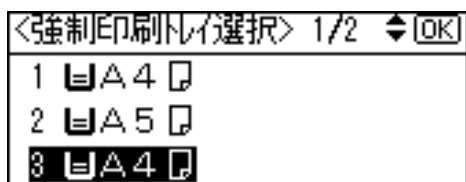
確認画面が表示されます。

### 2 [実行] を押します。



強制印刷を取り消す場合は、[取消] を押します。

- 3 [▼] [▲] キーを押して使用するトレイを選択し、[OK] キーを押します。



選んだトレイで印刷されます。

用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

↓ 補足

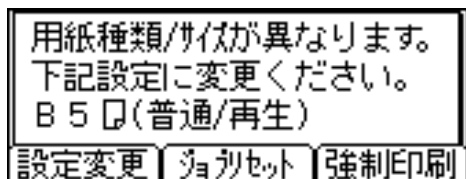
- ・用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。

3

## 印刷を中止するとき

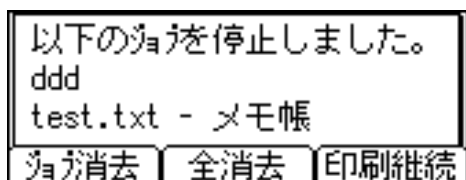
印刷を中止する方法です。

- 1 警告画面で [ジョブリセット] を押します。



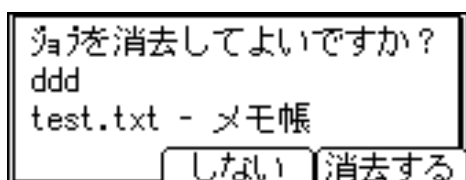
蓄積されている印刷データを消去して印刷を中止します。確認画面が表示されます。

- 2 現在のジョブを中止する場合は、[ジョブ消去] を押します。すべてのジョブを中止する場合は、[全消去] を押します。



印刷を継続したい場合は、[印刷継続] を押します。

- 3 [消去する] を押します。



文書が消去されます。

消去を取り消す場合は、[しない] を押します。

↓ 補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、[インターフェース設定] の [インターフェース切替時間] を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

# 印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状況によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

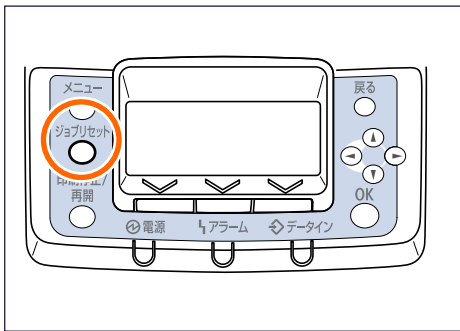
- 1 印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。  
データが印刷されていなくてもデータインランプが点滅 / 点灯していれば、本機はデータを受信しています。
- 2 印刷を中止します。  
データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

3

## 中止したいデータが印刷されている場合

印刷を中止したいデータが印刷されている場合の、操作方法です。

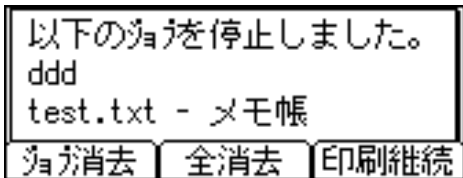
- 1 [ジョブリセット] キーを押します。



BEJ080S

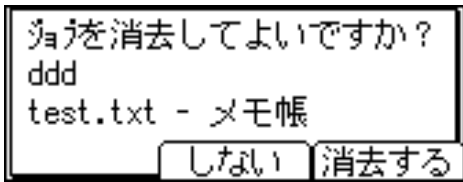
確認画面が表示されます。

- 2 [ジョブ消去] を押します。



印刷を継続したい場合は、[印刷継続] を押します。

### 3 [消去する] を押します。



文書が消去されます。

消去を取り消すときは、[しない] を押します。

#### ↓ 補足

3

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、[インターフェース設定] の [インターフェース切替時間] を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

## 中止したいデータが印刷されていない場合

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

- 1 Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。  
印刷中のプリンターのウィンドウが開くので、印刷を中止する文書の状態を確認します。
- 2 印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。
- 3 [ドキュメント] メニューの [キャンセル] をクリックします。  
印刷が中止されます。

#### ↓ 補足

- [プリンタ] メニューの [すべてのドキュメントの取り消し] をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、[すべてのドキュメントの取り消し] を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。



# エラー履歴を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラー履歴が残り、操作部で確認することができます。

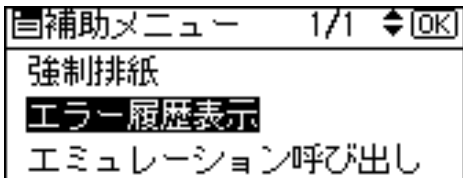
## ★重要

- ・エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし最も古い履歴が次の文書の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー履歴として、どちらの履歴も確認することができます。
  - ・ 試し印刷文書
  - ・ 機密印刷文書
  - ・ 保留印刷文書
  - ・ 保存文書
- ・ 本体の電源を「Off」にすると、それまでの履歴は消去されます。

### 1 [補助メニュー] を押します。

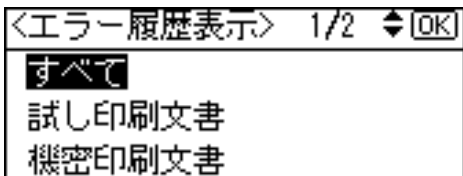


### 2 [▼][▲] キーを押して [エラー履歴表示] を選択し、[OK] キーを押します。



エラー履歴が表示されます。セキュリティの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

### 3 [▼][▲] キーを押してエラー履歴の種類を選択し、[OK] キーを押します。



[すべて]、[機密印刷文書]、[試し印刷文書]、[保留印刷文書]、[保存文書] から選択することができます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して確認したいエラー履歴を選択し、[戻る] キーを押します。

```
<エラー履歴:すべて> 1/3 ⚡
  12 ddd      12/22 16:30
  test.txt - メモ帳
  ▶ ジョブリセット
```

エラー履歴の詳細が表示されます。  
確認し終わったら [メニュー] キーを押します。

# ソートについて

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

## ★重要

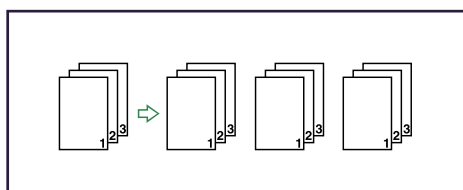
- ・ソートを行うには、384MB（標準 + 128 MB）以上の RAM またはハードディスクが必要です。

## ↓補足

- ・ソート可能なページ数は、以下の条件によって異なります。
  - ・ハードディスクが装着されている場合：1,000 ページ
  - ・RAM のみの場合：100 ページ

## ◆ソート

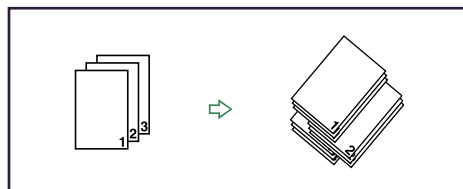
1部ずつそろえて印刷します。



BAS053S

## ◆シフトソート

フィニッシャーを装着時のみ可能な機能で、ジョブごとに印刷した紙をずらして排出するので、部や動作の区切りが分かります。



BAS055S

## ↓補足

- ・一部目でエラースキップが発生した場合は、ソートは解除されます。
- ・一部目で強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## スプール印刷について

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのと看、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

### ★重要

- ・スプール印刷を行うには、ハードディスクが必要です。
- ・スプール印刷中は、ハードディスクへのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、ハードディスクが破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。
- ・「diprint」「ftp」「IPP」「LPR」「SMB (TCP/IP (IPv4))」「sftp」以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。
- ・本機の操作部の画面にはスプールジョブの一覧は表示されません。

### ◆スプール印刷を設定する

Web ブラウザーと telnet で設定できます。

- ・Web ブラウザーの場合  
詳しくは「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ・telnet の場合  
「spoolsw spool on」で設定します。詳しくは「telnet を使う」を参照してください。

### ◆Web ブラウザーからスプールジョブを閲覧・削除する

Web ブラウザーを起動し、URL としてプリンターの IP アドレスを指定すると、Web Image Monitor のトップページが表示されます。

詳しくは「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

### ↓補足

- ・一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- ・スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。
- ・プリンターに蓄積されたスプールジョブは、Web ブラウザーから閲覧や削除をすることができます。

### ☰参照

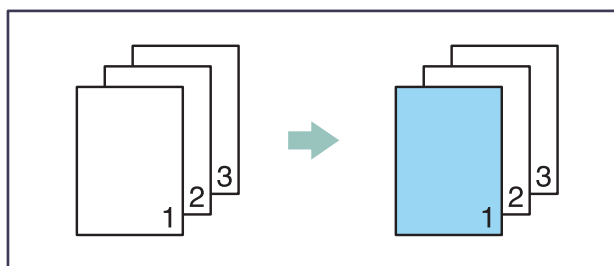
- ・P.188 「telnet を使う」
- ・P.153 「Web ブラウザーを使う」

# 表紙について

表紙用の用紙に印刷します。表紙には両面印刷することもできます。

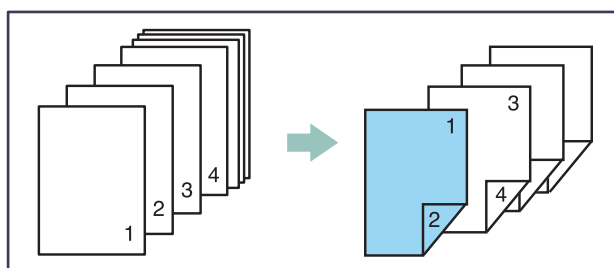
## ★重要

- ・ソートの設定が必要です。
- ・表紙用の用紙に印刷するとき



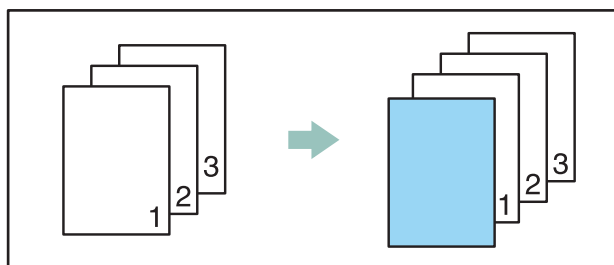
BAB039S

- ・表紙用の用紙に印刷するとき（両面）



BAB040S

- ・表紙用の用紙に印刷しないとき



BAB041S

## ↓補足

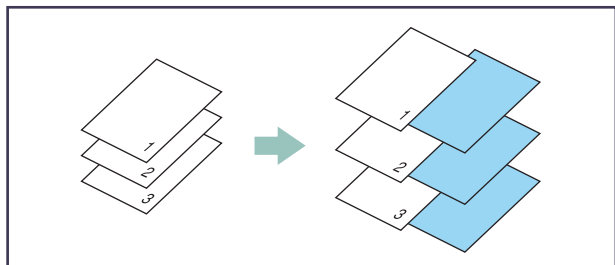
- ・表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## 合紙について

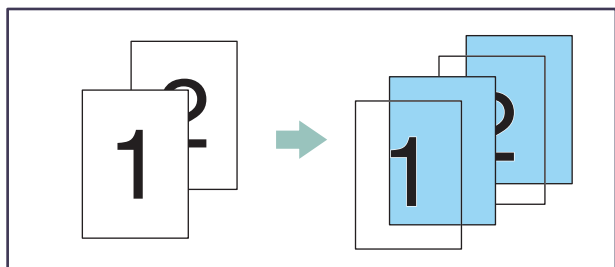
ページごとに合紙を挿入します。

★重要

- ・両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。



BAC019S



BAC020S

↓補足

- ・ソートは設定できません。

# 印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンでプリンターを共有している場合で、その中に DOS で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。

通常、DOS から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS から印刷するときのエミュレーション（または、プログラム）を選択しておくこと、次の印刷が DOS からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷することができます。

3

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの設定画面を表示します。
- 2 ウィンドウタイプとして「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブで [アイコンの変更/新規作成] をクリックし、[その他] タブをクリックします。  
「機能別ウィンドウ」を選択しているときは、[その他] タブをクリックします。
- 3 [印刷後のエミュレーション] ボックスのドロップダウンメニューからエミュレーションを選択します。  
Windows だけでお使いの場合は、[なし] または [直前のエミュレーション] を選択してください。[直前のエミュレーション] を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。
- 4 「ワンクリック設定」選択時は [名前をつけて保存] または [上書き保存] をクリックし、設定を保存します。
- 5 その他の印刷条件を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。  
プリンタードライバーの設定画面が閉じます。
- 6 印刷の指示をします。

## フィニッシャーについて

フィニッシャーを本機に取り付けることにより、ステープルやパンチが可能になります。

### ★重要

- ・プリンターとパソコンが双方向通信していないときは、必ずプリンタードライバーでオプションの設定をしてください。
- ・両面 / 製本印刷、集約印刷、ステープル、パンチを使用するときには、必ずプリンタードライバーで原稿サイズと原稿方向を設定してください。

### ↓補足

- ・ご使用になるアプリケーションによっては印刷時の設定が有効にならず、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・プリンタードライバーでステープルやソート（部単位印刷）の設定をするときは、アプリケーションの部単位印刷設定が無効になっていることを確認してください。アプリケーションの部単位印刷を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・紙づまりの位置によって、エラー対処後の印刷再開動作は異なります。
  - ・フィニッシャー側で紙づまりが発生した場合：紙づまりの位置によって、印刷中のデータの先頭ページまたは紙づまりが発生したページから印刷を再開します。
  - ・本機側で紙づまりが発生した場合：印刷中のデータの紙づまりが発生したページから印刷を再開します。
- ・本機側で紙づまりが発生した場合でも、フィニッシャーカバーの開閉を行わないとエラーが解除されない場合があります。
- ・紙づまりしたときは、『ハードウェアガイド』「用紙がつまったとき」を参照してください。
- ・両面 / 製本印刷、集約印刷、ステープル、パンチの設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。



## ステープルについて




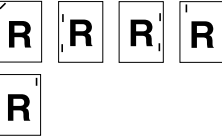

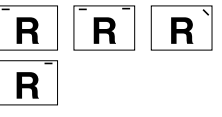





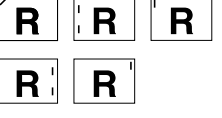
本機では、フィニッシャーを取り付けることによって、印刷物を 1 部ずつステープルすることができます。

### ★重要

- ・ステープルを行うには、384MB（標準 + 128 MB）以上の RAM またはハードディスクが必要です。
- ・フィニッシャーが装着されているときのみ有効です。

## ステープルの位置

印刷方向と用紙セット方向によって、指定できるステープル位置は異なります。ステープルできる位置の説明です。

本機の用紙方向	印刷データの方向	仕上がり
		3000枚フィニッシャー
 	 タテ	
	 ヨコ	
 	 タテ	
	 ヨコ	

BEJ022S

### ↓補足

- ・集約や両面を組み合わせた印刷をする場合は、意図しない位置にステープルされることがあります。ステープルの設定をしたあと、プリンタードライバーのプレビューアイコンに表示されているステープル位置を確認してください。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

## ステープルを行うときの注意事項

### ◆ ステープル可能な用紙サイズと枚数について

用紙サイズ	ステープル可能枚数
A3□、B4□、11"×17"□、Legal□	30 枚
A4□、B5□、Letter□	50 枚

### ◆ 用紙サイズ混在について

用紙サイズが混在したとき、次の用紙サイズはステープルできます。

- A3□と A4□
- B4□と B5□
- 11"×17"□と Letter□

### ◆ ステープルが解除される時

- ステープル可能な枚数を越えた場合
- ステープル不可能な用紙サイズが選択された場合
- ステープル不可能な紙種が選択された場合
- ステープル可能個所以外のステープル位置を指定した場合
- 両面印刷時に、両面と同じ方向とステープル印刷のと同じ位置に矛盾がある場合
- レターヘッドモードの画像の向きとステープル印刷のと同じ位置に矛盾がある場合
- 1つのジョブデータ内で、途中に異なる用紙サイズ（A4□と A3□のようにタテの幅が異なる用紙）が指定され、用紙サイズの混載が発生した場合
- 手差しトレイから給紙した場合
- エラースキップを ON にした場合にステープルの針がなくなると、メッセージ表示後、ステープルを解除して印刷を続けます。
- 印刷結果が 1 枚の場合

### ↓ 補足



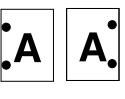







- ステープル印刷が解除されたときは、本機の操作部に「BD：ステープルエラー」が表示されます。
- 本機でレターヘッド紙を使用する設定がされている場合、指定された位置へステープルできないことがあります。
- フィニッシャーを接続しているのにステープルを設定できない場合は、プリンタードライバーでオプション装置が正しく設定されていない可能性があります。[オプション構成の変更/給紙トレイ設定]でオプション装置を正しく設定してください。プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- ステープルするときには、必ずプリンタードライバーで原稿用紙サイズと原稿方向を設定してください。
- 両面の指定をしているときは、ステープル位置と同じ方向を合わせてください。
- ご使用になるアプリケーションによっては印刷時の設定が有効にならず、意図しない印刷結果になることがあります。
- プリンタードライバーでステープルを設定するときは、アプリケーションの部単位印刷設定が無効になっていることを確認してください。アプリケーションの部単位印刷設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。

## パンチについて

パンチユニットが搭載されたフィニッシャーを取り付けると、印刷物にパンチ穴をあけることができます。

### パンチの位置

印刷方向、用紙セット方向によって、指定できるパンチ位置が異なります。パンチできる位置は次のとおりです。

本機用の紙方向	印刷データの方向	仕上がり
		3000枚フィニッシャー
		
		
		
		

BEJ023S

#### 補足

- 印刷 1 枚ごとにパンチ穴を開けるため、パンチ穴の位置に多少のばらつきが生じます。

### パンチを行うときの注意事項

#### ◆パンチ可能な用紙サイズについて

3000 枚フィニッシャー使用時
A3□、B4□、A4□、B5□、A5□、11"×17"□、Legal□、Letter□ 不定形サイズ：幅 182～297 mm、長さ 148～432 mm

#### ◆パンチが解除される時

- パンチ不可能な紙種が選択された場合
- パンチ不可能な用紙サイズが選択された場合
- パンチ可能個所以外のパンチ位置を指定した場合
- 両面印刷時に両面と同じ方向とパンチ位置に矛盾がある場合
- レターヘッドモードの画像の向きとパンチ位置に矛盾がある場合
- 手差しトレイから給紙する場合

- ・ エラースキップを ON にした場合にパンチくずがいっぱいになると、メッセージ表示後、パンチを解除して印刷を続けます。
- ・ ステープルと同時に指定するときにステープル位置とパンチ位置に矛盾がある場合

↓ 補足

- ・ パンチが解除されたときは、本機の操作部に「BE：パンチエラー」が表示されます。
- ・ 本機でレターヘッド紙を使用する設定がされている場合、指定された位置へパンチができないことがあります。
- ・ フィニッシャーを接続しているのにパンチを設定できない場合は、プリンタードライバーのオプション装置が正しく設定されていない可能性があります。[オプション構成の変更／給紙トレイ設定] で、オプション装置を正しく設定してください。プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- ・ 両面の指定をしているときは、パンチ位置と同じ方向を合わせてください。
- ・ ステープルと同時に指定する場合は、同じ側に指定してください。
- ・ パンチするときには、必ずプリンタードライバーで原稿用紙サイズと原稿方向を設定してください。
- ・ ご使用になるアプリケーションによっては印刷時の設定が有効にならず、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・ プリンタードライバーでパンチの設定をするときは、アプリケーションの部単位印刷設定が無効になっていることを確認してください。アプリケーションの部単位印刷設定を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・ 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

# 仮想プリンターを使用する

仮想プリンターについて説明します。

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、ハードディスクが必要です。

UNIX や Solaris などから印刷するとき仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

3

## 仮想プリンターを追加する

仮想プリンターを追加する手順について説明します。

### ★重要



- ・仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。
- ・仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、[TCP/IP（指定なし・通常）]、[TCP/IP（DIPRINT）]、[TCP/IP（RHPP）] です。

**1** Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

**2** 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。

仮想プリンター機能が無効になっています。  
基本設定画面で設定を変更できます。

 変更  追加

仮想プリンター数 : 1		
	仮想プリンター名	プロトコル
<input checked="" type="radio"/>	Default	---

### 3 [追加] をクリックします。

仮想プリンターの追加画面が表示されます。



OK キャンセル

■ 仮想プリンター名 : Printer\_001

■ プロトコル : TCP/IP (指定なし)

3

### 4 [仮想プリンター名] に任意のプリンター名を入力し、[プロトコル] を選択してください。

### 5 [OK] をクリックします。

仮想プリンターが追加されます。

#### ↓ 補足

- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、[追加] ボタンは表示されません。

## 仮想プリンターの設定を変更する

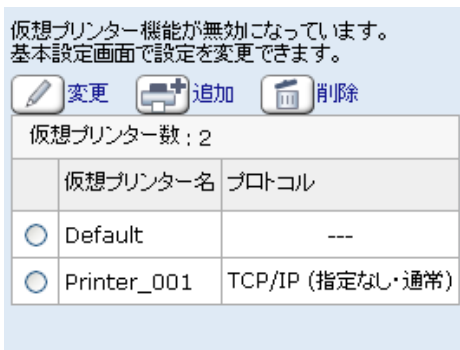
仮想プリンターの設定を変更する手順について説明します。

### ★重要

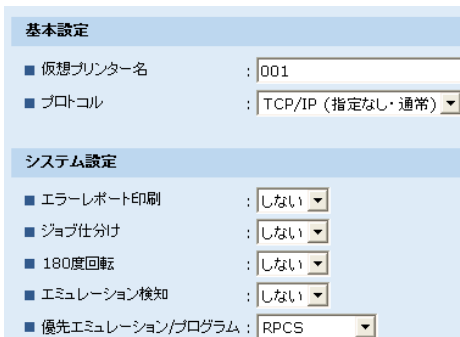
- 仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。

**1** Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

**2** 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。  
本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



**3** 変更したい仮想プリンターを選択し、[変更] をクリックします。  
変更可能な設定項目の一覧が表示されます。



ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、[プロトコル] で [TCP/IP(指定無し:優先)] を選択します。

**4** 各項目の設定内容を任意に変更し、[OK] をクリックします。

### ↓補足

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

## 仮想プリンターの設定内容を確認する

仮想プリンターの設定内容を確認する手順について説明します。

- 1 Web Image Monitor を起動します。
- 2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。  
本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。

3

詳細情報

仮想プリンター数 : 2	
仮想プリンター名	プロトコル
<input type="radio"/> Default	---
<input type="radio"/> Printer_001	TCP/IP (指定なし・通常)

- 3 確認したい仮想プリンターを選択し、[詳細情報] をクリックします。  
設定内容の一覧が表示されます。

### 補足

- ・管理者モードでログインしている場合、[詳細情報] は表示されません。[変更] で現在の設定内容を確認してください。
- ・ゲストモードでログインしている場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

### 参照

- ・ P.101 「仮想プリンターで印刷する」



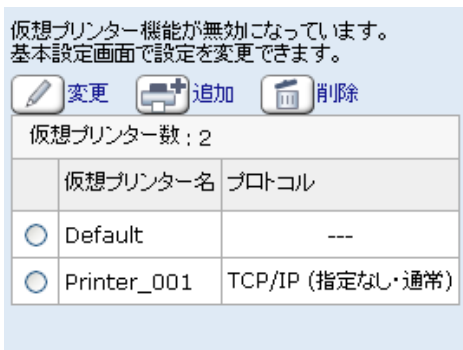
## 仮想プリンターを削除する

仮想プリンターを削除する手順について説明します。

### ★重要

- 仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。

- 1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
- 2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。  
本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



- 3 削除したい仮想プリンターを選択し、[削除] をクリックします。  
仮想プリンター削除の確認画面が表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

### ↓補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、[削除] ボタンは表示されません。

## 仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに [仮想プリンター名] を指定します。割り込み印刷をする場合は、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターの名前を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを [有効] に設定してください。

### ★重要

- 仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。

- 1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
- 2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリの中の [プリンター基本設定] をクリックします。

**3** [仮想プリンター] の項目から [有効] を選択し、[OK] をクリックします。

**4** パソコンから印刷の指示を出します。

◆ lpr の場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名) [-P 仮想プリンター名] [-o1] ¥パス名¥ファイル名

◆ rcp の場合

c:> rcp [-b] ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名...] プリンターのホスト名: [仮想プリンター名]

◆ ftp の場合

ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [仮想プリンター名]

↓ 補足

- ・現在印刷中のジョブが下記の条件を満たしている場合、割り込み印刷ように設定した仮想プリンターを印刷しても、割り込み印刷できません。現在のジョブの印刷が終了してから割り込んだジョブの処理が開始されます。
  - ・ステープルが指定されている場合
  - ・手差しトレイから印刷されている場合
  - ・現在のジョブが表紙や合紙の機能を使用している場合
- ・現在のジョブで大量のメモリーを消費していたり、大量の印刷をしている場合、割り込んだジョブをジョブを処理するメモリーが不足したり、すべてのページが印刷できなかつたりします。この場合、ステープルや蓄積が解除されたり、通常の最大枚数より少ない枚数でソートされる場合があります。

# 4. 用紙に独自の名前をつけて使用する

用紙に独自の名前を付けて登録できます。

## 用紙種類の登録から使用するまでの流れ

用途にあった用紙種類を選び、ユーザー用紙種類として独自の名前を付けて登録し、印刷するまでの流れを説明します。

この章では、「用紙名称」を「ハガキ」と名前をつけて登録し、手差しトレイから印刷する例で説明します。

### ★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ・本機とお使いのパソコンとの間で双方向通信が働いているときに使用できます。
- ・RPCS プリンタードライバーで使用できます。
- ・プリンタードライバーの「設定の保存/呼び出し」機能には対応していません。ユーザー用紙種類として登録した用紙種類は、プリンタードライバーの表示が「普通紙」に置き換わります。
- ・ご使用になっているプリンタードライバーの各国言語以外で名称を登録すると、プリンタードライバーで文字が正しく表示されない場合があります。
- ・英数カタカナ半角文字以外の名称を登録すると、本機操作部の画面の文字が正しく表示されない場合があります。
- ・ユーザー用紙種類の名称はログ収集の対象にはなりません。

### ◆「用紙名称」を「ハガキ」として手差しトレイから印刷する場合のステップ 1~4

- 1) Web Image Monitor で、用紙種類に名前をつけて登録します。印刷する際、登録したユーザー用紙種類の名称を、プリンタードライバーで選択すると、用紙種類が自動で選択されます。  
「用紙名称」に「ハガキ」と名前をつけ、「用紙種類」は「厚紙2」を選びます。  
設定について詳しくは、「用紙種類に名前をつけて登録する」を参照してください。
- 2) Web Image Monitor で、トレイにユーザー用紙種類を設定します。  
手差しトレイの用紙種類を、「+ハガキ (Custom 1)」に設定します。  
設定について詳しくは、「トレイにユーザー用紙種類を設定する」を参照してください。
- 3) 本機の給紙トレイに使用したい用紙をセットします。  
手差しトレイに郵便はがきをセットします。  
設定について詳しくは、『ハードウェアガイド』「用紙をセットする」を参照してください。

- 4) RPCS プリンタードライバーで、登録した用紙種類に印刷をします。  
「用紙種類」から「+ハガキ」を選び、印刷します。「用紙種類」として「+ハガキ」を選択することで、郵便はがきを印刷するときに適した厚紙2が自動で設定されることとなります。用途に合った名称をつけることができるので、用紙選択が容易になります。  
設定について詳しくは、「登録した用紙種類に印刷をする」を参照してください。

↓ 補足

- 最大 8 種類までユーザー用紙種類を登録できます。
- 双方向通信の働く条件に関しては「双方向通信が働く条件」を参照してください。

目 参照

- P.44 「双方向通信が働く条件」
- P.105 「用紙種類に名前をつけて登録する」
- P.107 「トレイにユーザー用紙種類を設定する」

# 用紙種類に名前をつけて登録する

Web Image Monitor の管理者モードで設定します。

## ★重要

- ・英数カタカナ半角文字以外の名称を登録すると、本機操作部の画面の文字が正しく表示されない場合があります。

**1** Web ブラウザを起動し、Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。SSL (暗号化通信) の設定を有効にしている場合、「https:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力します。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

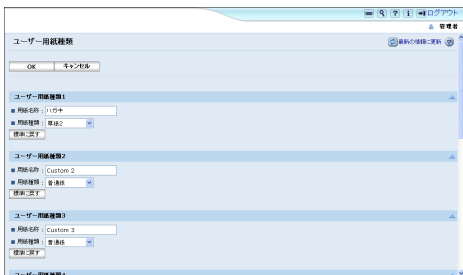
**2** Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

**3** ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

**4** 画面左のメニューから [設定] をクリックします。

**5** [機器] エリアの [ユーザー用紙種類] をクリックします。



ユーザー用紙種類の設定画面が表示されます。

**6** 以下の項目を設定します。

郵便はがきに印刷する場合を例にして説明します。

- ・用紙名称：用紙の用途を判別できるような名称を入力します。「ハガキ」と入力します。
- ・用紙種類：用途にあった用紙の種類をドロップダウンメニューから選びます。「厚紙2」を選択します。郵便はがきを印刷する場合は、用紙種類として「厚紙2」を設定しておきます。設定が不適切な場合、紙づまりなどの原因になります。

**7** [OK] をクリックします。

↓ 補足

- 設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 最大 8 種類までユーザー用紙種類を登録できます。
- 使用する用紙と用紙種類との関係については、『ハードウェアガイド』「用紙の種類ごとの注意」を参照してください。

# トレイにユーザー用紙種類を設定する

給紙トレイと登録した用紙種類を関連付けます。

印刷する前に、給紙トレイに用紙をセットします。Web Image Monitor、または本機の操作部を使って、トレイにユーザー用紙種類を設定します。

## Web Image Monitor からトレイの設定をする

Web Image Monitor で給紙トレイへの用紙種類の設定をします。

- 1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
- 2 画面左のメニューから [設定] をクリックします。
- 3 [機器] エリアの [用紙] をクリックします。
- 4 設定したいトレイの用紙種類：をユーザー用紙種類にして、登録しておいた用紙種類の名称を選びます。



先程登録した「ハガキ」は [+ハガキ (Custom 1)] と表示されています。ここでは例として、手差しトレイにユーザー用紙種類「ハガキ」を設定しました。必要に応じてその他の項目を設定します。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [ログアウト] をクリックします。
- 7 Web ブラウザーを閉じます。

### 補足

- ・給紙トレイに用紙をセットする方法については、『ハードウェアガイド』「用紙をセットする」を参照してください。
- ・用紙種類を本機の操作部から設定する方法については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」「手差しトレイに用紙をセットする」を参照してください。

## 登録した用紙種類に印刷をする

登録した用紙種類を選択して印刷します。

### ★重要

- RPCS プリンタードライバーで使用できます。
- 本機とお使いのパソコンとの間で双方向通信が働いているときに使用できます。
- 「設定の保存／呼び出し」機能には対応していません。ユーザー用紙種類として登録した用紙種類は、プリンタードライバーの表示が「普通紙」に置き換わります。
- ご使用になっているプリンタードライバーの各国言語以外で名称を登録すると、プリンタードライバーで文字が正しく表示されない場合があります。
- ユーザー用紙種類の名称はログ収集の対象にはなりません。

## 4

**1** 印刷する文書に印刷指示をします。

**2** プリンタードライバーの印刷設定の [印刷設定] タブで、[用紙種類:] から登録しておいた用紙種類を選択します。

「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。

**3** 印刷の指示をします。

あらかじめ登録しておいた設定で印刷されます。

### ↓補足

- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。



# 5. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目についての説明です。

## [メニュー] キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

### ◆ メモリー内残存データ状態確認

ハードディスクが装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

↓ 補足

- ・メモリー内残存データ状態確認はセキュリティカード装着時に表示されます。

目 参照

- ・P.113 「メモリー内残存データ状態確認メニュー」

### ◆ 用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙サイズ設定：トレイ 3
用紙サイズ設定：トレイ 4
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
用紙種類設定：トレイ 3
用紙種類設定：トレイ 4
用紙種類設定：LCT
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

↓ 補足

- ・本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

## 目 参照

- ・ P.114 「用紙設定メニュー」

## ◆ 調整 / 管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
ハードディスク管理

## ↓ 補足

- ・ ハードディスク管理は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。

## 目 参照

- ・ P.119 「調整 / 管理メニュー」

## ◆ テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
メニューリスト
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ
動作確認印刷

## ↓ 補足

- ・ 上記メニューは、使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。

## 目 参照

- ・ P.125 「テスト印刷メニュー」

## ◆ システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定

設定項目
補助用紙サイズ
省エネモード
エミュレーション検知
優先エミュレーション/プログラム
優先メモリー
スプール印刷
RAM ディスク
自動メール通知

↓ 補足

- ・スプール印刷は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。
- ・RAM ディスクは、拡張 HDD を装着していると表示されません。

目 参照

- ・P.128 「システム設定メニュー」

◆ 印刷設定

設定項目
一般設定
EM 設定
PS 設定
PDF 設定

↓ 補足

- ・使用するエミュレーションによって項目が表示されないものがあります。

目 参照

- ・P.133 「印刷設定メニュー」

◆ セキュリティー管理

設定項目
拡張認証管理
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
メモリー自動消去設定
メモリー全消去
ログ転送設定

↓ 補足

- ・メモリー自動消去設定とメモリー全消去は、セキュリティカードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.141 「セキュリティ管理メニュー」

◆ インターフェース設定

設定項目
受信バッファ
インターフェース切替時間
ネットワーク設定
パラレルインターフェース設定
USB 設定

## 5

↓ 補足

- ・パラレルインターフェース設定は、拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.145 「インターフェース設定メニュー」

◆ 表示言語切替

設定項目
日本語
English

# メモリー内残存データ状態確認メニュー

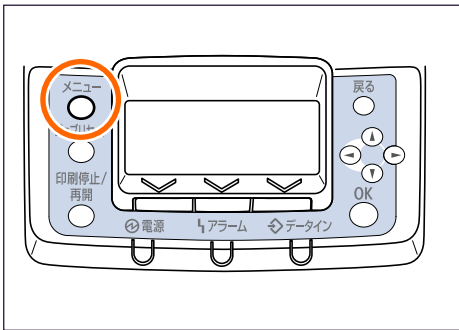
ハードディスクが装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

## 補足

- ・メモリー内残存データ状態確認はセキュリティカード装着時に表示されます。

## メモリー内のデータ状態を確認する

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。



BEJ006S

- 2 [▲] [▼] キーを押して「メモリー内残存データ状態確認」を選択し、[OK] キーを押します。
- 3 メモリー内にデータが残っている場合は「消去対象残存データあり」、データが残っていない場合は「消去対象残存データなし」と表示されます。
- 4 [メニュー] キーを押します。  
メニュー画面に戻ります。

# 用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

## 用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

- ◆ **用紙サイズ設定：手差しトレイ**  
手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。  
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 1**  
トレイ 1 にセットする用紙サイズを設定します。  
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 2**  
トレイ 2 にセットする用紙サイズを設定します。  
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 3**  
トレイ 3 にセットする用紙サイズを設定します。  
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 4**  
トレイ 4 にセットする用紙サイズを設定します。  
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：手差しトレイ**  
手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。  
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：トレイ 1**  
トレイ 1 にセットする用紙の種類を設定します。  
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：トレイ 2**  
トレイ 2 にセットする用紙の種類を設定します。  
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

**◆ 用紙種類設定：トレイ 3**

トレイ 3 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

**◆ 用紙種類設定：トレイ 4**

トレイ 4 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

**◆ 用紙種類設定：LCT**

1200 枚増設トレイにセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

**◆ 両面印刷トレイ**

「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、手差しトレイ以外の給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが「対象にする」になっています。

**◆ 自動トレイ選択**

「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、手差しトレイ以外の給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが「対象にする」になっています。

**◆ 優先給紙トレイ**

「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番最初に対象となるトレイです。工場出荷時の設定は「トレイ 1」です。

**↓ 補足**

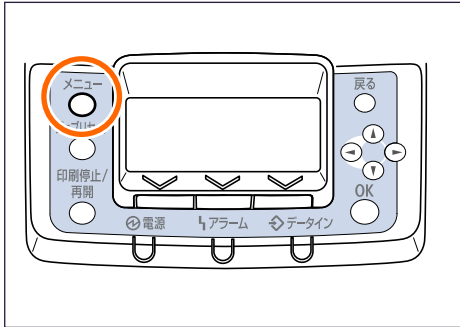
- RPCS プリンタードライバーを使用している場合、A4□をトレイ 1、A4□をトレイ 2 にセットし、優先給紙トレイ設定でトレイ 1 を選択しても、用紙はトレイ 1 ではなくトレイ 2 から給紙されます。

## 用紙設定メニューの設定を変更する

### 特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

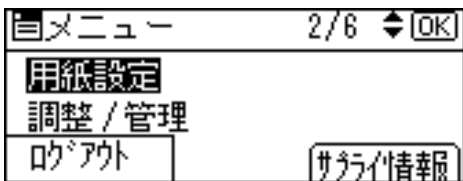
自動トレイ選択の対象としないトレイを設定します。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。

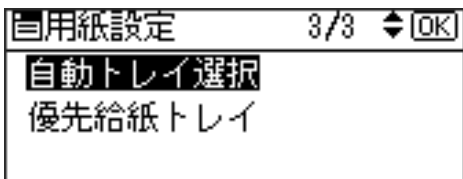


BEJ008S

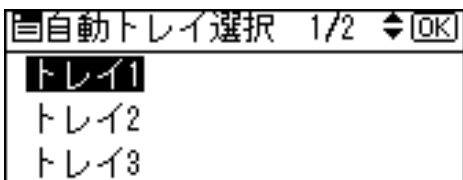
- 2 [▲] [▼] キーを押して、「用紙設定」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▲][▼]キーを押して、「自動トレイ選択」を選択し、[OK]キーを押します。



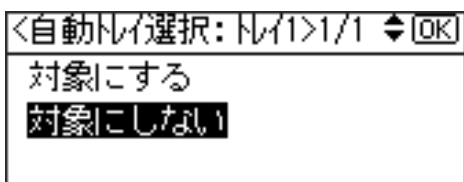
- 4 [▲] [▼] キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、[OK] キーを押します。



対象にするかどうかの選択画面が表示されます。



- 5 [▲] [▼] キーを押して、「対象にしない」を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、自動トレイ選択メニューに戻ります。

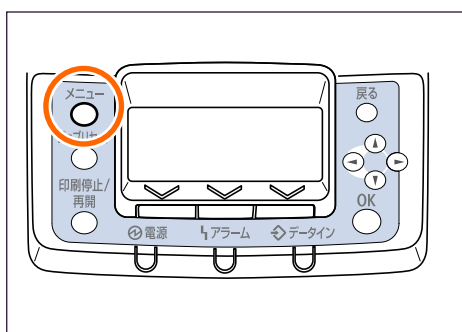
- 6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

## 優先給紙トレイを設定する

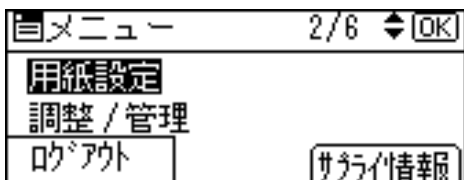
優先給紙トレイを設定します。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します

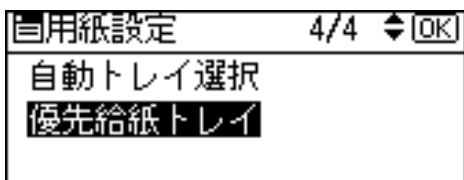


BEJ008S

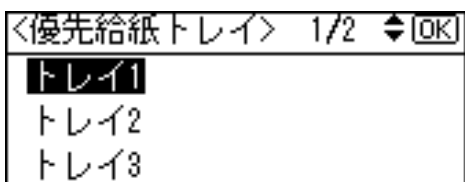
- 2 [▲] [▼] キーを押して、「用紙設定」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▲] [▼] キーを押して「優先給紙トレイ」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4** [▲] [▼] キーを押して目的のトレイを選択し、[OK] キーを押します。



設定が完了し、1秒後に用紙設定メニューに戻ります。

- 5** [メニュー] キーを押します。  
通常の画面が表示されます。

# 調整 / 管理メニュー

調整管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整や、HDD のフォーマットなど本機の管理についての設定ができます。

## 調整 / 管理メニューの項目

調整管理メニューの設定項目です。

### ◆ 品質調整

#### ◆ 濃度調整

印刷面にかすれや汚れが出たときなどに印刷濃度を調整します。

- ・  $-3 \sim +3$

濃度の調整方法は、『ハードウェアガイド』「調整」を参照してください。

↓ 補足

- ・ できるだけ工場出荷時の設定でお使いください。

#### ◆ 印刷位置調整

縦、横の印刷位置の調整ができます。通常は特に設定する必要はありませんが、印刷の位置がずれたときに調整します。

- ・ タテ：トレイ 1
- ・ タテ：トレイ 2
- ・ タテ：トレイ 3
- ・ タテ：トレイ 4
- ・ タテ：大量給紙トレイ (LCT)
- ・ タテ：手差しトレイ
- ・ タテ：両面時裏面
- ・ ヨコ：すべてのトレイ
- ・ ヨコ：手差しトレイ
- ・ ヨコ：両面時裏面

縦の数値は  $-4.0 \sim +4.0$  の範囲内で設定します。横の数値は  $-9.0 \sim +9.0$  の範囲内で設定します。

印刷位置の調整方法は、『ハードウェアガイド』「調整」を参照してください。

### ◆ 一般管理

#### ◆ レターヘッド紙設定

レターヘッド紙を使用する場合に、使用するレターヘッド紙の種類を設定します。

- ・ レターヘッド 1 (工場出荷時の設定)
- ・ レターヘッド 2
- ・ レターヘッド 3

↓ 補足

- ・ プリンタードライバー側では、[レターヘッド付き用紙] を選択してください。

## ◆ ラベル紙設定

ラベル紙を使用する場合に、使用するラベル紙の種類を設定します。

- ・ ラベル紙 1 (工場出荷時の設定)
- ・ ラベル紙 2
- ・ ラベル紙 3

↓ 補足

- ・ プリンタードライバー側では、[ラベル紙] を選択してください。

## ◆ 封筒設定

封筒を使用する場合に、使用する封筒の種類を設定します。

- ・ 封筒 1 (工場出荷時の設定)
- ・ 封筒 2
- ・ 封筒 3

↓ 補足

- ・ プリンタードライバー側では、[封筒] を選択してください。

## 5

## ◆ サプライ交換時期

ドラムユニットの交換時期をアラームインジケータの点灯で知らせるタイミングを設定します。

## ◆ ドラムユニット

- ・ 早めに通知
- ・ 通常 (工場出荷時の設定)
- ・ 遅めに通知

## ◆ サプライエンド時動作

感光体ドラムユニットのサプライエンド時に印刷を継続するかしないかを選択します。

- ・ 印刷継続可能 (工場出荷時の設定)
- ・ 印刷停止

## ◆ サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。

- ・ 待機画面に表示する (工場出荷時の設定)
- ・ 表示しない

## ◆ メニュープロテクト

メニュープロテクトをするかしないか、する場合はそのレベルを選択します。

- ・ レベル 1
- ・ レベル 2 (工場出荷時の設定)
- ・ しない

↓ 補足

- ・ プロテクトの強さを弱めたい場合は、[レベル 1] を選択します。

## ◆ テスト印刷禁止

テスト印刷を禁止するかしないかを選択します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ **ブザー音**

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。

- ・ ON (工場出荷時の設定)
- ・ OFF

◆ **ウォームアップ通知音**

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。

- ・ ON (工場出荷時の設定)
- ・ OFF

## ↓ 補足

- ・ [ブザー音] の設定が [ON] の場合にのみ有効です。

◆ **画面コントラスト調整**

画面のコントラストを選択します。

◆ **キーリピート設定**

[▲] [▼] [▶] [◀] キーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。

- ・ リピートしない
- ・ 通常 (工場出荷時の設定)
- ・ リピート時間：中
- ・ リピート時間：長

◆ **小サイズ紙用トレイ**

サイズの小さい用紙を使用する場合に、トレイごとに設定します。

◆ **トレイ 1**

- ・ 使用しない (工場出荷時の設定)
- ・ 使用する

◆ **トレイ 2**

- ・ 使用しない (工場出荷時の設定)
- ・ 使用する

◆ **トレイ 3**

- ・ 使用しない (工場出荷時の設定)
- ・ 使用する

◆ **トレイ 4**

- ・ 使用しない (工場出荷時の設定)
- ・ 使用する

◆ 時刻タイマー設定

◆ オートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、設定内容を電源投入直後の状態に戻すかどうかを設定します。また、戻すまでの時間を設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)

60 秒 (工場出荷時の設定)

オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10~999 秒 (1 秒単位) の範囲で設定します。

- ・ しない

◆ 年月日設定

年月日を設定します。

◆ 時刻設定

時刻を設定します。

◆ ハードディスク管理

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

◆ 一時置き文書全消去

ハードディスクに蓄積されている一時置き文書 (試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書) をすべて消去します。

◆ 保存文書全消去

ハードディスクに蓄積されている保存文書をすべて消去します。

◆ 一時置き文書自動消去設定

ハードディスクに蓄積されている一時置き文書 (試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書) を、自動的に消去するかしないか、する場合はその間隔を設定します。

- ・ する

自動消去する場合は、自動消去する時間を 1~200 時間 (1 時間単位) の範囲で設定します。

8 時間 (工場出荷時の設定)

- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 保存文書自動消去設定

ハードディスクに蓄積されている保存文書を自動的に消去するかしないか、する場合はその間隔を設定します。

- ・ する

自動消去する場合は、自動消去する時間を 1~180 日 (1 日単位) の範囲で設定します。

3 日間 (工場出荷時の設定)

- ・ しない

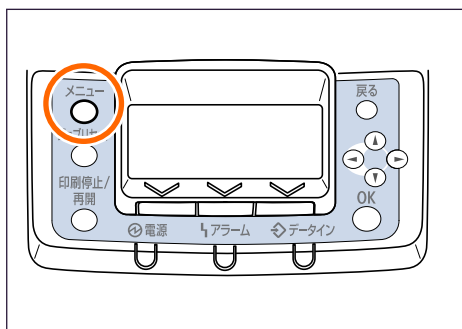
## 調整 / 管理メニューの設定を変更する

調整 / 管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

### 保存文書をすべて消去する

ハードディスクに蓄積された保存文書を消去する方法の説明です。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

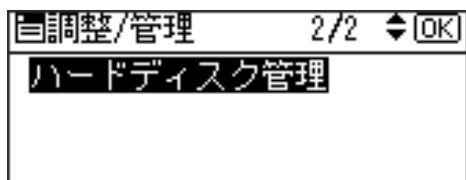


BEJ008S

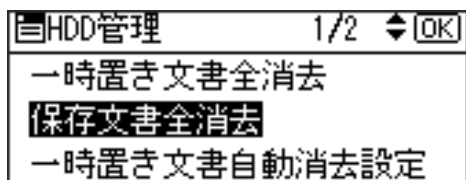
- 2 [▲] [▼] キーを押して「調整 / 管理」を選択し、[OK] キーを押します。



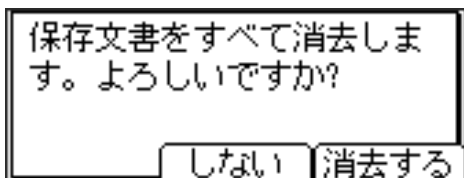
- 3 [▲] [▼] キーを押して「ハードディスク管理」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▲] [▼] キーを押して「保存文書全消去」を選択し、[OK] キーを押します。



- 5** 確認のメッセージが表示されていることを確認し、[消去する] キーを押します。



- 6** 消去終了のメッセージが表示されていることを確認し、[確認] キーを押します。  
ハードディスク管理メニューに戻ります。



# テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。

また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

## テスト印刷メニューの項目

テスト印刷メニューの設定項目です。

### ◆ 一括リスト印刷

システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

### ◆ システム設定リスト

本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

詳細は、「システム設定リストの見かた」を参照してください。

### ◆ エラー履歴

エラーになったジョブの履歴が印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

### ◆ ネットワークサマリー

ネットワークの設定内容が印刷されます。

### ◆ サプライ情報リスト

サプライ情報が印刷されます。

### ◆ メニューリスト

設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

### ◆ PS 情報リスト

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、『PostScript 3』使用説明書を参照してください。

### ◆ ヘキサダンプ

印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

### ◆ 動作確認印刷

オプションを含む給排紙と印刷、フィニッシャーのパンチ・ステーブル動作を確認するためのテスト印刷を行います。オプションに関する設定項目は、実際に装着されているオプションについてだけ表示されます。指定した機能が実現できないと、メッセージを表示して印刷を中止します。正しく動作すると、黒の罫線枠を印刷します。

## E 参照

・P.127 「システム設定リストの見かた」

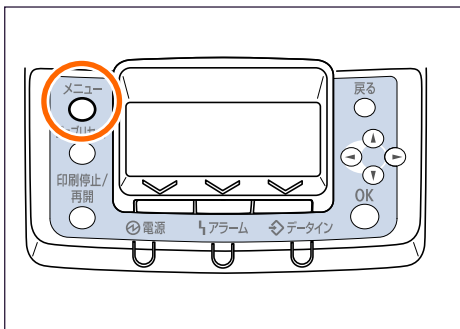
## テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法是他のリストを印刷する場合も同じです。

### システム設定リストを印刷する

システム設定リストの印刷方法です。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

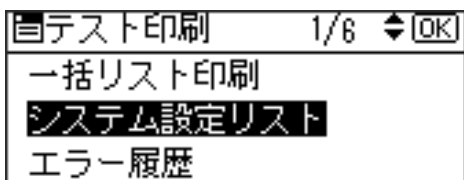


BEJ008S

- 2 [▲] [▼] キーを押して「テスト印刷」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▲] [▼] キーを押して印刷したいリスト名を選択し、[OK] キーを押します。



印刷終了後、テスト印刷メニューに戻ります。

- 4 【メニュー】キーを押します。  
通常の画面が表示されます。

↓ 補足

- ・システム設定リストは A4 または Letter (8 1/2"×11") で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter (8 1/2"×11") の用紙をセットしてください。

## システム設定リストの見かた

システム設定リストの見かたの説明です。

5

### 1 システム構成情報

本機のバージョン情報やオプションの装着状況、カウンター情報、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

### 2 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

### 3 調整／管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

### 4 システム設定

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。  
\*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

### 5 一般設定

一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。  
\*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

### 6 インターフェース設定、インターフェース情報

インターフェース設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

# システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関する設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

## システム設定メニューの設定項目

### ◆ エラーレポート印刷

エミュレーションがRPCS、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定します。

- ・ する
- ・ しない（工場出荷時の設定）

### ◆ エラースキップ

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- ・ しない（工場出荷時の設定）

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。

- ・ 即時  
用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。
- ・ 1分  
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 5分  
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 10分  
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 15分  
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

### ◆ 画像エラー処理

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- ・ ジョブリセット（工場出荷時の設定）

エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

- ・エラーシート印刷  
エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大 16 ページ分印刷します。

#### ◆ エラー表示設定

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定します。

- ・簡易表示
- ・すべて表示（工場出荷時の設定）

#### ◆ 補助用紙サイズ

A4 と Letter (8 1/2" × 11") の切り替えをするかどうかを設定します。

切替を行った場合、A4 と Letter (8 1/2" × 11") では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。

- ・自動
- ・しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ 省エネモード

省エネモードとは、本機の消費電力を節約する機能です。

- ・移行設定

省エネモードに移行するかしないかを選択します。

- ・移行する（工場出荷時の設定）
- ・移行しない

- ・移行時間

省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

- ・1 分（工場出荷時の設定）
- ・5 分
- ・15 分
- ・30 分
- ・45 分
- ・60 分

#### ◆ エミュレーション検知

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PS3 です。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

- ・する
- ・しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ 優先エミュレーション / プログラム

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」～「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。RPCS、PS3、PDF 以外で有効です。

- ・RPCS（工場出荷時の設定）

- PS3
- PDF
- プログラム 1～16

◆ **優先メモリー**

ユーザーメモリーかページメモリーかを選択します。

- ユーザーメモリー
- ページメモリー (工場出荷時の設定)

◆ **スプール印刷**

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。

ハードディスクを装着時にのみ表示されます。

「する」を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- する
- しない (工場出荷時の設定)

◆ **RAM ディスク**

PDF ダイレクトプリントをする場合で、ハードディスクを装着していないときに指定します。2MB 以上の値を指定してください。

- 0MB
- 2MB
- 4MB (工場出荷時の設定)
- 8MB
- 16MB

◆ **自動メール通知**

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかをします。

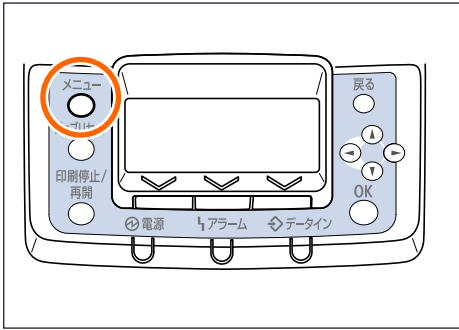
設定を変更したときは、いったん電源をOFFにし、あらためて電源をONにしてください。

- する (工場出荷時の設定)
- しない

## システム設定メニューの設定を変更する

システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

### 1 操作部の【メニュー】キーを押します

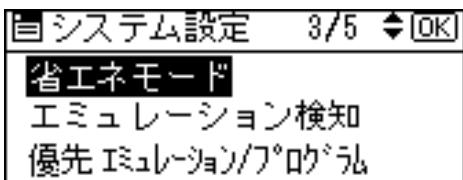


BEJ008S

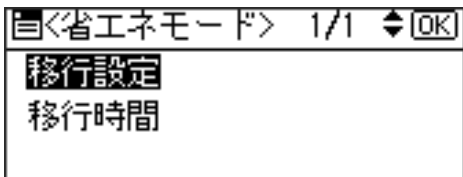
### 2 [▲] [▼] キーを押して、「システム設定」を選択し、[OK] キーを押します。



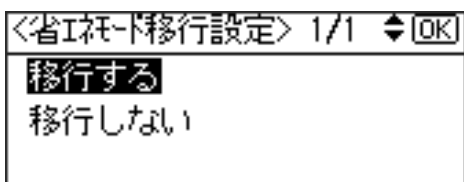
### 3 [▲] [▼] キーを押して、「省エネモード」を選択し、[OK] キーを押します。



### 4 [▲] [▼] キーを押して設定を変更する項目を選択し、[OK] キーを押します。



**5** [▲] [▼] キーを押して変更する設定値を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、省エネモードメニューに戻ります。

**6** [メニュー] キーを押します。  
通常の画面が表示されます。



# 印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

## 印刷設定メニューの設定項目

### ◆ 一般設定

#### ◆ 印刷枚数設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1~999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

- ・ 1 (工場出荷時の設定)

#### ◆ 排紙トレイ設定

印刷した紙の排紙先が指定されていない場合などに、優先的に選択される排紙先を設定します。

- ・ 本体トレイ (工場出荷時の設定)
- ・ フィニッシャー上トレイ
- ・ フィニッシャーシフトトレイ

#### ↓ 補足

- ・ [フィニッシャー・上トレイ] [フィニッシャー・シフトトレイ] は、フィニッシャーが装着されているときに表示されます。

#### ◆ ジョブ仕分け

シフト機能のある排紙先で、ジョブごとにシフト動作を行うか行わないかを設定します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ 180 度回転

180 度回転印刷をするかしないかを選択します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ スムージング

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷するかどうかを設定します。

- ・ On (工場出荷時の設定)
- ・ Off

#### ◆ トナーセーブ

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。トナーを節約するかしないかを設定します。「On」に設定すると薄く印刷されます。

- ・ On
- ・ Off (工場出荷時の設定)

**◆ レターヘッド紙使用設定**

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

印刷の途中で片面印刷から両面印刷になった場合、ソートの2部目以降は全て両面印刷となります。2部目以降も片面で印刷したいときは、両面印刷ができない紙サイズを給紙してください。

レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意が必要です。

**・ 使用しない (工場出荷時の設定)**

レターヘッド紙印刷を行いません。

**・ 使用する (自動判定)**

レターヘッド紙が指定されたときに行います。

**・ 使用する (常時)**

常にレターヘッド紙印刷を行います。

**◆ 手差しトレイ設定選択**

手差しの設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

**・ ドライバー / コマンド優先 (工場出荷時の設定)****・ 機器側設定優先****◆ トレイ指定時動作切り替え**

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

**・ する****・ しない (工場出荷時の設定)****◆ 拡張リミットレス給紙**

印刷中に用紙がなくなった場合に、同じサイズの用紙を他のトレイから給紙するかしないかを選択します。

**・ する****・ しない (工場出荷時の設定)****◆ EM 設定**

マルチエミュレーションカードが装着されているときのメニュー項目です。

**◆ 白紙排紙**

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

**・ する****・ スペース**

排紙コマンドの前にスペースコード (20H、A0H、8140H) があるときは排紙します。

**・ しない (工場出荷時の設定)****◆ 用紙なしエラー**

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。「印刷実行時」に設定すると用紙がセットされていなくても、

データ受信は可能です。「用紙なし時」に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

・ 印刷実行時（工場出荷時の設定）

用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。

・ 用紙なし時

用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

◆ **自動排紙時間**

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。「自動排紙しない」に設定するとデータは自動的に印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

・ 自動排紙しない（工場出荷時の設定）

- ・ 10 秒
- ・ 15 秒
- ・ 20 秒
- ・ 25 秒
- ・ 60 秒
- ・ 300 秒

◆ **マクロキャッシュ**

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。

・ マクロなし（工場出荷時の設定）

- ・ マクロ 2.1MB
- ・ マクロ 4.3MB
- ・ マクロ 8.34MB

◆ **PCL 設定**

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ **用紙サイズ**

- ・ A3(297×420)
- ・ B4 JIS(257×369)
- ・ A4(210×297)（工場出荷時の設定）
- ・ B5 JIS(182×257)
- ・ A5(148×210)
- ・ B6(128×182)
- ・ A6(105×148)
- ・ 12×18
- ・ 11×17
- ・ 8 1/2×14
- ・ 8 1/2×11
- ・ 5 1/2×8 1/2
- ・ 往復ハガキ
- ・ 郵便ハガキ
- ・ 不定形サイズ

- ◆ **最大領域印刷**
  - ・ する
  - ・ しない (工場出荷時の設定)
- ◆ **両面印刷**
  - ・ しない (工場出荷時の設定)
  - ・ 長辺
  - ・ 短辺
- ◆ **印刷方向**
  - ・ タテ (工場出荷時の設定)
  - ・ ヨコ
- ◆ **行数**
  - ・ 64 (工場出荷時の設定)
- ◆ **フォントソース**
  - ・ 内蔵メモリー (工場出荷時の設定)
  - ・ RAM
  - ・ HDD
  - ・ SD
  - ・ SD Font Download
- ◆ **フォント番号**
  - ・ 0 (工場出荷時の設定)
- ◆ **ポイントサイズ**
  - ・ 12.00 (工場出荷時の設定)
- ◆ **フォントピッチ**
  - ・ 10.00 (工場出荷時の設定)
- ◆ **シンボルセット**
  - ・ Roman-8
  - ・ ISO L1
  - ・ ISO L2
  - ・ ISO L5
  - ・ PC-8 (工場出荷時の設定)
  - ・ PC-8 D/N
  - ・ PC-850
  - ・ PC-852
  - ・ PC8-TK
  - ・ Win L1
  - ・ Win L2
  - ・ Win L5
  - ・ Desktop
  - ・ PC Text
  - ・ VN Intl
  - ・ VN US
  - ・ MS Publ
  - ・ Math-8

- PS Math
- VN Math
- Pifont
- Legal
- ISO 4
- ISO 6
- ISO 11
- ISO 15
- ISO 17
- ISO 21
- ISO 60
- ISO 69
- Win 3.0

◆ クーリエフォント

- レギュラー (工場出荷時の設定)
- ダーク

◆ A4 サイズ最大幅印刷

- する
- しない (工場出荷時の設定)

◆ LF 設定

- LF=CR+LF
- LF=LF (工場出荷時の設定)

◆ 解像度

- 300dpi
- 600dpi (工場出荷時の設定)

◆ 白紙排紙

- する (工場出荷時の設定)
- しない

◆ PS 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ ジョブタイムアウト

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します (秒単位)。

- ドライバ / コマンド優先 (工場出荷時の設定)

• 機器側設定優先

[機器測定優先] を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

◆ ウェイトタイムアウト

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します。

- ドライバ / コマンド優先 (工場出荷時の設定)

- ・ 機器側設定優先  
[機器測定優先] を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

◆ 両面設定

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ 長辺
- ・ 短辺

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ データ形式

データ形式を設定します。

- ・ バイナリーデータ (工場出荷時の設定)
- ・ TBCP

◆ 解像度

解像度を設定します。

- ・ 300dpi
- ・ 600dpi (工場出荷時の設定)

◆ 最大領域印刷

用紙サイズいっぱい印刷するかしないかを選択します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ PDF 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ PDF パスワード変更

印刷するPDFファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

◆ 両面印刷

両面印刷をするかしないか、する場合はその方向を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ 長辺
- ・ 短辺

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ 解像度

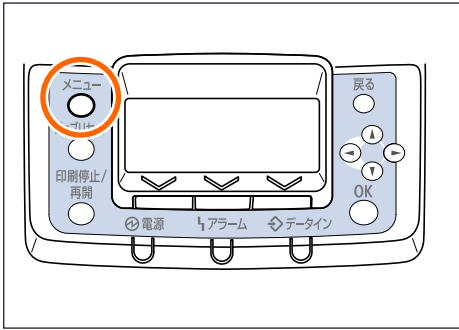
解像度を設定します。

- ・ 300dpi
- ・ 600dpi (工場出荷時の設定)

## 印刷設定メニューの設定を変更する

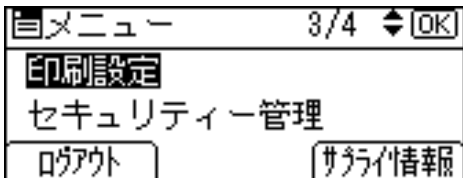
印刷設定メニュー「排紙トレイ設定」の変更方法を、例として説明します。

### 1 操作部の【メニュー】キーを押します

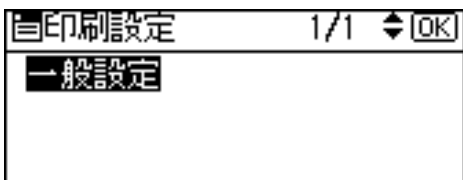


BEI008S

### 2 [▲] [▼] キーを押して、「印刷設定」を選択し、[OK] キーを押します。



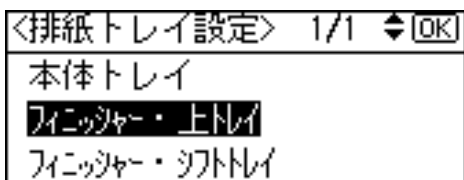
### 3 [▲] [▼] キーを押して、「一般設定」を選択し、[OK] キーを押します。



### 4 [▲][▼]キーを押して、「排紙トレイ設定」を選択し、[OK]キーを押します。



- 5** [▲] [▼] キーを押して指定する排紙トレイを選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、一般設定メニューに戻ります。

- 6** [メニュー] キーを押します。  
通常の画面が表示されます。



# セキュリティ管理メニュー

セキュリティに関する設定を行います。

## セキュリティ管理メニューの設定項目

### ◆ 拡張認証管理

拡張認証管理モジュール装着時に表示されます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

### ◆ セキュリティ強化

#### ◆ ドライバー暗号鍵

ユーザー認証を設定しているときに送信するパスワードの暗号化を行います。ドライバー暗号鍵を設定する場合は本機で設定した暗号鍵を印刷するドライバーに入力してください。パスワードの暗号化を行います。

#### ◆ アドレス帳暗号化

アドレス帳の暗号化をするかしないかを選択し、する場合は暗号鍵を設定します。本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。

- ・ する  
[暗号鍵] を押し、暗号鍵を設定します
- ・ しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ 個人情報表示制限

ユーザー認証を設定しているときに設定することができます。

個人認証ができない接続方法でジョブ履歴を確認する際に、個人情報を全て「\*\*\*\*\*」表示にすることができます。登録者の情報がわからないため、不特定のユーザーに登録した文書の情報が漏れることを防ぐことができます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ 文書保護強化

パスワード設定によって、文書の印刷や消去などの操作が制限され、不特定の人による文書アクセスが避けられます。文書保護強化を設定した場合、誤ったパスワードを10回入力すると文書はロックされ、アクセスできなくなります。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ SNMPv1, v2 による設定

SNMPv1, v2 を使った設定を禁止するかしないかを選択します。

- ・ 禁止する
- ・ 禁止しない (工場出荷時の設定)

#### ◆ 簡易暗号化使用制限

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理 (利用制限) をおこないます。

- ・制限する
- ・制限しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ 実行中ジョブへの認証の実施

ジョブキャンセル等の操作に認証を必要とするかしないかを設定します。

[ログイン権限] に設定すると認証の許可があるユーザー、および機器管理者が操作可能です。

[アクセス権限] に設定すると印刷を行ったユーザー、および機器管理者が操作可能です。

- ・ログイン権限
- ・アクセス権限
- ・しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ パスワードポリシー

ベーシック認証が設定されている場合に設定できます。

- ・複雑さ設定

複雑度 1：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号（#など）から 2 種類以上を組み合わせるパスワードを設定します。

複雑度 2：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号（#など）から 3 種類以上を組み合わせるパスワードを設定します。

制限しない（工場出荷時の設定）

- ・最小文字数（0~32）  
文字数を制限しない場合は「0」を入力します。

#### ◆ ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定します。

- ・禁止する
- ・禁止しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ 構成変更

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定します。

- ・禁止する
- ・禁止しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ サービスモード移行禁止設定

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを選択します。

- ・する
- ・しない（工場出荷時の設定）

#### ◆ ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

#### ◆ ネットワークセキュリティーレベル

ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。

- ・レベル 0
- ・レベル 1
- ・レベル 2

#### ↓ 補足

- ・ネットワークセキュリティーレベルは、工場出荷時には設定されていません。

## ◆ メモリー自動消去設定

セキュリティカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリーの自動消去をするかしないかを選択し、する場合は消去方式と上書き回数を設定します。

- ・ する
  - 消去方式
    - ・ NSA 方式
    - ・ DoD 方式
    - ・ 乱数方式
  - 上書き回数（1～9 回の範囲で設定）
- ・ しない（工場出荷時の設定）

## ◆ メモリー全消去

セキュリティカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリー内のデータをすべて消去します。消去方式を選択し、上書き回数を設定します。

- ・ 消去方式
  - ・ NSA 方式
  - ・ DoD 方式
  - ・ 乱数方式
- 上書き回数（1～9 回の範囲で設定）

## ◆ ログ転送設定

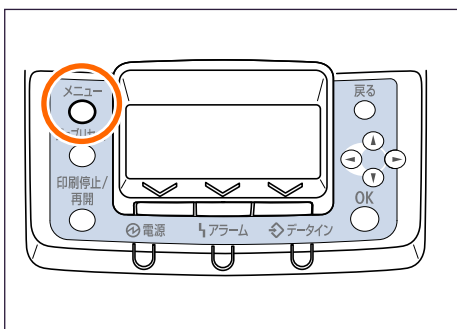
ログの転送をするかしないかを設定します。

- ・ する（ログ収集サーバーからのみ設定可能）
- ・ しない（工場出荷時の設定）

## セキュリティ管理メニューの設定を変更する

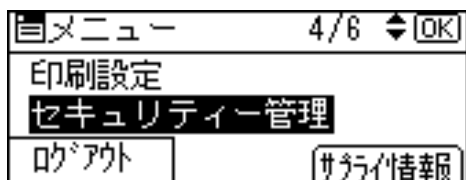
セキュリティ管理メニュー「アドレス帳暗号化」の初回設定方法を例として説明します。

**1** 操作部の【メニュー】キーを押します。

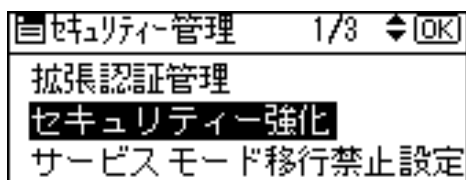


BEI008S

- 2 [▲] [▼] キーを押して、「セキュリティ管理」を選択し、[OK] キーを押します。

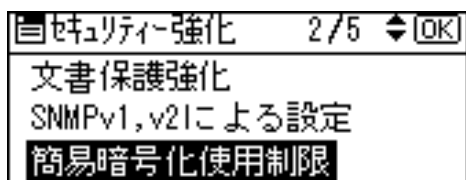


- 3 [▲] [▼] キーを押して、「セキュリティ強化」を選択し、[OK] キーを押します。

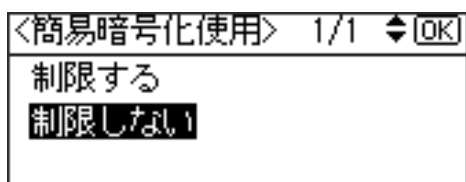


5

- 4 [▲] [▼] キーを押して、「簡易暗号化使用制限」を選択し、[OK] キーを押します。



- 5 [▲] [▼] キーを押して、「制限する」「制限しない」を選択し、[OK] キーを押します。



セキュリティ強化メニューに戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。  
通常画面に戻ります。

# インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機を平行で接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

## インターフェース設定メニューの設定項目

### ◆受信バッファ

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- ・ 128KB (工場出荷時の設定)
- ・ 256KB

### ◆インターフェース切替時間

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると1つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- ・ 10 秒
- ・ 15 秒 (工場出荷時の設定)
- ・ 20 秒
- ・ 25 秒
- ・ 60 秒

### ◆ネットワーク設定

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するために設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- ・ 本体 IPv4 アドレス
  - ・ 自動的に取得 (DHCP)
  - ・ 指定
  - ・ IP アドレス
  - ・ サブネットマスク
  - ・ ゲートウェイ
- ・ IPv6 ステートレス設定
  - ・ 有効 (工場出荷時の設定)
  - ・ 無効
- ・ IPsec
  - ・ 有効
  - ・ 無効 (工場出荷時の設定)
- ・ 有効プロトコル
  - ・ IPv4
  - ・ 有効 (工場出荷時の設定)

無効

- IPv6

有効

無効 (工場出荷時の設定)

- SMB

有効 (工場出荷時の設定)

無効

- イーサネット速度

イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。

- 自動設定 (工場出荷時の設定)

- 10Mbps 半二重固定
- 10Mbps 全二重固定
- 100Mbps 半二重固定
- 100Mbps 全二重固定

## 5

### ◆ パラレルインターフェース設定

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張1284ボード装着時に表示されます。

- パラレルタイミング

パラレルインターフェースのタイミングを設定します。

- ACK inside
- ACK outside (工場出荷時の設定)
- STB down

- パラレル通信速度

パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。

- 高速 (工場出荷時の設定)
- 標準

- セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

- High (工場出荷時の設定)
- Low

- インพุットプライム

インพุットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 有効
- 無効 (工場出荷時の設定)

- 双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、「OFF」に設定します。

- する (工場出荷時の設定)
- しない

◆ USB 設定

USB の速度設定を選択します。

- ・ USB 速度
  - ・ 自動設定（工場出荷時の設定）
  - ・ フルスピード
- ・ USB ポート固定
  - ・ する
  - ・ しない

↓ 補足

- ・ Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは「Web ブラウザーを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

📖 参照

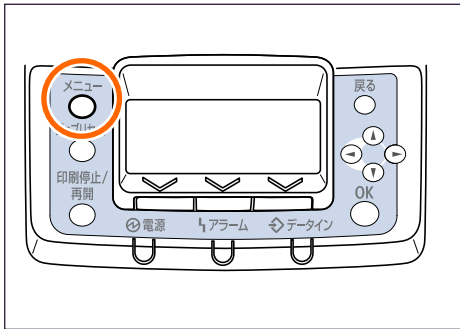
- ・ P.153 「Web ブラウザーを使う」

## インターフェース設定メニューの設定を変更する

5

インターフェース設定メニュー「ネットワーク設定」で、IPv4 アドレスを自動的に取得する（DHCP）ように変更する方法を、例として説明します。

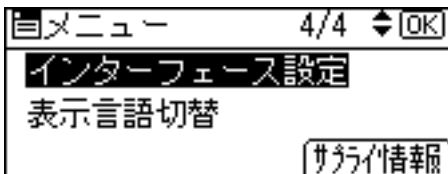
1 操作部の [メニュー] キーを押します



BEJ008S

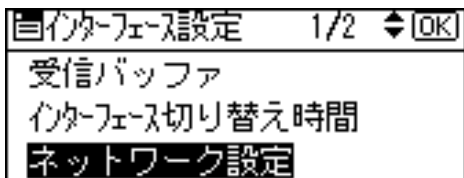
メニュー画面が表示されます。

2 [▲] [▼] キーを押して、[インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。

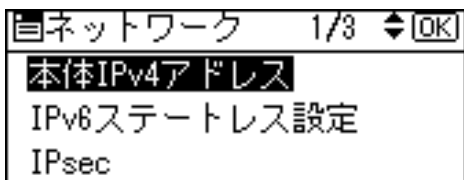


インターフェース設定画面が表示されます。

- 3 [▲] [▼] キーを押して、[ネットワーク設定] を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▲] [▼] キーを押して [本体 IPv4 アドレス] を選択し、[OK] キーを押します。



5

- 5 [▲] [▼] キーを押して [自動的に取得 (DHCP)] を選択し、[OK] キーを押します。



約 2 秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。  
通常の画面が表示されます。

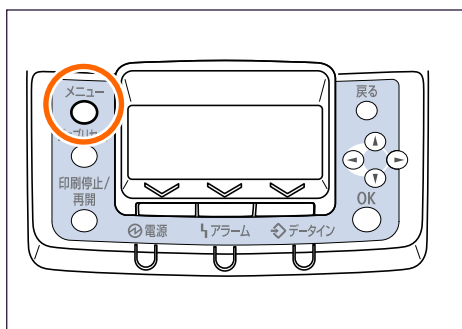


# 表示言語切替

操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。工場出荷時は、日本語に設定されています。

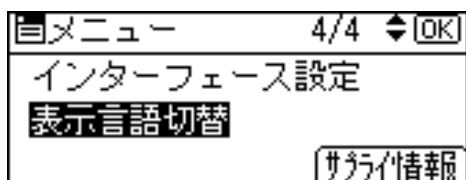
ここでは、日本語から英語に切り替える例を示します。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

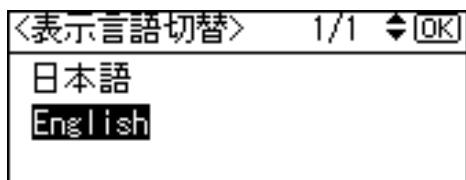


BEJ008S

- 2 [▲] [▼] キーを押して「表示言語切替」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▲] [▼] キーを押して「English」を選択し、[OK] キーを押します。



画面に表示される言語が英語になります。

- 4 【メニュー】キーを押します。  
通常の画面が表示されます。

## 補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

### 補助メニューの項目

補助メニューの設定項目です。

#### ◆ 強制排紙

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

#### ◆ エラー履歴表示

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

- ・ すべて
- ・ 試し印刷文書
- ・ 機密印刷文書
- ・ 保留印刷文書
- ・ 保存文書

#### ◆ エミュレーション呼び出し

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

- ・ RPCS
- ・ PS3
- ・ PDF
- ・ プログラム 1～16

#### ↓ 補足

- ・ 搭載されているエミュレーションか登録されているプログラムを選択できます。
- ・ 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

### 補助メニューの設定を変更する

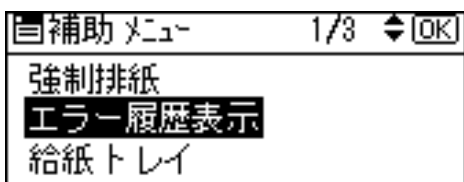
補助メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

#### エラー履歴を確認する

1 [補助メニュー] を押します。

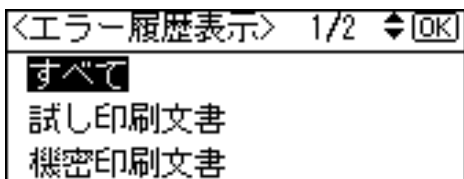


- 2 [▼] [▲] キーを押して[エラー履歴表示]を選択し、[OK]キーを押します。

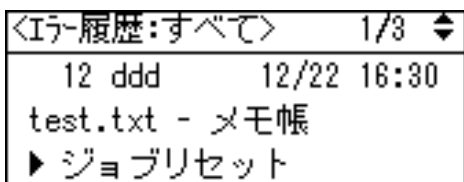


エラー履歴が表示されます。セキュリティの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押してエラー履歴の種類を選択し、[OK]キーを押します。



- 4 [▼] [▲] キーを押して確認したいエラー履歴を選択し、[戻る]キーを押します。



エラー履歴の詳細が表示されます。

- 5 [メニュー] キーを押します。



# 6. 機器の監視

Web Image Monitor を使った設定について説明しています。

## Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

### ◆ どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- ・ 機器の状態／設定の表示
- ・ ジョブの状態／履歴の確認
- ・ 印刷中ジョブの中止
- ・ 本機のリセット
- ・ アドレス帳の管理
- ・ 本機の各種設定
- ・ メール通知機能の設定
- ・ ネットワークプロトコルに関する設定
- ・ セキュリティーの設定

### ◆ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

### ◆ 推奨ブラウザ

- ・ Windows 環境：  
Internet Explorer 5.5 SP2 以降  
Firefox 1.0 以降

### ↓ 補足

- ・ 使用するブラウザのバージョンが推奨ブラウザより低い場合や、使用するブラウザの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- ・ プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ・ ブラウザーの [戻る] で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザの [更新] または [再読み込み] をクリックしてください。

- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された [最新の情報に更新] をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。

---

## トップページを表示する

---

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

**1** Web ブラウザーを起動します。

**2** Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。

IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL (暗号化通信) の設定をしている場合は、「https:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。



### 1 ヘッダーエリア

ヘルプ、日立プリンタ Homepage へのリンクや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

### 2 メニューエリア

ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン / ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。

メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

### 3 ヘルプ

ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

### 4 ワークエリア

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の [最新の情報に更新] をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの [更新] をクリックしてください。

#### ↓ 補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

---

## ユーザー認証が設定されているとき

---

### Web Image Monitor からのログインのしかた

---

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログインします。

**1** [ログイン] をクリックします。

**2** ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

↓ 補足

- ・ユーザーコード認証のときは、ユーザー名にユーザーコードを入力して、[OK] をクリックします。
- ・ご使用の Web ブラウザーにより操作は異なります。

## 6

### Web Image Monitor からのログアウトのしかた

---

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログアウトするときは、[ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- ・ログインをした場合、操作が完了したら、必ず [ログアウト] をクリックしてログアウトしてください。



## メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

### ◆ ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



#### 1 ホーム

給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターを表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

#### 2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

#### 3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

#### 4 ジョブ

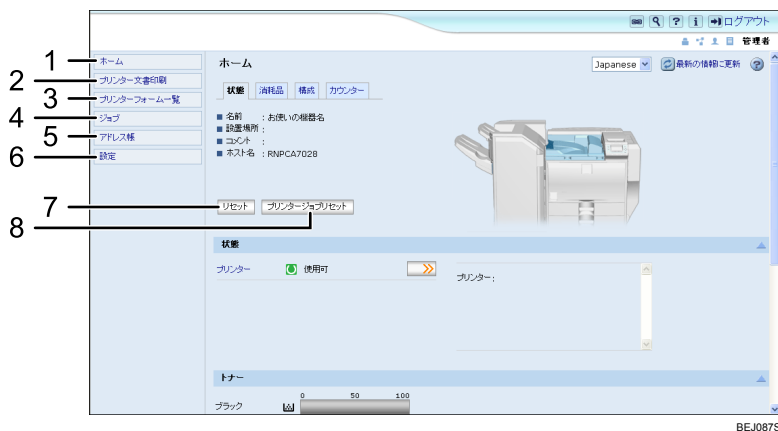
スプール印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示、および試し印刷／機密印刷の一覧表示ができます。

#### 5 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。また、ヘルプファイルのダウンロードをすることができます。

## ◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



## 1 ホーム

[状態] タブ、[消耗品] タブ、[構成] タブ、[カウンター] タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

## 2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

## 3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

## 4 ジョブ

各ジョブの一覧を表示することができます。

## 5 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

## 6 設定

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティの設定ができます。

## 7 リセット

トップページの [リセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

## 8 プリンタージョブリセット

トップページの [プリンタージョブリセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

## ↓ 補足

- ・表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

## 管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

- 1 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。



- 2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

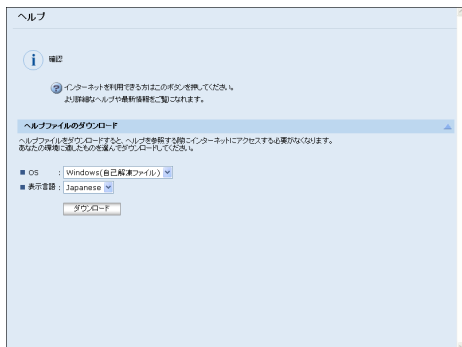
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

6

## Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された 、またはワークエリアに表示された  をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。



- ◆ インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る  
最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

- ◆ Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る  
Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

**↓ 補足**

- ヘッダーエリアに表示された **?** をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された **?** をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

## ヘルプのダウンロード

- 1 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。



- 2 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。
- 3 [ダウンロード] をクリックします。
- 4 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。
- 5 ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。  
ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

## ヘルプへのアドレス (URL) リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された? のアドレス (URL) を次の手順でリンクすることができます。

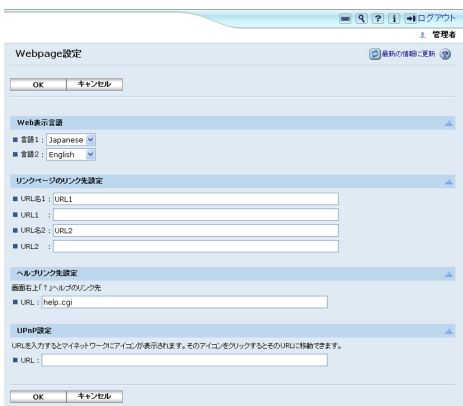
- 1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックします。



- 3 [Webpage] メニューの [Webpage 設定] をクリックします。



- 4 「ヘルプリンク先設定」の [URL] にヘルプファイルへのパスを入力します。



例えば、C:\HELP\JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーして URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

- 5 [OK] をクリックします。

# Network Monitor for Admin を使う

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

## ◆ Windows の対象 OS とプロトコルスタック

- Windows 2000 日本語版  
Windows 2000 に同梱の TCP/IP プロトコル  
Novell Client for Windows NT/2000/XP
- Windows Server 2003 日本語版  
Windows Server 2003 に同梱の TCP/IP プロトコル
- Windows XP 日本語版  
Windows XP に同梱の TCP/IP プロトコル  
Novell Client for Windows NT/2000/XP
- Windows Vista 日本語版  
Windows Vista に同梱の TCP/IP プロトコル  
Novell Client for Windows NT/2000/XP/Vista

## 6

## ◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Admin では以下の操作ができます。

- 機器の操作部からの設定を制限し、一部の項目を変更できないようにします。
- 機器にセットされている用紙の種類を設定できます。
- 省エネモードへの切り替え、復帰などを設定できます。
- 印刷中、用紙切れなどの情報をパソコン上で確認できます。
- 同時に複数の機器を監視できます。機器の台数が多いときはグループを作り、管理しやすいように機器を分類できます。
- 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- 機器のネットワークに関する設定を変更できます。
- パソコンから行ったジョブの結果を確認できます。
- ユーザーコードごとのカウンター情報を確認できます。
- 登録されたユーザーコードごとに、印刷の利用可・不可を管理できます。
- 機器の状態変化をグループごとに設定し、通知することができます。
- メールの送信者名やフォルダの宛先を保護します。

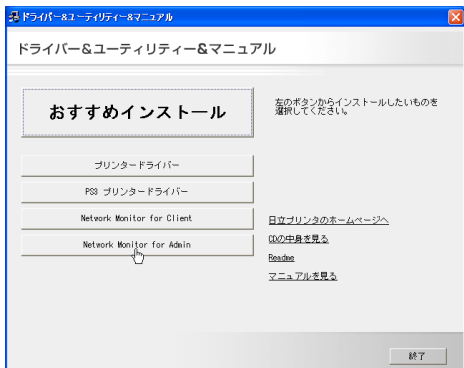
## Network Monitor for Admin のインストール

Network Monitor for Admin のインストールについての説明です。

### ★重要

- ・起動しているすべてのアプリケーションを終了し、パソコンが印刷中でないか確認してください。

- 1 本機に同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 2 セットアップ画面が表示されたら、[Network Monitor for Admin]をクリックします。



Network Monitor for Admin のセットアップ画面が表示されます。

- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 「使用許諾契約」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。
- 5 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Admin をインストールします。  
インストールが完了するとメッセージが表示されます。
- 6 [完了] をクリックします。  
「Windows の再起動」ダイアログが表示される場合は、Windows を再起動してください。

### ↓補足

- ・システムの設定によってはインストーラーが自動的に起動しないことがあります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。

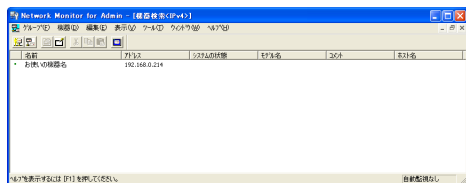
## ネットワークインターフェイスボードの設定を変更する

Network Monitor for Admin を使って、ネットワークインターフェイスボードの設定を変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。



6

- 3 一覧からネットワークインターフェイスボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。

- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。

Web ブラウザーが起動して、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ネットワークインターフェイスボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザー] をチェックして、[OK] をクリックします。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

- 6 必要な項目を入力し、設定します。

- 7 Web Image Monitor を終了します。

- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

### 参照

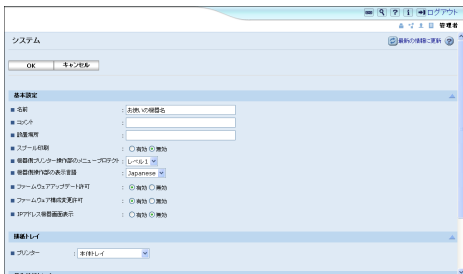
- P.153 「Web ブラウザーを使う」



## 機器側操作部のメニューをロックする

機器側操作部のメニューをロックする方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から機器側操作部のメニューをロックしたい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[機器側操作部のメニューロック] をクリックします。  
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。  
Web Image Monitor に機器設定エリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 Web Image monitor を終了します。
- 7 Network Monitor for Admin を終了します。

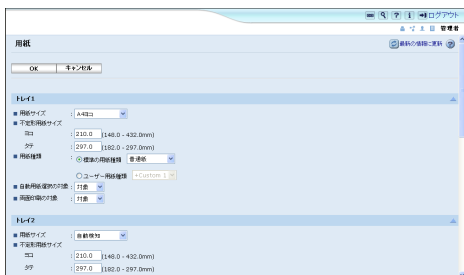
### ↓ 補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。

## 用紙種類を設定する

用紙種類を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から用紙種類を設定したい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[用紙種類設定] をクリックします。  
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [OK] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。  
Web Image Monitor に機器設定エリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 Web Image Monitor を終了します。
- 7 Network Monitor for Admin を終了します。

### 補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。

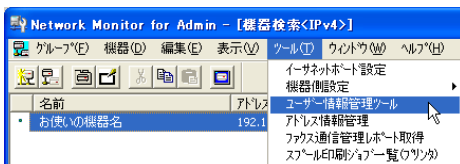
## ユーザー情報を管理する

Network Monitor for Admin でユーザー情報を管理する方法の説明です。  
ユーザー情報管理ツールを使用して、ユーザーコードごとの印刷枚数を管理したり、利用可能な機能を制限したりすることができます。

## ユーザー情報管理ツールを起動する

ユーザー情報管理ツールを起動する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からユーザー情報を管理する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [ユーザー情報管理ツール] を選択します。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。  
ユーザー情報管理ツールが起動します。



### ↓ 補足

- ユーザー情報管理ツールについて詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

## 印刷枚数を表示する

ユーザー別の印刷枚数情報を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



本機で印刷した枚数に関する情報が表示されます。

- 3 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

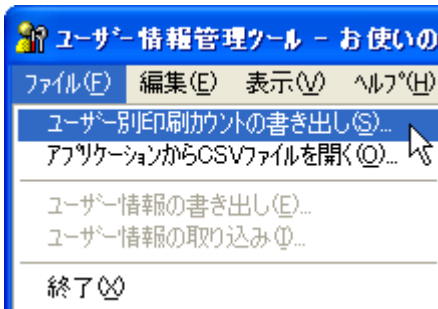
## 印刷枚数の情報を保存する

ユーザー別の印刷枚数情報を csv ファイルで保存する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



- 3 [ファイル] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントの書き出し] をクリックします。



- 4 保存するフォルダとファイル名を指定し、[保存] をクリックします。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

## 印刷枚数の情報をリセットする

ユーザーごとに、印刷枚数の情報をリセットし、表示を0に戻す方法の説明です。

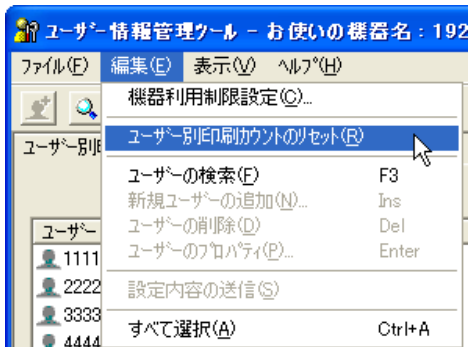
- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



- 3 リセットするユーザーをクリックします。

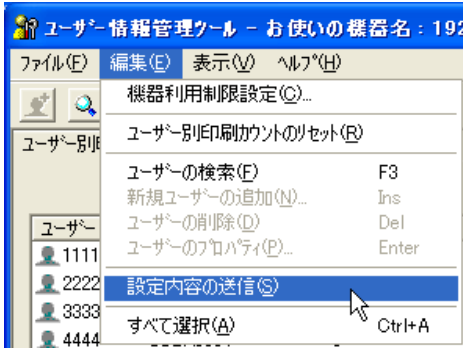


- 4 [編集] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントのリセット] をクリックします。



- 5 リセットする項目のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。  
確認のメッセージが表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



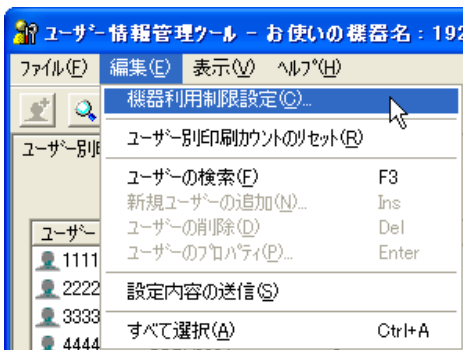
変更した情報が本機に反映されます。

- 8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

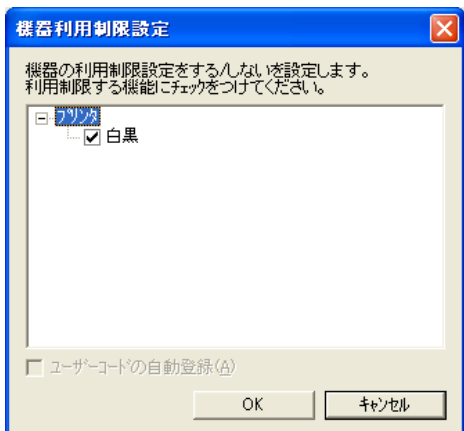
## 利用制限を設定する

本機の機能について、機能ごとに利用制限を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [編集] メニューをクリックし、[機器利用制限設定] をクリックします。



### 3 利用制限を設定する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



### 4 [OK] をクリックします。 設定内容が本機に反映されます。

### 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

## 6

## ユーザーごとに利用可能な機能を設定する

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する方法の説明です。  
ここでは、ユーザーを追加して利用可能な機能を設定する方法を説明します。

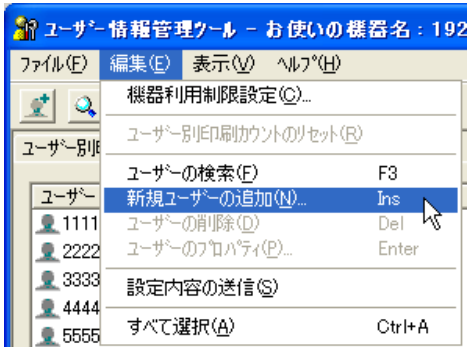
### 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

### 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別利用制限情報] タブをクリックします。



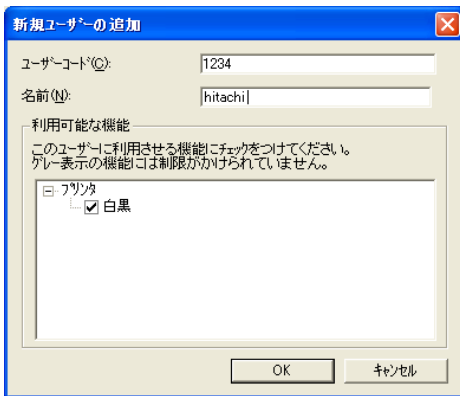


### 3 [編集] メニューをクリックし、[新規ユーザーの追加] をクリックします。



### 4 ユーザーコードと名前を入力します。

### 5 追加したユーザーに使用を許可する機能のチェックボックスにチェックを付けます。

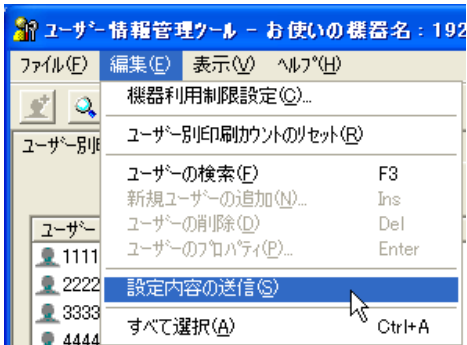


チェックボックスがグレーになっている機能は利用制限が設定されていません。

### 6 [OK] をクリックします。

ユーザーが追加されます。

### 7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



設定内容が本機に反映されます。

- 8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

↓ 補足

- ・利用制限の設定方法について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

---

## 省エネモードを設定する

---

省エネモードを設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から省エネモードを設定する機器をクリックして反転表示させます。  
グループ内の機器を全て設定したいときには選択する必要はありません。
- 4 [グループ] メニューをクリックし、[省エネモード] をポイントします。  
グループ内の機器を全て設定する場合は [グループ機器] を選択します。選択した機器だけを設定する場合は [選択機器] を選択します。いずれの場合も表示されたメニューから設定したい省エネモードを選択します。
- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

- ・省エネモードの設定値について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

---

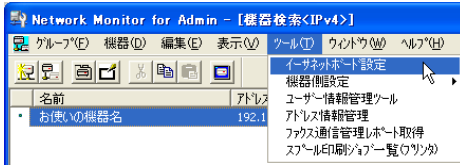
## パスワードを設定する

---

パスワードを設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。



Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

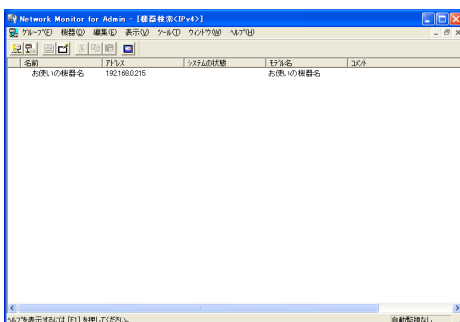
ネットワークインターフェースボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。画面の表示に従って設定をしてください。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 [設定] をクリックします。
- 7 [機器] の [管理者登録 / 変更] をクリックし、設定を変更します。
- 8 Web Image Monitor を終了します。
- 9 Network Monitor for Admin を終了します。

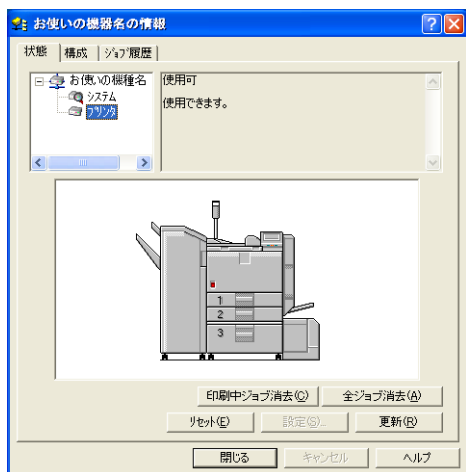
## 機器の状態を表示する

機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。一覧に機器の状態がアイコンで表示されます。



- 3 より詳しい状態を知りたい場合は、一覧で状態を知りたい機器をクリックして反転表示させ、[機器] メニューの [開く] をクリックします。選択した機器の状態が、ダイアログに表示されます。
- 4 [システム] または [プリンタ] をクリックします。機器の状態が表示されます。



- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

#### ↓ 補足

- ・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

## 本体機器名とコメントを変更する

本体機器名とコメントを変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。機器の一覧が表示されます。IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 設定する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [イーサネットボード設定] をクリックします。Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

- 5 [設定] をクリックします。
- 6 [機器] の [システム] をクリックし、設定を変更します。
- 7 Web Image Monitor を終了します。
- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

- ・[名前] には、本体機器名を半角英数字 31 バイト以内で入力します。
- ・工場出荷時には RNP で始まる名前が設定されています。RNP で始まる名前は入力できません。
- ・[コメント] には、機器のコメントを半角英数字 31 バイト以内で入力します。

## スプール印刷ジョブの一覧を確認する

スプール印刷ジョブの一覧を確認する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。  
機器の一覧が表示されます。  
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 スプール印刷ジョブの一覧を確認したい機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [スプール印刷ジョブ一覧 (プリンタ)] をクリックします。  
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。  
Web Image Monitor にスプール印刷ジョブ一覧が表示されます。表示されたスプール印刷ジョブを削除することができます。

↓ 補足

- ・スプール印刷ジョブ一覧を表示するためには、あらかじめ本機のスプール印刷を [有効] に設定する必要があります。
- ・詳しくは、スプール印刷ジョブ一覧エリア内のヘルプを参照してください。

## アドレス情報を管理する

アドレス情報を管理する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

- 3 アドレス情報を管理する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [アドレス情報管理] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

アドレス情報管理ツールが起動します。

### ↓ 補足

- 詳しくは、アドレス情報管理ツールのヘルプを参照してください。

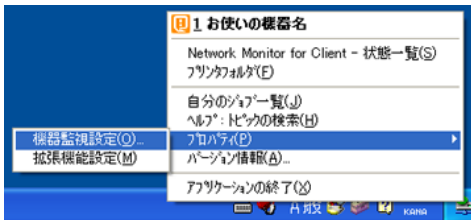
# Network Monitor for Client を使う

Network Monitor for Client を使って機器を監視する方法の説明です。

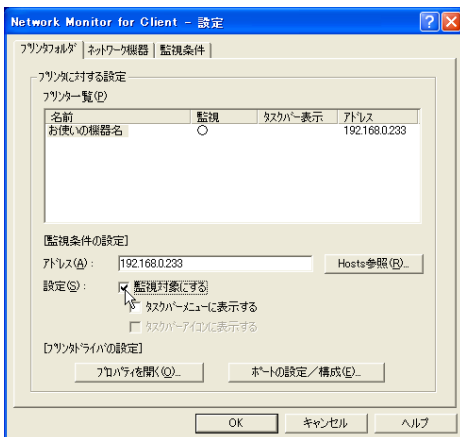
## 監視する機器を設定する

Network Monitor for Client で監視する機器を設定する方法の説明です。

- 1 タスクバーの Network Monitor for Client アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの [プロパティ] - [機器監視設定] をクリックします。



- 2 「Network Monitor for Client- 設定」ダイアログが表示されます。
- 3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、[設定] の [監視対象にする] にチェックを付けます。



[タスクバーアイコンに表示する] にチェックを付けると、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。

- 4 [OK] をクリックします。  
ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

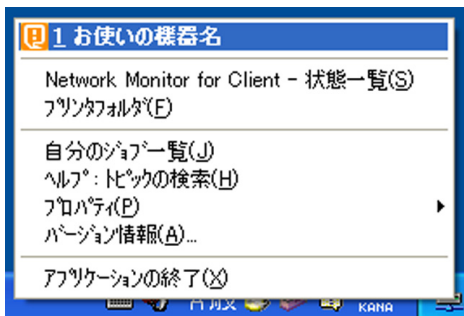
### 補足

- ・状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

## 機器の状態を表示する

Network Monitor for Client で機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 タスクバーの右端の Network Monitor for Client アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。



機器の状態が、ダイアログに表示されます。



### ↓ 補足

- ・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。



## Network Monitor for Client で IPP を使用する場合

Network Monitor for Client で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Network Monitor for Client からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Network Monitor for Client を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Network Monitor for Client は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Network Monitor for Client が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが一時停止されます。この場合、プリンターウィンドウで一時停止を解除する必要があります。このとき、本機に接続し直されます。印刷ジョブは、プリンターウィンドウで取り消すことができますが、本機が印刷を開始してから印刷ジョブを取り消すと、この次にプリンターに接続したユーザーの印刷ジョブが正しく印刷できなくなる場合があります。
- Network Monitor for Client からの印刷ジョブが途切れて印刷できなくなって本機により印刷ジョブが取り消された場合は、印刷の操作をもう一度やり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Network Monitor for Client を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Network Monitor for Client がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https:// (本機のアドレス) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスするとき、[セキュリティの警告] が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

### ↓ 補足

- SSL (暗号化通信) について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

## 機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙づまりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

通知設定できるものは、以下の通りです。

- ・ サービスコールが発生した場合
- ・ トナーがなくなった場合
- ・ トナーの残りがわずかになった場合
- ・ メンテナンスキット（ドラムユニット）が交換時期になった場合
- ・ 紙づまりがおきた場合
- ・ ドアオープンが検知された場合
- ・ 紙がなくなった場合
- ・ 紙の残りがわずかになって場合
- ・ 給紙トレイでエラーが発生した場合
- ・ 排紙トレイが満杯になった場合
- ・ ユニットの接続にエラーが発生した場合
- ・ ログエラーになった場合
- ・ ステープルの針がなくなった場合
- ・パンチくずが満杯になった場合
- ・ ハードディスクの文書保存領域が満杯に近づいた場合
- ・ メンテナンスキット（ドラムユニット）の交換時期が近づいた場合
- ・ アクセス攻撃を受けた場合

**1** 本機の操作部を使用して、[システム設定]メニューの[メール通知設定]を[する]に設定します（工場出荷時は[する]に設定されています）。

**2** Web ブラウザを起動し、Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。Web Image Monitor のトップページが表示されます。

### 3 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

### 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

### 5 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] をクリックして表示される [メール] をクリックします。

### 6 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- ・ 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- ・ 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- ・ SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。  
SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「SMTP 認証の場合」を参照してください。
- ・ POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。  
POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「POP before SMTP 認証の場合」を参照してください。
- ・ POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- ・ メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- ・ メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

### 7 [OK] をクリックします。

## 「自動メール通知」の設定

- 1 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] エリアの [自動メール通知] をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。



## 2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- ・ 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- ・ 通知先グループ欄の各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- ・ 項目ごとの通知先欄の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。  
項目の詳細を設定する場合は、[各項目の詳細設定:] の [編集] をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して [OK] をクリックします。

## 3 [OK] をクリックします。

## 4 [ログアウト] をクリックします。

## 5 Web ブラウザーを閉じます。

# 「要求時メール通知」の設定

## 1 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] エリアの [要求時メール通知] をクリックします。



## 2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- ・ 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- ・ 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- ・ 要求時メール通知のアクセス制限の各項目：機器の設定内容や状態など、分類された情報ごとに、アクセスを制限するかどうかを選択します。
- ・ 受信可能メールアドレス / ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [ログアウト] をクリックします。
- 5 Web ブラウザーを閉じます。

---

## メールの認証について

---

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

### ◆ SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

- 1) 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
  - SMTP 認証：SMTP 認証の有効/無効を指定します。
  - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
  - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に @ realmID の形式で追加してください。
  - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
  - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。  
[自動選択]：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。  
[有効]：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。  
[無効]：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web ブラウザーを閉じます。

### ◆ POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

- 1) 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
  - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
  - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
  - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
  - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web ブラウザーを閉じます。

## 要求時メールの送信

要求時メール機能を使用するためには、Web Image Monitor で以下の設定をしてください。

**1** [機器] メニューの [メール] をクリックします。

**2** 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- ・メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- ・メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- ・メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- ・メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

**3** [OK] をクリックします。

**4** [ログアウト] をクリックします。

**5** Web ブラウザーを閉じます。

### ◆ 要求時メールの形式

メール通知機能を使用するためには、設定した要求メールを本機に対して送信する必要があります。

お使いのメールソフトで、以下の形式で記述してください。

項目	内容
Subject (メールソフトでは「件名」などと表示される部分)	機器に対する要求内容を記述します。詳細は Subject フィールドを参照してください。
From (メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分)	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

#### ↓ 補足

- ・メールの大きさは最大 1MB です。

### ◆ Subject フィールド

書式：devicestatus? 引数名 = パラメーター [& 引数名 = パラメーター [& 引数名 = パラメーター ]]

#### ↓ 補足

- ・英字の大文字と小文字は区別されません。
- ・引数名の記述順序は任意です。

### Subject フィールドの記述例

記述例	動作
devicestatus?request=sysconfig&format=text&lang=en	機器のシステムコンフィグレーション情報が、英語のテキストフォーマットで送信されてきます。

記述例	動作
devicestatus?request=sysconfig	機器のシステムコンフィグレーション情報が、事前に設定されているメールフォーマットとメール言語で送信されてきます。

### 引数名一覧

引数名	意味	省略時の動作
request	取得したい情報	省略不可
format	メールフォーマット	メールアドレスごとに事前に、設定されているフォーマットでメールが送信されます。
lang	メール本文の言語	メールアドレスごとに事前に、設定されている言語でメールが送信されます。

### 取得情報指定時のパラメーター

取得情報	パラメーター
システム・コンフィグレーション情報	sysconfig
ネットワーク・コンフィグレーション情報	netconfig
プリンタ・コンフィグレーション情報	prtconfig
サプライ情報	supply
機器ステータス情報	status

### メールフォーマット指定時のパラメーター

メールフォーマット	パラメーター
テキスト	text
HTML	html
XML	xml

Subject フィールドに HTML や XML なども記述できますが、出力方式はテキストのみとなります。

### メール本文言語指定時のパラメーター

言語	パラメーター
日本語	ja
英語	en

# telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容の確認や、各種の設定を行うことができます。

## ★重要

- ・リモートメンテナンス (mshell) はネットワーク管理者だけが使用できるように、パスワードを設定して運用してください。
- ・パスワードは Web Image Monitor による設定で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

## ↓補足

- ・お使いの機種によっては、設定できないコマンドがあります。

## 操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

## ★重要

- ・リモートメンテナンスを同時に複数のユーザが使用することはできません。

### 1 本機の IP アドレス (またはホスト名) を引数にして telnet を起動します。

```
% telnet 本機のアドレス
```

### 2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ログイン名にはログインユーザー名を、パスワードにはログインパスワードを入力してログインします。

### 3 コマンドを入力します。

### 4 telnet を終了します。

```
msh> logout
```

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

### 5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、Enter キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、Enter キーを押します。コマンド入力が続けるときは「return」と入力し、Enter キーを押します。

## ↓補足

- ・「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- ・変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。
- ・リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。



## access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> access
```

### ◆ IPv4 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

### ◆ IPv6 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

### ◆ IPv6 のアクセスマスクの設定

```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
```

### ◆ アクセスコントロールの初期化

```
msh> access flush
```

- ・アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

### ↓ 補足

- ・アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- ・アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- ・IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。
- ・IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- ・IPv6 のマスク長は 1~128 の範囲で指定できます。
- ・制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

---

## authfree

---

プリンタジョブ認証時の認証を除外する IP アドレス範囲設定を行うには、authfree コマンドを使用します。認証除外制御の表示と設定方法は以下のとおりです。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> authfree
```

- ・プリンタジョブ認証が認証除外に設定されていない場合、認証除外制御の情報は表示できません。

### ◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> authfree 対象 ID range_addr1 range_addr2
```

### ◆ IPv6 アドレスのレンジでの設定

```
msh> authfree 対象 ID range6_addr1 range6_addr2
```

### ◆ IPv6 アドレスのマスクでの設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6_addr1 masklen
```

### ◆ IEEE 1284/USB の設定

```
msh> authfree [parallel|usb] [on|off]
```

- ・authfree 機能を有効するには「on」を、無効にするときは「off」を指定します。
- ・インターフェースを必ず指定してください。

### ◆ 設定を工場出荷値に戻す

```
msh> authfree flush
```

### ↓ 補足

- ・IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。

---

## autonet

---

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> autonet
```

### ◆ AutoNet 機能の設定

```
msh> autonet {on|off}
```

- ・AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

### ◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> autonet priority
```

### ◆ インターフェースの優先設定

```
msh> autonet priority インターフェース
```

- ・AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- ・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着しているときに有効です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

### 補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

### 参照

- P.296 「AutoNet 機能を使用する」

## devicename

本体機器名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

### ◆ 本体機器名の設定

```
msh> devicename name 文字列
```

- 本体機器名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体機器名を設定することはできません。

### ◆ 本体機器名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- 本体機器名を工場出荷時の設定に戻します。

## dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

### ◆ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

### ◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

### ◆ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

#### ◆ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

#### ◆ ドメイン名の選択

```
msh> dhcp domainname {dhcp/static}
```

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

#### 📖 参照

- P.296 「DHCP を使用する」
- P.193 「dns」
- P.195 「domainname」

## 6

## dhcp6

DHCPv6 の表示や設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

#### ◆ 現在の設定の表示

次の設定値が表示されます。

```
msh> dhcp6
```

#### ◆ 設定と表示

```
msh> dhcp6 "interface_name" lite {on|off}
```

#### ◆ DNS サーバーアドレスの選択の表示と設定 (dhcpv6 サーバー/ユーザー設定値から取得する場合)

```
msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}
```

#### ◆ DUID (DHCP の ID) の削除と表示

```
msh> dhcp6 duid clear
```

#### ◆ dhcpv6 から取得したパラメーターを再取得するのに要する時間の表示と設定

```
msh> dhcp6 option lifetime [0-65535]
```

- 0~65535 秒の間で設定できます。
- 工場出荷時の設定値は 60 (分) です。
- 0 を選択した場合、値を再取得することはできません。

---

## diprint

---

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> diprint
```

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300(sec)
bidirect on
con multi
apl async
```

- ・「port」使用するポート番号が表示されます。
- ・「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

### ◆ 使用するポート番号の変更

```
msh> diprint port [1024~65535]
```

- ・使用するポート番号を設定します。
- ・工場出荷時の設定値は 9100 です。

### ◆ タイムアウトの設定

```
msh> diprint timeout [30~65535]
```

- ・ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定します。
- ・工場出荷時の設定値は 300（秒）です。

### ◆ 双方向通信の有効／無効の設定

```
msh> diprint bidirect [on|off]
```

- ・diprint での双方向通信を有効にするには on、無効にするには off を指定します。

### ◆ 同時接続数の設定

```
msh> diprint conn {multi|single}
```

- ・diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。

### ◆ 同期処理の設定

```
msh> diprint apl [async|sync]
```

- ・コネクション切断処理と APL 終了処理を、同期させる（sync）かさせない（async）かを設定します。

---

## dns

---

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

### ◆ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server アドレス
```

- ・IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。

- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。
- ・「255.255.255.255」は設定できません。

#### ◆ IPv6 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server6 アドレス

- ・IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。

#### ◆ ダイナミック DNS 機能の設定

msh> dns インターフェース ddns {on|off}

- ・ダイナミック DNS 機能の有効/無効を指定します。
- ・ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

#### ◆ レコード重複時の動作指定

msh> dns overlap {update|add}

- ・レコードが重複したときの動作を指定します。
- ・update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- ・add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- ・CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

#### ◆ CNAME の登録

msh> dns cname {on|off}

- ・CNAME を登録するかどうかを指定します。
- ・CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

#### ◆ A レコードの登録

msh> dns arecord {dhcp|own}

- ・dhcp は本機を代行して、DHCP サーバが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- ・own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

#### ◆ レコードの更新間隔の設定

msh> dns interval 更新間隔時間

- ・ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- ・更新間隔を 1 時間単位で指定します。1~255 の間で指定します。
- ・初期値は「24」です。

## domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> domainname
```

◆ 現在の各インターフェースのドメイン名表示

```
msh> domainname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのドメイン名設定

```
msh> domainname インターフェース name ドメイン名
```

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

◆ 各インターフェースのドメイン名削除

```
msh> domainname インターフェース clear name
```

## help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

◆ コマンド一覧の表示

```
msh> help
```

◆ コマンド使用方法の表示

```
msh> help コマンド名
```

## hostname

ホスト名を変更するには、hostname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> hostname
```

◆ 現在の各インターフェースのホスト名表示

```
msh> hostname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

## ◆ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

## ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレス、デフォルトゲートウェイアドレスの表示や設定は、ifconfig コマンドを使用します。

## ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

## ◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

- ・この設定しない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

(例) イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

## ◆ IPv6 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

(例) イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

## ◆ ネットマスクの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

(例) イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

## ◆ ブロードキャストアドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース broadcast アドレス
```

## ◆ インターフェース切り替え

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

(例) 接続時にイーサネットを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

### ↓ 補足

- ・設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- ・設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- ・アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。



---

## info

---

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

### ◆ 機器情報の表示

```
msh> info
```

#### 目 参照

- P.213 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## ipds

---

ipds の表示と設定は、ipds コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

次の設定値が表示されます。

```
msh> ipds
```

---

## ipp

---

IPP の使用環境の設定は、IPP コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

### ◆ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout [30~65535]
```

- 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30~65535 秒です。

### ◆ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

### ◆ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

次のメッセージが表示されます。

```
msh> Input user number (1 to 10):
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
```

```
msh> IPP password:*****
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```

---

## ipsec

---

IPsec の表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

次の設定値が表示されます。

```
msh> ipsec
```



- ・表示項目については、セキュリティガイドを参照してください。

---

## ipv6

---

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

```
msh> ipv6
```

◆ **ステートレスアドレスの有効/無効設定**

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

6

---

## lpr

---

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

```
msh> lpr
```

◆ **ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効/無効設定**

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

◆ **プリンタエラー検知機能対応の有効/無効設定**

```
msh> lpr prnerrchk {on|off}
```

---

## passwd

---

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

◆ **パスワードの変更**

```
msh> passwd
```

- ・ [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- ・ [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- ・ [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

◆ **スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更**

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- ・ [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- ・ [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

**↓ 補足**

- ・パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- ・入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 3~8 バイトの範囲です。大文字と小文字も区別されます。

---

## pathmtu

---

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

**◆ 現在の設定の表示**

```
msh> pathmtu
```

**◆ PathMTU Discovery サービス有効 / 無効の切替設定**

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- ・工場出荷時は「ON」になっています。
- ・送信データの MTU サイズが、ルータの MTU より大きいと、ルータから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- ・環境によってはルータからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

---

## prnlog

---

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

**◆ プリントログ情報の表示**

```
msh> prnlog
```

- ・これまでに印刷した最新の印刷ジョブ 20 件分のプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog {ID 番号}
```

- ・表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

**目 参照**

- ・P.213 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## rhpp

---

rhpp プロトコル情報の表示、設定は rhpp コマンドを使用します。

**◆ 現在の設定の表示**

```
msh> rhpp
```

**◆ 使用するポート番号の変更**

```
msh> rhpp [1024~65535]
```

デフォルト値は 59100 です。

## ◆ タイムアウトの設定 (秒)

```
msh> rhpp timeout [30~65535]
```

デフォルト値は 300 (秒) です。

 補足

- rhpp は RICOH Host Printing Protocol の略で、リコー独自のプロトコルです。

---

## route

---

TCP/IP ルーティングテーブルの表示、設定は、route コマンドを使用します。

## ◆ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。  
destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

## ◆ 指定された IPv4 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} destination {on|off}
```

- {host | net} 省略時は host 設定となります。

## ◆ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} destination gateway
```

- destination で表される host(または network)ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host | net} 省略時は host 設定となります。

## ◆ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default gateway
```

## ◆ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} destination
```

- {host | net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

## ◆ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default gateway
```

## ◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 {destination} prefixlen gateway
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

## ◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

## ◆ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

## ◆ 指定された IPv6 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active6 {destination} prefixlen {on|off}
```

**◆ 全 route 情報の削除設定**

```
msh> route flush
```

**↓ 補足**

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1~128 の 10 進数です。

---

## set

---

プロトコルの情報の表示、有効/無効の設定は、set コマンドを使用します。

**◆ デバイスの情報（有効/無効）の表示**

```
msh> set parallel
msh> set usb
```

**◆ プロトコルの情報（有効/無効）の表示**

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set smb
msh> set protocol
```

- protocol を指定すると、ipv4、ipv6、smb の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set nbt
msh> set ssdp
```

```
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
```

#### ◆ プロトコルの有効/無効の設定

- ・プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

- ・IPv4 でのみ通信可能の状態を IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv4 を無効にすると、lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http も使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

- ・IPv6 でのみ通信可能の状態を IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6 も使用できなくなります。

```
msh> set smb {up|down}
```

```
msh> set lpr {up|down}
```

```
msh> set lpr6 {up|down}
```

```
msh> set ftp {up|down}
```

```
msh> set ftp6 {up|down}
```

```
msh> set rsh {up|down}
```

```
msh> set rsh6 {up|down}
```

```
msh> set diprint {up|down}
```

```
msh> set diprint6 {up|down}
```

```
msh> set web {up|down}
```

```
msh> set snmp {up|down}
```

```
msh> set ssl {up|down}
```

```
msh> set ssl6 {up|down}
```

- ・本機に SSL (暗号化通信) の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL (暗号化通信) を使用することはできません。

```
msh> set nrs {up|down}
```

```
msh> set rfu {up|down}
```

```
msh> set rfu6 {up|down}
```

```
msh> set ipp {up|down}
```

```
msh> set ipp6 {up|down}
```

```
msh> set http {up|down}
```

```
msh> set http6 {up|down}
```

```
msh> set ssh {up|down}
```

```
msh> set ssdp {up|down}
```

```
msh> set nbt {up|down}
```

```
msh> set sftp {up|down}
```

```
msh> set sftp6 {up|down}
```

---

## show

---

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- ・ -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- ・ SMB プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

### 目 参照

- ・ P219 「ネットワークインターフェースボードの情報」

---

## smb

---

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

### ◆ コンピュータ名の設定

```
msh> smb comp
```

- ・ RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

### ◆ ワークグループ名の設定

```
msh> smb group
```

- ・ 英数半角 15 文字以下で設定します。

### ◆ コメントの設定

```
msh> smb comment
```

- ・ 英数半角 31 文字以下で設定します。

### ◆ 印刷完了通知の設定

```
msh> smb notif {on | off}
```

- ・ 印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

### ◆ コンピュータ名の削除

```
msh> smb clear comp
```

### ◆ グループ名の削除

```
msh> smb clear group
```

### ◆ コメントの削除

```
msh> smb clear comment
```

### ◆ プロトコルの表示

```
msh> smb protocol
```

## snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> snmp
```

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  - コミュニティ名：public
  - IPv4 アドレス：0.0.0.0
  - IPv6 アドレス：::
  - アクセスタイプ：read-only
  - 有効プロトコル：IPv4/IPv6
- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  - コミュニティ名：admin
  - IPv4 アドレス：0.0.0.0
  - IPv6 アドレス：::
  - アクセスタイプ：read-write
  - 有効プロトコル：IPv4/IPv6
- p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

### ◆ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

### ◆ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

- 設定できる登録番号は 1~10 です。
- 登録番号の 1~10 に public が存在しない場合、Network Monitor for Admin や Network Monitor for Client から機器を参照することはできません。コミュニティ名を変更した場合、Network Monitor for Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティ名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティ名を変更してください。
- コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。

### ◆ コミュニティ名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

### ◆ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません (not accessible)
read	情報の読み出しのみ可能 (read-only)
write	情報の読み出しと書き込みが可能 (read-write)
trap	エラー情報を通知 (trap)

### ◆ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6} {on|off}
```



- ・使用可能なプロトコルを選択します。
- ・プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- ・すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません。

#### ◆登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

- ・登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

#### ◆アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6} アドレス
```

- ・使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- ・「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- ・「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- ・IPv4 を使用するときにはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときには IPv6 アドレスを入力します。

#### ◆sysLocation の設定

```
msh> snmp location 文字列
```

#### ◆sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

#### ◆sysContact の設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

#### ◆sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

#### ◆SNMP V1V2 機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on | off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

#### ◆SNMP V3 機能の設定

```
msh> snmp v3 {on | off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

#### ◆SNMP TRAP の設定

```
msh> snmp trap {v1 | v2 | v3} {on | off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

#### ◆SNMP V3 TRAP の設定値の表示

```
msh> snmp v3trap
```

```
msh> snmp v3trap [1~5]
```

- ・1~5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

#### ◆SNMP V3 TRAP 送信先アドレスの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] {ipv4|ipv6} アドレス
```

## ◆ SNMP V3 TRAP 送信プロトコルの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

## ◆ SNMP V3 TRAP ユーザーアカウントの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] account アカウント名
```

- ・アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

## ◆ SNMP V3 TRAP ユーザーアカウントの削除

```
msh> snmp v3trap [1~5] clear account
```

## ◆ SNMP V3 暗号アルゴリズムの設定

```
msh> snmp v3auth {md5 | sha1}
```

## ◆ SNMP V3 暗号化の設定

```
msh> snmp v3priv {auto | on}
```

- ・ auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- ・ on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

## ↓ 補足

- ・暗号化可能な場合とは、暗号パスワードが設定されていることです。

## 6

## sntp

Sntp の設定は、sntp コマンドを使用します。

## ◆ 現在の設定の表示

```
msh> sntp
```

## ◆ NTP サーバーアドレスの設定

```
msh> sntp server アドレス
```

## ◆ インターバルの設定

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- ・設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60 (分) です。
- ・設定できる値は 0、15~10080 (分) です。
- ・0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

## ◆ タイムゾーンの設定

```
msh> sntp timezone +/- 時間
```

- ・NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は **-12:00**~**+13:00** です。

---

## spoolsw

---

スプール印刷の設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB (TCP/IP(IPv4))、WS-Printer、ftp および sftp プロトコルに対応しています。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> spoolsw
```

### ◆ スプール印刷機能の設定

```
msh> spoolsw spool {on | off}
```

- ・スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。

### ◆ ジョブの初期化の設定

```
msh> spoolsw clear job {on | off}
```

- ・本機の電源がスプールされたジョブの印刷中に切られた場合、本機の電源再投入時に、それまでスプールしていたジョブを印刷しなおすかどうか指定します。

### ◆ プロトコルの設定

```
msh> spoolsw diprint {on|off}
```

```
msh> spoolsw lpr {on|off}
```

```
msh> spoolsw ipp {on|off}
```

```
msh> spoolsw smb {on|off}
```

```
msh> spoolsw ftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw sftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw wsprn {on|off}
```

- ・プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。

### ↓ 補足

- ・スプール印刷設定の spoolsw コマンドは、本機にハードディスクが装着されている場合に有効になります。

---

## ssdp

---

SSDP 関連パラメータの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> ssdp
```

### ◆ 有効時間の設定

```
msh> ssdp profile [1801~86400]
```

- ・工場出荷時の設定値は 10800 (秒) です。

### ◆ Advertise パケットの TTL の設定

```
msh> ssdp ttl [1~255]
```

- ・工場出荷時の設定値は 4 です。

---

## ssh

---

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

◆ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

- ・工場出荷時の設定値は on です。

◆ ssh / sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port [22,1024~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 22 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のタイムアウト確認 (生存確認) の時間設定

```
msh> ssh timeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長 (Keylength) の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列 (Salt)
```

- ・工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長(Keylength)が 1024、複雑化文字列は NULL(無)です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

↓ 補足

- ・設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。

---

## status

---

本機の状態 (ステータス) と印刷ジョブの情報 (プリントジョブ情報) の表示は、status コマンドを使用します。

◆ 表示

```
msh> status
```

E 参照

- ・P213 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## syslog

---

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

### ◆ メッセージの表示

```
msh> syslog
```

#### 目 参照

- ・ P.225 「システムログ情報」

---

## upnp

---

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

### ◆ 公開 URL の表示

```
msh> upnp
```

### ◆ 公開 URL の設定

```
msh> upnp url 文字列
```

- ・ 「文字列」には URL 文字列を入力します。

---

## web

---

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

### ◆ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url http:// リンク先の URL または IP アドレス /
```

- ・ x は対象番号の 1~2 を指定します。2 件まで登録できます。

### ◆ リンク先として登録されている URL の削除

```
msh> web x clear url
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。

### ◆ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。

### ◆ リンク先として登録されている URL のリンク名の削除

```
msh> web x clear name
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。

### ◆ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help http:// ヘルプの URL または IP アドレス
```

### ◆ ヘルプの参照先 URL の削除

```
msh> web clear help
```

## wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。
- DHCP から取得した IP アドレスと WINS の IP アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IP アドレスが有効です。

### ◆ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース {on|off}
```

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

### ◆ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース {primary|secondary} IP アドレス
```

- primary でプライマリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

### ◆ NBT (NetBIOS over TCP/IP) スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース

## wsmfp

WS-Device、WS-Printer の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> wsmfp
```

### ◆ コメントの設定

```
msh> wsmfp comments 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

### ◆ ロケーションの設定

```
msh> wsmfp location 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

- ◆ プレゼンテーション URL の設定  
msh> wsmfp url URL  
・「URL」には URL 文字列を入力します。
- ◆ WS-Device の TCP ポートの設定  
msh> wsmfp devport ポート番号  
・初期値は 53000 です。
- ◆ WS-Printer の TCP ポートの設定  
msh> wsmfp prnport ポート番号  
・初期値は 53001 です。
- ◆ WS-Printer の受信タイムアウト（秒）の設定  
msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30~65535]  
・工場出荷時の設定値は 900（秒）です。
- ◆ コメントを初期化する  
msh> wsmfp clear comments
- ◆ ロケーションを初期化する  
msh> wsmfp clear location
- ◆ プレゼンテーション URL を初期化する  
msh> wsmfp clear url

# SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

本機内蔵のイーサネットインターフェースでは UDP 上で動作する SNMP (Simple Network Management Protocol) エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機にセキュリティーオプションが装着されていることと、暗号パスワードが設定されていることが必要です。

## ★重要

・本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、Network Monitor for Admin に同梱されている SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティ名設定ツールのヘルプを参照してください。工場出荷時のコミュニティ名には「public」と「admin」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得することができます。

### ◆ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- ・Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。
- ・Windows XP/Vista, Windows Server 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。

### ◆ サポートしている MIB (SNMPv1/v2)

- ・MIB-II
- ・PrinterMIB
- ・HostResourceMIB
- ・RicohPrivateMIB (リコーオリジナル)

### ◆ サポートしている MIB (SNMPv3)

- ・MIB-II
- ・PrinterMIB
- ・HostResourceMIB
- ・RicohPrivateMIB (リコーオリジナル)
- ・SNMP-FRAMEWORK-MIB
- ・SNMP-TARGET-MIB
- ・SNMP-NOTIFICATION-MIB
- ・SNMP-USER-BASED-SM-MIB
- ・SNMP-VIEW-BASED-ACM-MIB



# ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

## 機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX の場合  
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合  
status コマンドを使います。

ステータス	意味
Canceling Job...	ジョブリセット中です。
Configuring...	設定変更中です。
Cover Open: Bridge Unit Left	中継ユニットの左カバーが開いています。
Cover Open: Bridge Unit Right	中継ユニットの右カバーが開いています。
Cover Open: Duplex Unit	両面ユニットのカバーが開いています。
Cover Open: Finisher Front	フィニッシャー前カバーが開いています。
Cover Open: Finisher Upper	フィニッシャー上カバーが開いています。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: LCT	大容量給紙トレイのカバーが開いています。
Cover Open: Lower Right Cover	本体右下カバーが開いています。
Empty: Black Toner	ブラックトナーがなくなりました。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Error: Ethernet Board	イーサネットボードに異常が発生しました。
Error: HDD Board	ハードディスクエラーが発生しました。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Optional RAM	オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。
Error: Parallel I/F Board	パラレルインターフェースにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新時にエラーが発生しています。
Error: USB Interface	USB インターフェースにエラーが発生しています。
Full: Finisher	フィニッシャートレイが満杯です。
Full: Finisher Shift Tray	フィニッシャーシフトトレイが満杯です。

ステータス	意味
Full: Finisher Upper Tray	フィニッシャー上トレイが満杯です。
Full: Hole Punch Receptacle	パンチくずが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
It is not connectable with RCG (Basil).	リモートサービスに接続できません。本機またはRCGのネットワーク接続を確認してください。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Low: Toner	ブラックトナーが残り少なくなりました。
Malfuction: Finisher	フィニッシャーに異常が発生しました。
Malfuction: Staple Unit	ステープルユニットに異常が発生しました。
Malfuction: Tray 1	給紙トレイ 1 に異常が発生しました。
Malfuction: Tray 2	給紙トレイ 2 に異常が発生しました。
Malfuction: Tray 3	給紙トレイ 3 に異常が発生しました。
Malfuction: Tray 4	給紙トレイ 4 に異常が発生しました。
Malfuction: LCT	大量給紙トレイに異常が発生しました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。
Near Replacing: MaintenanceKitA	ドラムユニットの交換時期が間近になりました。
Near Routine Maintenance Period	定期メンテナンス時期が間近になりました。
Nearly Full: Waste Toner	廃トナーがもうすぐ満杯です。
Need more Staples	ステープル針を補給してください。
No Paper: LCT	大量給紙トレイに用紙がありません。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
No Paper: Tray 1	トレイ 1 に用紙がありません。
No Paper: Tray 2	トレイ 2 に用紙がありません。
No Paper: Tray 3	トレイ 3 に用紙がありません。
No Paper: Tray 4	トレイ 4 に用紙がありません。
Not Detected: Develop. Unit (K)	現像ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Duplex Unit	両面ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Fusing Unit	定着ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Not Detected: Transfer Unit	転写ユニットセットが正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 1	トレイ 1 が正しくセットされていません。

ステータス	意味
Not Detected: Tray 2	トレイ 2 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 3	トレイ 3 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 4	トレイ 4 が正しくセットされていません。
Not Detected: LCT	大量給紙トレイが正しくセットされていません。
Offline	プリンターがオフライン状態です。
Paper in Duplex Unit	両面ユニットに用紙が残っています。
Paper in Finisher	フィニッシャーに用紙が残っています。
Paper Misfeed: Duplex Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Finisher	フィニッシャーで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Printing	印刷中またはデータ受信中です。
Printing Suspended	印刷停止中です。
Proxy Address/Port Incorrect	プロキシアドレス・ポート番号の設定が正しく設定されていません。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザ名・パスワードが正しく設定されていません。
Ready	正常です。
Renewing Remote Certificate	Remote 証明書を更新中です。
Replace Maintenance Kit A	ドラムユニットの交換時期です。
Routine Maintenance Period	定期メンテナンス時期です。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
There is no paper in a current tray.	指定されたトレイに用紙がありません。
Top-output unit calls Standard Tray instead 'Internal'.	本体排紙トレイが満杯です。
Tray Error: Duplex Printing	両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。
Warming Up...	準備中です。

#### ↓ 補足

- ・エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

#### 目 参照

- ・ P.249 「本機の状態表示」
- ・ P.208 「status」
- ・ P.125 「テスト印刷メニュー」

## 機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメーターを使います。
- mshell の場合  
info コマンドを使います。

### Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
PageSize	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal：正常</li> <li>• NoInputTray：トレイなし</li> <li>• PaperEnd：用紙なし</li> </ul>

### Output Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal：正常</li> <li>• PaperExist：用紙あり</li> <li>• OverFlow：用紙が満杯</li> <li>• Error：その他エラー</li> </ul>

### Emulation

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

☰ 参照

- P.197 「info」
- P.249 「本機の状態表示」

## 取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得することができる情報の詳細です。

### プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合  
status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Active 印刷中、または印刷処理待ち状態</li> <li>• 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態</li> </ul>
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。 <sup>*1</sup>

\*1 複数のファイルを1ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

#### 参照

- P208 「status」
- P249 「本機の状態表示」

### プリントログ情報

これまでに印刷した過去20件分のジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合  
prnlog コマンドを使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。

項目名	意味
Result	<p>通信結果が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。</li> <li>• Failed 印刷が正常に終了しませんでした。</li> <li>• Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、sftp、rprinter では発生しません。</li> </ul>
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。

 参照

- P.199 「prnlog」
- P.249 「本機の状態表示」

## ネットワークインターフェイスボードの情報

ネットワークインターフェイスボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されない項目があります。

- mshell の場合  
show コマンドを使います。

項目名	意味
Common	
Mode	
Protocol Up/Down	プロトコル利用設定
IPv4	
IPv6	
IPsec	
SMB	
Device Up/Down	デバイス利用設定
Parallel	
USB	
Ethernet interface	
Syslog priority	
NVRAM version	
Device name	

項目名	意味
Comment Location Contact Soft switch	
TCP/IP Mode(IPv4) Mode(IPv6) ftp lpr rsh telnet diprint web http ftpc snmp ipp autonet ssl nrs rfu nbt ssdp ssh sftp	TCP/IP のポートアドレスなどの設定
WS-Device WS-Printer rhpp IPv4 DHCP Address Netmask Broadcast Gateway	



項目名	意味
IPv6 Stateless Manual Gateway DHCPv6-lite DUID DHCPv6 option life time IPsec Manual Mode Excluded Protocol https dns dhcp wins EncapType Host name DNS Domain Access Control IPv4 AccessEntry [X] IPv6 AccessEntry [X] SNTP Server Time Zone SNTP Server polling time	             アクセス制限設定  X は 1～5 まで設定できます。  X は 1～5 まで設定できます。  時刻関連設定
SYSLOG server Home page URL1 Home page link name1 Home page URL2 Home page link name2 Help page URL RPP Port RPP timeout	WebSys 関連の設定
SMB	SMB 動作 / 設定

項目名	意味
Switch Mode Direct print Notification Workgroup name Computer name Comment Share name[1] Protocol	
DNS IPv4 Server[X] Selected IPv4 DNS Server IPv6 Server[X] Selected IPv6 Dns Server Resolver Protocol	DNS 動作/設定  X は 1~3 まで設定できます。  X は 1~3 まで設定できます。
Domain Name ether wlan DDNS ether wlan	
WINS ether Primary WINS Secondary WINS wlan Primary WINS Secondary WINS	WINS 動作/設定
SSDP UUID Profile TTL	SSDP 動作/設定

項目名	意味
SNMP SNMPv1v2 SNMPv3 protocol v1Trap v2Trap v3Trap SNMPv1v2 Remote Setting SNMPv3 Privacy	SNMP 動作／設定
ssh Compression Port TimeOut LoginTimeOut	ssh 動作／設定
AuthFree IPv4 AuthFreeEntry[X] IPv6 AuthFreeEntry[X] Parallel USB	認証除外動作／設定  X は 1～5 まで設定できます。  X は 1～5 まで設定できます。
LPR lprm check host lpr prnerrchk	
Certificate Verification	
WS-MFP Network Device Name Comments Location Presentation URL WS-Device TCP Port WS-Printer TCP Port WS-Printer Job Timeout	

項目名	意味
MetadataVersion UUID	
Shell mode	リモートメンテナンスツールのモード

# メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

## システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。
- mshell の場合  
syslog コマンドを使います。

**account is unavailable: same account name be used.**

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

**account is unavailable: The authentication password is not set up.**

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

**account is unavailable: encryption is impossible.**

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

**add\_sess\_IPv4:bad trap addr:<IPv4 アドレス >, community:< コミュニティ名 >**

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

**add\_sess\_IPv6:bad trap addr:<IPv6 アドレス >, community:< コミュニティ名 >**

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [::] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

**add\_sess\_IPv4: community < コミュニティ名 > already defined.**

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

**add\_sess\_IPv6: community < コミュニティ名 > already defined.**

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

**adjust time server <NTP サーバ > offset:XX sec.**

ncsd が NTP サーバとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。  
NTP サーバー：NTP サーバー名  
offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）

**btd is disabled.**

セキュリティーモード設定で btd が無効です。セキュリティーモード設定の btd を使用可にしてください。

centrod is disabled.

セキュリティーモード設定で centrod (パラレル) が無効です。セキュリティーモード設定の centrod (パラレル) を使用可にしてください。

child process exec error! (プロセス名)

ネットワーク関連の起動に失敗しました。電源再投入しても回復しない場合は、保守会社に連絡してください。

Client password rejected

ユーザー名またはパスワードが正しくありません。ユーザー名とパスワードを確認してください。

Client TLS certificate rejected

クライアントの TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Connected DHCPv6 server (IPv6 アドレス)

DHCP サーバーからの IPv6 アドレス取得に成功しました。

connection from <IP アドレス>

ホスト <IP アドレス> よりログインしました。

Current Interface Speed : < Ethernet I/F 速度 >

現在の Ethernet I/F の速度です。(10Mbps、100Mbps、または 1000Mbps)。

DHCPv6 server not found.

DHCP サーバーが見つかりません。ネットワーク上に DHCP サーバーが起動していることを確認してください。

Duplicate IP=< IP アドレス > (from < MAC アドレス > ) .

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

job canceled. jobid=< ジョブ ID >

エラーあるいはユーザ要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

(IKE phase-1) mismatched encryption type : local= 暗号アルゴリズム 1 remote= 暗号アルゴリズム 2

IKE フェーズ 1 における本機の暗号アルゴリズム 1 と通信相手の暗号アルゴリズム 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched authentication type : local= 相手認証方式 1 remote= 相手認証方式 2

IKE フェーズ 1 における本機の相手認証方式 1 と通信相手の相手認証方式 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched DH group : local=DH グループ番号 1 remote=DH グループ番号 2

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ (DH グループ番号 1) と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ (DH グループ番号 2) が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched hash type : local= ハッシュアルゴリズム 1 remote= ハッシュアルゴリズム 2

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズム 1 と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズム 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface (インターフェース名) : Duplicate IP Address (< IP アドレス > ) .

本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。

< Interface > started with IP: < IP アドレス >

インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。

< Interface >: Subnet overlap.

< Interface > に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

LEAP challenge to access point failed

LeaseTime=< リース時間 >(sec), RenewTime=< 更新間隔 >(sec).

DHCP サーバーから取得した IPv4 アドレスのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒で表示されます。

Memory allocate error.

メモリ取得に失敗しました。ケーブルの抜き差しを行ってください。

Name registration success . WINS Server=<WINS サーバアドレス>NetBIOS Name=<NetBIOS 名>  
<WINS サーバアドレス > への <NetBIOS 名 > の名前登録が成功しました。

Name registration success in Broadcast name =<NetBIOS 名 >

ブロードキャストによる <NetBIOS 名 > の名前登録が成功しました。

Name registration failed . name=<NetBIOS 名 >

<NetBIOS 名 > の名前登録が失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

no smart card detected on device

PEAP/GTC (Generic Token Card) が選択されましたが、GTC 認証でスマートカードが見つかりませんでした。

print sessions full

接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。

Set context to<NDS コンテキスト名 >

<NDS コンテキスト名 > を設定しました。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できません。

session\_IPv4 <コミュニティ名> not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session\_IPv6 <コミュニティ名> not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

shutdown signal received . network service rebooting ...

ネットワークのリブート処理を行います。

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバに指定した SMTP サーバの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバ名とネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバの IP アドレス、SMTP サーバ名と SMTP ポート番号、SMTP サーバの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [ 応答コード ] (インフォメーション)

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。



snmpd start.

Snmpd を起動しました（電源 ON のみ表示します）。

There is problem in dhcp server operation.

複数の DHCP サーバを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバ間で矛盾がないかを確認してください。

trap account is unavailable.

v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。

too many pictures.

1 回の印刷で指定する画像が多すぎるため、正常に印刷できませんでした。指定画像数を減らして印刷してください。

Updated ( オプション名 ) ( 値 ) via DHCPv6 Server

DHCPv6 サーバから取得したパラメータが更新されました。パラメータを新規で取得したとき、および以前取得したものに対して変更があったときに表示されるメッセージです。

usbd is disabled.

セキュリティモード設定により usbd が無効に設定されている場合に、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP および印刷はできません。セキュリティモード設定で、usbd を使用可にしてください。

WINS wrong scopeID =< スコープ ID >

不正なスコープIDが使用されています。正常なスコープIDを設定してください。

WINS name registration : No response to server (WINS サーバアドレス)

登録処理に対する応答がサーバからありません。WINS サーバアドレスに誤りがないか確認して下さい。または、WINS サーバが正常に動作しているか確認して下さい。

write error occurred .(diskfull)

スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進むと、HDD の空き容量が増えます。しばらくお待ちください。

write error occurred.(fatal)

スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが発生しました。本体の電源を「Off」にし、再度「On」にしてください。それでも復帰しない場合は、保守会社にご連絡ください。

#### 参照

- ・ P249 「本機の状態表示」



# 7. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定についての説明です。

## Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Network Monitor for Client 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

### ★重要

- ・[プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」、Windows Vista をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

**1** Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

**2** 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

**3** [共有] タブをクリックし、[共有する] にチェックを付けます。

**4** プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ] をクリックします。

プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

**5** [OK] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

---

## Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする

---

Network Monitor for Client の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

---

### プリントサーバーの設定をする

---

#### ★重要

- プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows Vista をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

**1** [スタート] ボタンから、[プログラム] - [Network Monitor for Client] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[プリントサーバー設定] をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

**2** 「クライアントに印刷通知をする」をチェックして、[OK] をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して [OK] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、処理を中断します。

**3** 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。[OK] をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

#### ↓補足

- 印刷中のジョブはスプーラー一時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

## クライアントの設定をする

- 1 [スタート] ボタンから、[プログラム] - [Network Monitor for Client] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[拡張機能設定] をクリックします。

拡張機能設定ダイアログが表示されます。

- 2 「拡張機能設定を使用する」にチェックを付けます。

- 3 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。

- 4 [OK] をクリックします。

印刷通知設定ダイアログが閉じます。

### ↓ 補足

- ・プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。



# 8. UNIX で使う

UNIX の使用についての説明です。

## セットアップ

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、セットアップ方法の説明です。セットアップの作業を簡単に行えるようにインストールシェルが用意されています。インストールシェルは通常のリモートプリンターのセットアップ作業 (/etc/hosts の設定、/etc/printcap の設定、スプールディレクトリの作成) をシェルスクリプトにより自動化して行います。

### ◆ セットアップの流れ

- ・ インストールシェルに対応したワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してからインストールシェルを実行します。
- ・ インストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してから /etc/hosts を設定します。
- ・ lpr コマンドを使うインストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機の IP アドレスを設定し /etc/hosts および /etc/printcap の設定をしてからスプールディレクトリを作成します。

### ◆ 対応ワークステーション

インストールシェルは次の 6 種類のワークステーションに対応しています。これ以外のワークステーションの場合はインストールシェルを使わないでセットアップしてください。

- ・ SunOS 4.x.x
- ・ Solaris 2.x (SunOS 5.x)、Solaris7、Solaris8
- ・ HP-UX
- ・ RedHat Linux
- ・ UnixWare
- ・ OpenServer

#### ↓ 補足

- ・ インストールシェルは、CUPS をサポートしていません。CUPS の設定については、各ワークステーションおよび CUPS のマニュアルを参照してください。
- ・ RedHat7.1 以降では、インストール時のセキュリティ設定により rsh/telnet が使用できないことがあります。セキュリティレベルを rsh/telnet で使用できるレベルに変更しておいてください。変更方法については RedHat の使用説明書を参照してください。
- ・ Solaris および HP-UX をご使用の場合、付属の admintool でも設定することができます。設定方法については admintool のマニュアルを参照してください。
- ・ NIS(Network Information Service) や DNS を使用している場合は、あらかじめサーバ側の設定をしてからインストールシェルを実行してください。

---

## IP アドレスの設定

---

あらかじめ本機のネットワーク環境を設定しておきます。

IP アドレスを設定したら正しく設定されたかどうかワークステーション側から確認してください。

- TCP/IP プロトコルを有効にする（工場出荷時は有効です）。
- IP アドレスなど TCP/IP に関する項目を設定する。

### **1** 次のように入力して確認します。（IP アドレスが 192.168.15.16 の場合）

```
# ping 192.168.15.16
正しく設定されていると次のように表示されます。
192.168.15.16 is alive
間違って設定されていると次のように表示されます。
no answer from 192.168.15.16
```

#### **↓** 補足

- NIS を使用している場合はマスターサーバー上の /etc/hosts に、DNS を使用している場合はネームサーバー上のデータファイルに IP アドレスとホスト名を追加します。追加後、ホスト名を使って正しく設定されたか確認してください。サーバーに登録したホスト名は IP アドレスの代わりに使用できます。

```
# ping ホスト名
```

#### **E** 参照

- IP アドレスの設定方法については、本機に同梱の使用説明書を参照してください。

---

## インストールシエルの実行

---

### 8

プリンターに IP アドレスを設定したら、インストールシエルを使ってワークステーションの印刷環境をセットアップします。

インストールシエルは ftp を使ってプリンターから取り出します。

**1** プリンターを使用するワークステーションに root でログインします。

**2** インストールシエルをプリンターから取り出します。

**3** インストールシエルをコピーするディレクトリに移動します。

**4** ftp コマンドで、設定した IP アドレスに接続します。

```
# ftp 192.168.15.16
Connected to 192.168.15.16
220 printer FTP server ready.
Name (192.168.15.16:root:)
```



- 5** ユーザー名の入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
331 Password required for root.  
Password:
```

- 6** パスワードの入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
230 User root logged in.  
ftp>
```

- 7** インストールシェルを取り出します。

```
ftp> get install
```

- 8** ftp を終了します。

```
ftp> bye  
221 Goodbye.  
#
```

- 9** インストールシェルを起動します。

```
# sh ./install  
カレントディレクトリであることを示すピリオド (.) を付けてください。
```

- 10** 使用しているワークステーションを数字で指定します。

```
Network printer install shell  
Select your workstation OS type.  
1. SunOS 4.x.x  
2. Solaris 2.x, Solaris 7-9(SunOS5.x)  
3. HP-UX  
4. UnixWare  
5. Linux  
6. OpenServer  
7. Quit
```

```
Enter <1-7>:
```

```
1
```

「7」を指定するとインストールシェルは終了します。

- 11** プリンターの IP アドレスを入力します。

```
Enter Printer host IP address <xxx.xxx.xxx.xxx> [return=skip]:  
192.168.15.16
```

ここで入力した IP アドレスが /etc/hosts に設定されます。

すでにプリンターのホスト名が登録されているときは、何も入力しないで [Return] キーを押します。このとき /etc/hosts には何も追加されません。

**12** プリンターのホスト名を入力します。

Enter Printer host name :

rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁)

ここで入力した名前が /etc/hosts と /etc/printcap に設定されます。ただし、前の手順で IP アドレスを入力しなかったとき、/etc/hosts には何も追加されません。

**13** プリンターの名前を設定します。

Enter logical printer name [default rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn]:

そのまま [Return] キーを押すと「default」に表示されている名前に設定されます。

この名前を変更したいときは新しい名前を入力します。

ここで入力した名前が /etc/printcap に設定されます。

「default」には前の手順で入力したホスト名に \_prn を付けた名前が表示されます。前の手順でホスト名を入力しなかったときは rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn と表示されます。

**14** 印刷時のオプションを指定します。

オプションを指定しないときはそのまま [Return] キーを押します。

Enter remote printer name [default lp]:

filetype=RPS

hosts file is modified

#

インストールシェルによるセットアップが終了します。

ここでオプションを指定すると、入力した文字列が /etc/printcap の rp ケーパビリティに設定されます。lpr で印刷すると、このオプションを使って印刷されます。

同じプリンターに対して異なるオプションを指定して印刷するときは、インストールシェルをもう一度実行し、オプションごとにエントリーを作成してください。

**8****15** テスト印刷します。

# lpr -Prnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn ファイル名

**参照**

- /etc/printcap について詳しくは、P.239 「/etc/printcap へのエントリーの追加」を参照してください。
- /etc/hosts について詳しくは、P.239 「/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加」を参照してください。
- 指定できるオプションについて詳しくは、P.242 「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。

## インストールシェルの実行結果

インストールシェルを実行すると印刷環境が自動的にセットアップされます。

ここでは、SunOS 4.x でインストールシェルを実行した場合にセットアップされる内容について説明します。

インストールシェルを使わないでセットアップする場合は、ここでの説明を参考に各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

### /etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加

/etc/hosts に次の行が追加されます。

```
192.168.15.16 rnp xxxxxx(xx は MAC アドレスの下 6 桁) # Network Printer
192.168.15.16 は IP アドレス、rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) はプリンターの
ホスト名、# から行末まではコメントです。
```

#### ↓ 補足

- /etc/hosts はネットワーク内で通信するすべてのホストの IP アドレスとホスト名を登録するファイルです。それぞれの項目はスペースかタブで区切られ、1 行で入力されます。
- NIS や DNS を使用していない場合は、ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上の /etc/hosts に追加が必要です。

### /etc/printcap へのエントリーの追加

/etc/printcap に次のエントリーが追加されます。

これは lpr コマンドを使って印刷するための設定です。lpr コマンドを使って印刷するには、/etc/hosts ファイルの設定に加え、/etc/printcap にネットワークプリンターのためのエントリーを追加し、スプールディレクトリを作成する必要があります。

```
rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn|HITACHI Network Printer:/
:rm=hitachi:/
:rp=filetype=RPS:/
:sd=/usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd:/
:lf=/usr/adm/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd-errs:/
:mx#0:
```

#### ↓ 補足

- /etc/printcap はプリンターの名前や属性を登録するファイルです。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーションの /etc/printcap に、ネットワークプリンターのためのエントリーが必要です。
- 同じプリンターに対し異なるオプションを指定して印刷するときは、オプションごとにエントリーを作成してください。
- 1 つのエントリーはコロン (:) で複数のフィールドに区切られています。読みやすくするために途中に改行を入れることができ、その場合は改行の前にバックslash (\) を入力します。
- 1 行目のフィールドはプリンターの名前です。ワークステーションからネットワークプリンターを指定するときに、この名前を使います。名前を「|」で区切ることで複数の名前を定義できます。

- 2 行目以降のフィールドはプリンターの属性です。プリンターの属性はケーパビリティと呼ばれる 2 文字の名前で表されます。ケーパビリティについて詳しくは次の表を参照してください。

ケーパビリティ	説明
lp	本機のデバイス名です。 通常何も指定しません。
rm	/etc/hosts に登録した本機のホスト名です。
rp	印刷時のオプションを指定します。
sd	作成するスプールディレクトリのパス名です。
lf	ログを格納するファイルのパス名を設定します。 たとえば /usr/adm/lpd-errs
mx	スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを設定します。通常何も指定しないか、適当な値を設定します。 0 を指定すると無制限、指定しないと 1024k バイトに設定されます。

## スプールディレクトリの作成

/usr/spool/ ディレクトリにスプールディレクトリが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d を付けた名前です。

### ↓ 補足

- スプールディレクトリは、印刷を行うデータファイルの一時的なコピーが作成されるなど、印刷ジョブを制御するために使われます。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上に、ネットワークプリンターのためのスプールディレクトリが必要です。
- スプールディレクトリは /etc/printcap に書き込まれたネットワークプリンターのエンタリーごとに作成します。
- スプールディレクトリは通常 /usr/spool の下に作成します。スプールディレクトリは、/etc/printcap 中の sd ケーパビリティで指定したパス名と一致させ、オーナーとグループを daemon、許可モードを 775 に設定します。以下はスプールディレクトリとして /usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prnd を作成するときのコマンド入力例です。

```
# cd /usr/spool
# mkdir rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chown daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chgrp daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chmod 775 rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
```

---

## ログファイルの作成

---

/usr/adm ディレクトリにエラーのログファイルが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d-errs を付けた名前です。

## オプション指定 (UNIX)

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

### ◆ Solaris 2.6 以上でオプションを指定する場合

- Solaris 2.6 以上で複数のオプションを指定するときは、セミコロン (;) で区切ります。また、オプションにイコール (=) やカンマ (,) を含めることはできません。filetype をオプションに指定するときは、イコールの代わりにアンダーライン (\_) を使ってください。filetype\_RPS 省略形は fil\_RPS のように入力してください。
- Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、各コマンドで指定できるオプション数が異なります。
  - rsh/rcp 1
  - lpr/ftp 文字列制限の範囲内で複数指定可能

### ◆ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

### ◆ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ (,) で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール (=) を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ (,) を追加します。

## 8

## エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。お使いの機種によっては、設定できるエミュレーションの指定値が異なります。

### ◆ filetype (または fil) = エミュレーションの指定値 (またはプログラム登録番号の指定値)

- エミュレーション：指定値
  - RPCS：RCS
  - PostScript3：RPS または POSTSCRIPT
  - PDF：PDF
- プログラム登録番号：指定値
  - プログラム 1：P01
  - プログラム 2：P02
  - プログラム 3：P03
  - プログラム 4：P04
  - プログラム 5：P05
  - プログラム 6：P06
  - プログラム 7：P07

プログラム 8 : P08  
 プログラム 9 : P09  
 プログラム 10 : P10  
 プログラム 11 : P11  
 プログラム 12 : P12  
 プログラム 13 : P13  
 プログラム 14 : P14  
 プログラム 15 : P15  
 プログラム 16 : P16

◆ PostScript 3 で印刷場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)

- <rsh> % rsh hostname print filetype=RPS < file1
- <rcp> % rcp file1 hostname:filetype=RPS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

◆ ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション

↓ 補足

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。
- 現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。  
ftp> pwd

## 給紙トレイ

給紙トレイを指定します。お使いの機種によっては、設定できる給紙トレイの指定値が異なります。

★ 重要

- エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

◆ PostScript 3 / PDF

- tray= 給紙トレイの指定値 (給紙トレイ : 指定値)  
給紙トレイ 1 : tray1  
給紙トレイ 2 : tray2  
給紙トレイ 3 : tray3  
給紙トレイ 4 : tray4  
LCT : lct  
手差しトレイ : bypass  
自動トレイ選択 : all
- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (プリンターのホスト名 hostname ファイル名 file1)  
<rsh> % rsh hostname print tray=tray2 < file1  
<rcp> % rcp file1 hostname:tray=tray2  
<ftp> ftp> put file1 tray=tray2

## 用紙サイズ

用紙サイズを指定します。お使いの機種によっては、設定できる用紙サイズの指定値が異なります。

### ★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 のときだけ有効です。
- ・存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

### ◆ PostScript 3

- ・ paper= 用紙サイズの指定値  
指定値：a3 (A3) , a4 (A4) , a5 (A5) , a6 (A6) , jisb4 (B4) , jisb5 (B5) , jisb6 (B6) , letter (8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×11") , halfletter (5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>" ) , legal (8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×14") , jpost (はがき) , jpostd (往復はがき) , custom (不定形サイズ)
- ・ A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)  
<rsh> % rsh hostname print paper=a4 < file1  
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=a4  
<ftp> ftp> put file1 paper=a4

## 用紙種類

用紙の種類を指定します。お使いの機種によっては、設定できる用紙種類の指定値が異なります。

### ★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・存在しない用紙種類は指定しても無効です。

### ◆ PostScript 3 / PDF

- ・ mediatype= 用紙種類の指定値  
指定値：plain (普通紙)、letterhead (レターヘッド付き用紙)、transparency (OHP フィルム)、recycled (再生紙)、color (色紙)、special (特殊紙 1)、special2 (特殊紙 2)、special3 (特殊紙 3)、thick (厚紙 1)、thick2 (厚紙 2)、middlethick (中厚口)、thin (薄紙)、plainorrecycled (普通紙 / 再生紙)、labels (ラベル紙)、auto (自動選択)

### ◆ 再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例(本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled
```



---

## 排紙トレイ

---

排紙トレイを指定します。お使いの機種によっては、設定できる排紙トレイの指定値が異なります。

★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときだけ有効です。
- ・存在しないトレイを指定しても無効です。

◆ PostScript 3 / PDF

- ・ `outbin=` 排紙トレイの指定値 (排紙トレイ: 指定値)  
`upper`、`inner`、`finisherproof`、`finishershift`、`manual`
- ・ `lower` に排紙する場合のコマンド例 (本機のホスト名 `hostname`、ファイル名 `file1`)  
`<rsh> % rsh hostname print outbin=lower < file1`  
`<rcp> % rcp file1 hostname:outbin=lower`  
`<ftp> put file1 outbin=lower`

---

## 印刷部数

---

印刷部数を指定します。

★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・「`qty`」と同時に指定しないでください。

◆ `copies=` 印刷部数 (1~999)

- 10 部印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 `hostname` ファイル名 `file1`)  
`<rsh> % rsh hostname print copies=10 < file1`  
`<rcp> % rcp file1 hostname:copies=10`  
`<ftp> ftp> put file1 copies=10`

8

---

## ソート部数

---

ソートする印刷部数を指定します。

★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・「`copies`」と同時に指定しないでください。

◆ `qty=` ソート部数 (1~999)

- 10 部ソートして印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 `hostname`、ファイル名 `file1`)  
`<rsh> % rsh hostname print qty=10 < file1`  
`<rcp> % rcp file1 hostname:qty=10`  
`<ftp> ftp> put file1 qty=10`

## 両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

### ★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・プリンター側に両面印刷ユニットが必要です。

### ◆ PostScript 3 / PDF

duplex=on (両面印刷する)

duplex=off (両面印刷しない)

binding=longedge (両面印刷時の綴じ位置の設定：長辺)

binding=shortedge (両面印刷時の綴じ位置の設定：短辺)

binding=left (両面印刷時の綴じ位置の設定：左)

binding=top (両面印刷時の綴じ位置の設定：上)

binding=right (両面印刷時の綴じ位置の設定：右)

- ・両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print duplex on < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:duplex on
```

```
<ftp> ftp> put file1 duplex on
```

### ↓補足

- ・印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷されるときは singleside を指定してください。

## 解像度

印刷する解像度を指定します。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。

### ★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。

### ◆ resolution= 解像度 (600)

600dpi で印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print resolution=600 < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:resolution=600
```

```
<ftp> ftp> put file1 resolution=600
```

## ステーブル

ステーブル位置を指定します。

### ★重要

- ・フィニッシャーを装着しているときのみ有効です。
- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。

#### ◆ staple= ステーブル位置の指定位置 (ステーブル位置：指定値)

staple=off (ステーブルしない)

左上 1 ケ所：lefttop、lefttopslantport、lefttopslantland、lefttopvertport、lefttopvertland、lefttophorizport、lefttophorizland

右上 1 ケ所：righttop、righttopverport、righttopvertland、righttopslantport、righttopslantland、righttophorizport、righttophorizland

左 2 ケ所：left2port または left2land

右 2 ケ所：right2port または right2land

上 2 ケ所：top2port または top2land

#### ◆ 左上 1 ケ所をステーブルで綴じる場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh>% rsh hostname print staple=lefttop < file1
```

```
<rcp>% rcp file1 hostname:staple=lefttop
```

```
<ftp> put file1 staple=lefttop
```

## パンチ

印刷物にパンチ穴をあけるときに指定します。

### ★重要

- ・フィニッシャーを装着しているときのみ有効です。
- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。

#### ◆ punch= パンチ位置の指定位置 (パンチ位置：指定値)

左：leftport または leftland

右：rightport または rightland

上：topport または topland

- ・左側にパンチする場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print punch=leftport < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:punch=leftport
```

```
<ftp> ftp> put file1 punch=leftport
```

#### ◆ punchhole= パンチ穴の指定位置 (パンチ穴：指定値)

2 穴：jp2

## オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

### ◆ BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除します。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。

または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

### ◆ Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除します。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。

(例 プリンター名 : printer)

- 1) スケジューラを停止します。  
# /usr/sbin/lpshut
- 2) プリンターを削除します。  
# /usr/sbin/lpadmin -x printer
- 3) スケジューラを再起動します。  
# /usr/lib/lp/lpsched

#### ☰ 参照

- P.239 「/etc/printcap へのエントリーの追加」

# 本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

## 表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。(例 プリンター名：printer、ホスト名：hostname)

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。  
% lpq -P printer
- rsh、ftp または sftp コマンドを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。  
% rsh hostname パラメーター  
% ftp hostname  
User: ユーザー名  
password: パスワード  
ftp> get パラメーター -
- rsh、rcp、ftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。  
stat：機器の状態（ステータス）  
stat：印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）  
info：給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）  
prnlog：これまでに印刷した記録（プリントログ情報）  
syslog：ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

## ファイルにコピーする場合

rcp、ftp コマンドまたは sftp を使って、指定したパラメーターに応じた内容をファイルにコピーできます。(例 ホスト名：hostname、ファイル名：file1)

```
% rcp hostname : パラメーター file1
% ftp hostname
User: ユーザー名
password:
ftp> get パラメーター file1
```

### ↓ 補足

- パラメーターの種類は、表示する場合と同じです。



# 9. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

## 注意と制限

### プリンターおよびシステムについて

#### 最新情報の入手

- 最新情報の入手については、(株) 日立製作所のホームページ <http://www.hitachi.co.jp/prINTER/> をご覧ください。

#### 接続について

- インタフェースが複数あるプリンターの場合、複数のインタフェースへ同時に印刷した場合、最初にジョブを受け付けられたジョブが印刷され、二番目のジョブはデータ送信が行えず、メッセージやエラーが表示されたり、データ転送状態や印刷データによってはジョブが混在する場合があります。同じインタフェースからの 1 つのジョブが継続して送信されている間は、他のインタフェースからのジョブは保留されます。
- ローカルポート接続時、大量のデータを印刷した場合、LPT1 エラーが発生することがあります。このような場合には、Windows のスタートメニューから、[設定] - [プリンター] を開き、プリンタプロパティの詳細タブにあるタイムアウトの設定時間を長くしてください。
- ネットワークの設定等によっては、プリンターの機能を十分にお使いいただけない場合があります。
- プリンターとパソコンの距離が離れている場合は、ネットワーク経由にてご使用願います。長いプリンターケーブルや長い USB ケーブル、中継器などを使用すると、ノイズなどによる文字化けの発生やプリンター情報が取り込めないなどが発生することがあります。中継器、切替器は使用しないでください。
- パラレルポートで印刷する場合、パソコンによっては、パラレルポートのモード (ECP/Bi-directional/Standard) によって正常に印刷が行えないことがあります。この場合はパソコンのパラレルポートのモードを Bi-directional もしくは Standard に変更します。詳しくはパソコンのハードウェアマニュアルを参照してください。
- パラレル接続時、通常は上位装置の電源を入れてからプリンターの電源を入れてください。ただし、上位装置によっては上位装置の電源を先に入れると、誤動作によりプリンターに対してゴミデータを送信してしまい用紙が排出されることがあります。このような場合は、プリンター→上位装置の順に電源を入れてください。

- ・パラレル/USBポート接続していたプリンターをネットワーク接続する場合は、CD-ROMから「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Clientポート（TCP/IPポート）が使用できます。
- ・すべてのUSB機器との接続を保証するものではありません。
- ・プリンターケーブルはPC-PC1025Hをご使用願います。プリンターのパラレルポートのコネクタ形状は一般的なプリンタコネクタと異なるタイプC（ハーフピッチ）です。

## 仕様（プリントタイム、本体・消耗品寿命）

- ・ウォームアップタイム（15秒）、ファーストプリントタイム（3.5秒）、印刷速度（A4縦50PPM）、製品寿命（320万ページ）は仕様値であり最良値です。印刷データや用紙、環境、使用状況により低下する場合があります。印刷を開始するまでには、PCでの印刷データ生成、データ転送、プリンター内でのデータ処理の時間が必要なため、複雑な印刷データや大量の印刷データなどの場合は、ウォームアップタイムは15秒以上かかったり、ファーストプリントタイムが3.5秒以上かかったり、印刷速度がA4縦50PPM以下になったりする場合があります。また、1ページごとの断続的な印刷や長時間の連続印刷などではプリンターに負荷がかかるため、製品寿命が320万ページ以下になる場合があります。
- ・本製品はA4サイズ用紙を縦置きにセットした場合のマルチコピーモードで1分間に50ページを印刷する性能がありますが、印刷データや用紙、環境により変わります。特に、幅がA4横以下の幅狭用紙や厚紙を印刷する場合は、用紙の通らない両端部分が異常に高温になり故障の原因となるので、定着器保護のため、印刷速度が遅くなる事があります。

用紙サイズ : 印刷速度（印刷データや用紙、環境により変わります）

A3縦 : 25PPM

B4縦 : 31.5PPM

A4横 : 50PPM

A4縦 : 38PPM

B5横 : 55PPM

A5横 : 55PPM

- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。交換目安の印刷枚数は用紙サイズA4の縦送り連続印刷時の目安となります。ただし、お客様の使用条件、使用環境によって半分以下になる場合があります。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着ユニットや給紙ローラー、分離パッド等）が必要ですので、交換時期が近づきましたら、保守会社へ連絡をお願いします。

品名	交換目安
転写キット	印刷枚数 約9万ページ
定着ユニット	印刷枚数 約9万ページ

- ・本製品は、下記の使用条件下で、パソコンに接続して使用されることを想定して設計・評価した製品です。異なる条件下でご使用になる場合は、独自にその条件下での性能をご確認のうえ、本製品をご採用ください。

- ・設置環境：一般オフィス（動作環境：温度10～32℃、湿度15～80%RH）
- ・平均稼働時間：一日あたり平均8時間／1ヶ月当たり20日間
- ・月間平均印刷枚数：20,000ページ
- ・装置寿命：使用期間あるいは総印刷ページ数のいずれか早い方
  - ・使用期間：5年
  - ・通電時間：9,600時間（8時間／日×20日／月×12月／年×5年）



- ・総印刷ページ：320万ページ（A4縦）  
月間印刷ページ数が20,000ページを超えていたり、1日に合計8時間以上電源が入っていたり、総印刷ページ数が320万ページ（A4縦）を超えたりすると、想定された年数より使用年数が短くなる場合があります。

## PDLについて

- ・本製品の印刷制御言語はRPCS、あるいはPostScript3（オプション）です。RPCS、あるいはPostScript3以外の印刷データを生成するアプリケーションをご使用の場合、意味不明の文字が印刷されるなど正常に印刷されない場合があります。印刷制御言語をRPCS、あるいはPostScript3に変更する必要があります。
- ・RPCS、あるいはPostScript3以外の印刷データを生成するアプリケーションからの印刷には、ご使用頂けません。
- ・LIPS、ESC/P、ESC/Page データを生成するユーザプログラムはご使用いただけません。ユーザプログラムの変更やシステム構成の見直しをお願い致します。
- ・CommuniNetの560プラス（パススルー印刷、ページモード印刷）は、ご使用いただけません。GDIモード（プリンタードライバ経由）にてご使用願います。
- ・3050RXや3500などのHI-UX/WE2のプリンターAPI印刷機能を使用するPP（OFIS-EX2シリーズ、UIBT、XP/W、PANEL-EX2など）はご使用いただけません。
- ・印刷データをPostScript言語に変更することでHI-UX/WE2のラインモード出力やHP-UXのlp出力のリプレースについては、対応可能な場合があります。事前に動作確認を行った上で導入願います。PostScriptを印刷するためにはPS3カード（PC-PA35502、オプション）が必要になりますので、ご用意願います。プリンターは貸出センターに配備しておりますので、借用をお願い致します。

## 電源について

- ・プリンターの電源をシステム装置のサービスコンセントから取ることはできません。必ず接地端子のあるACコンセント（AC100V、50/60Hz、15A）を1口準備し、プリンター専用で使用してください。プリンターのアースは必ず接地してください。アースが無いとノイズにより文字化けや動作不良を起こすことがあります。また、パソコンのアースも接地することを推奨致します。

## 使用環境

### ◆メモリー増設の推奨

- ・標準メモリー容量で速度低下、エラー発生、印刷不良等の問題がある場合、メモリー増設で回避できることがあります。
- ・PostScriptをご使用の場合はメモリー増設を推奨します。

## 使用上の注意と制限事項

- ・印刷に関するトラブルは Microsoft のサポート技術情報も併せてご確認ください。
  - ・CD-ROM 内の「Readme」には、プリンタードライバーや印刷に関する注意事項や制限事項などが書かれています。必ずお読みください。
  - ・用紙に「厚紙」を使うと条件により、印刷物に連続（通紙方向側）した黒点が写る可能性があります。
  - ・日立カット紙プリンターシリーズにおきましては、ハードウェア、ソフトウェア共に新旧完全互換機種ではありません。ドライバー機能、パネル設定機能、ハードウェア構成、インタフェース構成、デフォルト動作設定、動作環境等において異なる場合があります。十分にご検証を実施頂きますようお願いいたします。
  - ・幅の狭い用紙はプリンターに負荷がかかります。大量にまたは連続して印刷すると寿命が短くなることがあります。また、幅の狭い用紙は印刷速度が遅くなることがあります。
  - ・不定形サイズの印刷は、定形サイズに比べ用紙送り性能や印刷品質が低下することがあります。事前に十分評価の上、ご使用ください。
  - ・次の機能は、サポート対象外となっております。印刷および動作等の保証はしておりません。また、質問などにもお答えできかねますのでよろしくご理解願います。この機能をご使用になる場合には、お客様ご自身で十分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。
    1. 次の用紙サイズ以外への印刷：A3、B4、A4、B5、A5、A6、Latter
    2. UNIX・MAC 環境での印刷
    3. PostScript English 版ドライバーでの印刷
    4. 提供しているプリンタードライバー以外を使用しての印刷
    5. 日本語以外の OS からの印刷
- ただし、個別にサポートしている機能・アプリケーションは除きます。
- ・本製品は前面を通して用紙搬送していますので、給紙しているトレイ以外のトレイも引き抜かないようにしてください。紙づまりや故障の原因となります。

## OS のサポートについて

### 9

- ・DOSV 機上で動作する Windows 2000/XP/Server 2003/Vista 環境でご使用いただけます。ただし、OS に関するサポートは Microsoft の OS サポート期間内のみとなります。
- ・プリンター添付の CD-ROM にプリンタードライバーを格納していますので、プリンタードライバーをインストールしてからご使用願います。
- ・MS-DOS、Windows 上の DOS プロンプト及び DOS アプリケーション、Windows 95/98/Me/NT4.0 については、Microsoft の OS サポートが終了しているためサポートいたしません。印刷した場合、不正な印刷結果や不正動作になる場合があります。
- ・プリンタードライバーは従来機とは異なります。従来機のプリンタードライバーを使用して印刷すると意味不明の文字が印刷されるなど正常に印刷されない場合があります。各プリンター専用のプリンタードライバーをインストールして印刷願います。
- ・Windows のネットワークポートについて
  - ・UNIX 互換（LPR）ポートは、プリンターの準備ができていない場合、5 分でデータが再送される場合があります。
  - ・Standard TCP/IP ポートは、プリンターの準備ができていない場合 90 秒でデータが再送される場合があります。

## ソフトウェアに関して

### ドライバーインストール・アンインストール

- Windows 2000 以降の OS では、プラグアンドプレイの機能がサポートされているため、パラレルポート接続でプリンタードライバーをインストールすると、この機能が働き、OS にバンドルされているミニドライバーがインストールされます。本製品をインストールする際は、下記いずれかにより、プラグアンドプレイ機能が働かない状態で行ってください。
  - プリンターが起動していない状態。
  - プリンターケーブルを本体に接続していない状態。
  - プリンター追加ウィザード中の「プラグアンドプレイプリンターを自動的に検出してインストールする」のチェックを外す。
  - インストール時のみプリンターポートとしてパラレルインターフェース以外のポートを選択し、インストール後に切り換える。
- インストールする際はすべてのアプリケーションを終了してからインストールを始めてください。
- インストール作業時、インストールが完了するまでは、CD-ROM を抜かないでください。システムエラーが発生することがあります。
- インストール作業終了後、プリンタードライバー設定画面が正常と思われない場合は、一度インストールされたドライバーをプリンターフォルダ上にて削除し、再度ドライバーのインストール作業を行ってください。
- プリンタードライバーのインストール中は、インターフェースケーブルを接続したり抜いたりしないでください。
- プリンタードライバーを共有設定で使用する場合には、プリンター同梱 CD-ROM のオートランプログラムまたは、SETUP.EXE によるインストールは使用できません。その場合、プリンターフォルダの「プリンタの追加」を用いてプリンタードライバーをインストールしてください。
- 本製品ドライバーをインストールする際、デジタル署名の確認画面が表示される場合がありますが機能上問題はありません。[ はい ] を選択してインストールを継続してください。

9

### ドライバーに関する注意と制限事項

- プリンター本体の設定項目の「白紙排紙（ハクシハイシ）」を、「しない」に設定すると、アプリケーションによっては、途中の白紙ページも排出しない場合があります。
- 異なる Windows OS（クロスプラットフォーム）のプリンタードライバーを使用する場合は、クライアントマシンがプリンタードライバーをロードする前に、必ずサーバーに代替ドライバーをセットアップしてください。
- 複数のプリンターまたはプリンタードライバーを使用する場合は、プリンターまたはプリンタードライバー毎にプリンターアイコンを作成して、それを切り換えてご使用ください。
- 印刷に関する制限／注意事項  
ご使用のパソコンで、Windows システム上における仮想メモリーの設定が小さいとメモ

リー不足が発生し、アプリケーションやプリンタードライバーでの描画処理を正常に行うことができず、以下のような現象が発生し、正常に印刷されない場合があります。このような場合には Windows システム上の仮想メモリーの設定を大きくして印刷してください。仮想メモリーの設定を大きくしても効果がない場合には、パソコン上のメモリーを増設してください。

- ・メモリー不足メッセージの表示
  - ・アプリケーションエラーの発生
  - ・警告なしの印刷中断
  - ・プリンター側の表示パネルにエラーメッセージの表示がなされ、印刷が途中で終了する。
- ・ご使用のパソコンの搭載しているメモリーの量によってはアプリケーションからの印刷処理に時間がかかる場合があります。また、メモリーの制限などで OS やアプリケーション側で印刷処理が継続できなくなった場合はアプリケーション側で印刷処理を中断してしまう場合があります。
- ・使用環境や印刷されるデータにより、一般保護違反エラーが発生する場合があります。
- ・使用するディスプレイドライバーにより、一部正常に印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションによってはプリンタードライバーの縮小指定を行うと一部正常に印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションによっては、画面上の網掛けパターンと印刷結果が異なる場合があります。
- ・アプリケーションによっては、画面上のイメージデータが一部印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を開いて印刷設定をおこなう場合、その設定内容（例：両面印刷の指定など）がアプリケーションによっては、印刷後に保持されない場合があります。これらの設定値を保持する・しないはアプリケーション側に依存しているため、繰り返し印刷をおこなう場合や、次のアプリケーション起動時に、前回の設定値が必ずしも正確に反映されない場合があります。アプリケーションから印刷をおこなう場合には、そのつど必ず印刷画面からプロパティを開き、印刷条件を再度設定したうえで印刷を実行するようにしてください。
- ・用紙方向が混在する文書の印刷において、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて選択する " 原稿方向 " が、先頭ページの原稿方向と一致していない場合、各ページの用紙方向が適正に設定されているにもかかわらず正しい印刷結果が得られない場合があります。この場合、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて設定する " 原稿方向 " を先頭ページの原稿方向と合わせてください。
- ・コンピューターのパラレルポートのモードが ECP に設定されている場合、システムに組み込まれているデバイスドライバー lpt.vxd のバージョンが「4.00.953」の時には正常に印刷できない場合があります。このときには、パラレルポートのモードを ECP 以外に設定するか、バージョン「4.00.955」の lpt.vxd を使ってください。
- ・スタンプ文字を印字する際に、大きな文字を印字すると印刷が異常に遅くなる場合があります。このような場合には、スタンプ文字のサイズを小さくして印刷してください。
- ・「不正コピー抑止」機能は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
- ・不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。

- ・不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ Windows 2000/XP/Server 2003/Vista の Active Directory Service において、機能や属性（例：両面印刷、印刷速度、用紙サイズ）でプリンターを検索する手段が提供されていますが、本製品ドライバーはこの機能に未対応です。本ドライバーの導入時その他で、この検索機能を利用しないでください。
- ・ Adobe Acrobat において、文字化けする場合があります。この場合は、印刷ダイアログのプリンタプロパティを開き、「印刷品質」タブの [ユーザー設定の変更] で、「イメージデータに変換して印刷する」に変更するか、[TrueType フォントの置換編集] においてフォントの変更を行うと、解決できる場合があります。
- ・ 機密印刷機能により拡張 HDD（オプション）に蓄積された文書は、プリンターの電源を切っても消去されずに残ります。機密印刷を実行すると蓄積された機密印刷ジョブは自動的に削除されます。以下の場合、文書は拡張 HDD に蓄積されません。文書が蓄積されなかったことが分かるように通知させるには、「Network Monitor for Client」の印刷ポートを使用し、「印刷通知」の「印刷処理中にエラーが発生した場合に通知する」を有効（チェックあり）にしてください。また、蓄積されなかった文書はエラー履歴で確認できますが、古くなった履歴は削除されます。
  - ・ 機密印刷と試し印刷の文書が、拡張 HDD に合計して 100 ジョブ蓄積されているときに送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります）
  - ・ 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書を送信した場合
  - ・ 送信した文書が、拡張 HDD に蓄積されている文書の総ページ数と合わせて、9,000 ページを超える場合（印刷データに）よっては、この文書数よりも少なくなることがあります
- ・ SSL（暗号化通信）印刷のサポート OS は、Windows 2000/XP/Server 2003/Vista、プロトコルは IPP です。IPP ポートの接続ポート数は 1 つです。なお、IPP プロトコルでは、データの再送が考慮されていません。IPP ポートを使用する場合は、プリンタービジーやエラーなどによる再送を考慮した運用が必要です。IPP ポートの作成は Network Monitor for Client から行ってください。SSL（暗号化通信）は「Network Monitor for Client」の IPP ポートのご使用を推奨します。プリンターの URL は、「https://（本製品のアドレス）/ipp」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。
- ・ 省エネモードの移行設定を「移行しない」に選択して使用された場合、寿命が短くなることがあります。
- ・ 双方向通信がうまくいかない場合は印刷速度が遅くなることがあります。RPCS プリンタードライバーの印刷処理の配分でコンピューター優先を選択してください。
- ・ Windows Server 2003 ではログイン権限によって双方向通信できない場合がありますのでご注意ください。
- ・ 高解像度モードでは高精細な印刷が行えますが、印刷データのサイズが増加したり、モアレが強調される場合があります。また、極細線や極小網点は、印刷されない場合があります。

## RPCS プリンタードライバーに関する注意と制限事項

### ◆ Windows Server 2003 動作時の制限事項

- Windows Server 2003 環境では一般ユーザー権限では以下の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。印刷方法、合成の追加、設定内容の保存 / 呼び出しは、Administrator 権限でも使用することができません。
  - 印刷方法
  - 合成の追加
  - ワンクリックアイコンの登録
  - 印刷品質—ユーザー設定の登録
  - 不定形サイズの登録
  - 合成・スタンプの登録
  - 設定内容の保存 / 呼び出し

### ◆ Windows Terminal Service 動作時の制限事項

- Windows Terminal Service 及び Meta Frame 環境では一部の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。
- サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、データ抜けが発生する場合があります。
- アンインストールを行う場合、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っている場合はエラーメッセージが表示されます。ポートの追加、設定を終了してから再度アンインストールを行ってください。
- 「自動作成されるクライアントプリンタ」について
  - 正しくプリンタードライバーの情報が複製されない場合があります。
  - クライアント側にて設定したオプション構成などの一部設定を引き継ぐことができません。
  - サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、通信回線の帯域制限により印刷されない場合があります。
- プリンタードライバーの複製機能について
  - Meta Frame の仕様により正しくプリンタードライバーが複製されない場合があります。ご使用になる前にご確認の上、運用していただきますようお願いいたします。正しく複製がされない場合には、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして運用していただくことを推奨いたします。

### ◆ 印刷に関する制限 / 注意事項

- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista 環境では、Windows ディレクトリがあるドライブの直下に、“\_rpcs” ディレクトリが生成されます（例えば、Windows ディレクトリが C:\¥Windows の場合には、C:\¥\_rpcs¥ が生成されます）。通常このディレクトリは、隠しフォルダで生成されます。
- 集約印刷・変倍機能を使用して印刷される場合、描画位置によって罫線の太さが違って印刷されることがあります。
- スタンプ印字にて文字スタンプの中抜き指定と太字指定を同時指定した場合、ご使用の OS により太字印字が効かない場合があります。
- Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。
- Windows XP の Fast User Switching モードで複数ユーザーからご利用なる場合、以下の機能は、あるユーザーで設定した値が他のユーザーにも反映されるので注意してくだ

さい。必ず、プリンタードライバーの画面で正しい設定になっているかを確認してから印刷してください。

- ・ ワンクリック設定アイコン
- ・ 印刷品質ユーザー設定アイコン
- ・ 印刷方法
- ・ スタンプ
- ・ 合成
- ・ 不定形サイズの登録
- ・ 章区切り
- ・ 複数部数をソート機能を使用しないで1→1→2→2のようにページ単位で印刷する場合には、[プリンタ] ウィンドウからプリンタードライバーの設定画面を開き、仕上げタブの [ソート (一部ごと)] のチェックをはずしてください。
- ・ 封筒やパンチ済み紙のように方向を持つ用紙の場合、180 度回転した印刷結果になることがあります。この場合、[その他タブ] の [180 度回転] を指定してご使用ください。この場合には、[初期設定画面] の [原稿方向混在設定] を指定してご使用ください。
- ・ OS の言語と異なる言語のプリンタードライバーを使用すると、文字が正常に印刷されなかったり、プリンタードライバーの画面上の文字が正常に表示されなかったりすることがあります。
- ・ プリンターフォント使用時半角アップバー (～) は上付き直線になります。
- ・ Microsoft Office バインダーからの印刷はできません。
- ・ プリンタードライバーのプリンター名、ポート名が 32 文字以上の場合、アプリケーションからそのプリンターを選択したり、印刷開始するとアプリケーションが強制終了する場合があります。このような場合は、プリンタードライバーのプリンター名やポート名を短くしてください。
- ・ 「不正コピー抑止」機能で [繰り返し印字] を指定すると、フォントの種類によっては印刷ができなくなることがあります。このような場合は、[行間] を広げてご使用ください。
- ・ 「不正コピー抑止」機能で [文字列のみ] を指定すると、マスクパターンは印刷されません。マスクパターンを印刷する場合はこのチェックをはずしてください。
- ・ 「不正コピー抑止」機能で [中抜き] を指定する場合は [文字列地紋・背景地紋入れ替え] も指定してご使用ください。
- ・ 大きなサイズや高解像度のイメージデータを印刷する場合、メモリーの不足により印刷されない場合があります。解像度を 600dpi で印刷している場合は 400dpi に設定して、改善を試みてください。
- ・ 変倍機能で、独立変倍を指定した場合、文字データが正常に印刷されない場合があります。
- ・ 合紙指定をすると部数指定が無効となります。このとき、[ユーティリティー] タブの「印刷プレビュー画面を表示」をチェックして印刷を行った場合も印刷プレビュー画面の部数指定は無効になります。
- ・ アプリケーションによっては、1 つの印刷ジョブを複数に分割してプリンタードライバーに送信して来るために、[印刷方法] が印刷ジョブの途中で解除されてしまう事があります。このような場合は、[初期設定] - [印刷後の設定] で、通常印刷に戻す設定をオフに変更してください。
- ・ プリンター名を変更すると、ワンクリックアイコンの登録情報は初期化されます。
- ・ Windows 2000/XP/Server 2003/Vista 環境では、アプリケーションからプリンタードライバーの [初期設定] タブを開いた場合に、[不定形サイズの登録] / [印刷後の設定]

ボタンが半輝度表示されません。変更は可能ですが、複数のアプリケーションを開いている場合に、あるアプリケーションで設定した値が他のアプリケーションにも反映されるので注意してください。

- Network Monitor for Client のポートを使用しているとき、以下の画面からは正しくヘルプの印刷がおこなえないことがあります。[プリンタ] ウィンドウ [プリンタプロパティーポート-ポートの構成] ダイアログで [ヘルプ] をクリック。
- 「写真・イメージ画像を補正する」機能で、露出オーバー、露出アンダー気味の画像データ以外に補正処理を適用させると補正が正しく行われなくなることがあります。

#### ◆ EMF での印刷について (Windows Server 2003/XP/Vista)

- 《EMF モードで印刷する設定方法》
  - 64bit 対応版の初期設定は EMF モードです。
  - 32bit 対応版と 64bit 対応版で、設定方法が異なります。
    - 32bit 対応版…以下の①②のチェックを常に ON にしてください。
    - 64bit 対応版…以下の①のチェックを常に ON にしてください。
      - ① 「プリンタープロパティー詳細設定-詳細な印刷機能を有効にする」(初期値はチェック ON です)
      - ② 「ドキュメントプロパティーその他- EMF スプールする」
- 《Point&Print 時の印刷について》
  - 「スタンプ印字 / 合成」が正しく印刷されない場合があります。
  - 「不定形」が正しく指定されない場合があります。
  - 「章分け / 章区切り」機能が正しく動作しない場合があります。
  - 「印刷後の設定」機能が正しく動作しない場合があります。
  - 「ユーザー認証」機能を利用できません。
  - 「試し印刷」「機密印刷」「保留印刷」「プリンターに保存する」「プリンターに保存して印刷」「ドキュメントボックスに蓄積する」機能は利用できません。なお、64bit 対応版を利用している場合は、EMF での印刷になるため、上記機能は利用できません。

#### ◆ 64bit 対応版について (Windows Server 2003/XP/Vista)

- 《印刷について》
  - 32bit アプリケーションから RAW スプールでの印刷を行うと、印刷結果が期待通りにならない場合があります。EMF モードで印刷してください。(設定方法は、EMF での印刷についてを参照してください)
  - 出力先指定でファイルは使用しないでください。
  - プリンターフォント (ゴシック・明朝) は、アプリケーション上から指定できません。
  - プリンターフォント (ゴシック・明朝) をアプリケーション上から指定していた文書をフォントを変更せずに印刷すると、指定と異なるフォントで印刷されます。
- 《バージョンアップを行う方へ》
  - ドライバー暗号鍵を設定されている場合、保存形式の変更のため、Ver7.5x 以下のバージョンからドライバーをバージョンアップした際は、ドライバー暗号鍵の再設定を行ってください。

#### ◆ ヘルプについて

- Windows Vista では、Windows XP/Windows Server 2003 で使用している、Winhelp 形式と呼ばれる古いヘルプモデルが未サポートとなりました。機種によっては、Winhelp 形式のヘルプファイルを使用しているためデフォルトでは表示できません。詳細は、マイクロソフト社ホームページをご覧ください。なお、該当機種においては Windows Vista 形式のヘルプファイルに対応する予定はございません。



## PostScript ドライバーについて

- ・アプリケーションの「部単位で印刷」の設定は "OFF" にして印刷を行ってください。ソートの設定はドライバー上の「ソート」の項目で行ってください。
- ・（フル）付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、画像が欠けてしまい正常に印刷できない場合があります。
- ・プリンタードライバー上ではプリンターの HDD の有無に関わらず、「試し印刷」「機密印刷」が常に設定可能ですが、HDD 未装着の状態ではプリンターが「試し印刷」「機密印刷」に非対応のため、自動的に「通常印刷」となります。
- ・PageMaker から「試し印刷」「機密印刷」「保留印刷」「プリンターに保存」「ユーザーコード」機能は使用できません。また印刷開始時刻の情報も印刷データに反映されません。
- ・網掛けなど画像のパターンによっては色味が異なって印刷される場合があります。この場合、印刷品質のユーザー設定にて、ディザリングの設定を印刷する画像（色味）に合ったディザパターンに変更してください。
- ・OS またはアプリケーションによって、印刷部数に 1000 部以上の部数が設定できますが、1000 部以上の部数は全て 999 部に統一されます。
- ・カスタム用紙サイズを設定する際、ダイアログに表示している値の範囲内であっても「カスタムページサイズのパラメータに矛盾があります。」の警告ダイアログが表示される場合があります。
- ・カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- ・Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。その場合には区切りページを使用しないでください。
- ・白黒反転印刷の機能は、「画像モード」または「カラープロファイル」を「ユーザー設定」にしたときに有効になります。
- ・ドライバー上の給紙段指定箇所で「自動選択トレイ」を指定している場合、全ての用紙の種類が選択できてしまいます。「手差しトレイ（マルチ）」からしか給紙できない用紙の種類（OHP、封筒など）を使用する際は、給紙段を「手差しトレイ（マルチ）」に設定して印刷を行ってください。
- ・奇数ページで終わる印刷データで両面印刷を指定した場合、PostScript ドライバーとアプリケーションとの組み合わせによっては、自動的に白紙ページが追加される場合があります。自動的に追加される白紙ページは、モノクロ 1 ページとしてカウントされます。自動的に追加される白紙ページをカウントさせない場合には、プリンター本体側の PS パネルメニューより「白紙排紙」の設定を「しない」に設定することにより白紙ページはカウントされなくなります。
- ・詳細オプションダイアログ内で「部数」の項目を複数部数に選択すると「部単位」のチェックボックスが表示されますが、この箇所は OFF の設定にして印刷してください。ソート機能の設定は、詳細オプションダイアログの「ドキュメントのオプション」－「プリンタの機能」－「ソート」の箇所で行ってください。
- ・印刷中に本体パネルに表示されるファイル名が文字化けする場合があります。例えば、表、能、貼の文字を含むファイル名の文書を印刷した場合、文字化けする場合があります。
- ・ランドスケープ文書印刷時、アプリケーションや OS の画像回転方向の違いによってステープル／パンチ／Z 折り位置が指定した位置と異なる場合があります。その場合、ドライバー側の「Orientation 設定」－「横」に設定する事により正しく印刷されます。それでも正常に印刷されない場合には、アプリケーション／ドライバー側の「印刷の向き」

- 「回転」を使用する事により正しく印刷される場合があります。
- N-up 印刷時に（フル）付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、通常用の紙サイズで印刷を行った時に比べ若干大きく印刷される場合があります。
- バイナリデータを使用した EPS ファイルを含む文書を印刷する場合、文字化けしたデータが大量に印刷される恐れがあるため、以下のように設定してください。  
プリンター本体の設定（Windows, Macintosh）：「データ形式」を「バイナリ」に設定してください。ドライバーの設定（Windows）：データ形式（Windows 9x）、あるいは、出力プロトコル（Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista）を、「ASCII」あるいは「バイナリ」に設定してください。
- カスタム用紙サイズを設定する際、ドライバー内部での計算上の丸め誤差の影響により次のような現象が発生する場合があります。
  - ドライバーUI上に表示される設定可能な範囲内にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示される場合があります。
  - ドライバーUI上で設定できる最大サイズまたは最小サイズを入力しても印刷できない場合があります。
  - ドライバーUI上に表示されている設定可能な範囲外にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示されない場合があります。
  - カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- PageMaker よりカスタム用紙サイズ印刷時、アプリケーションでトレイの指定を行っても正しくコマンドが出力されないため「自動選択トレイ」の動作となります。「手差しトレイ」などに設定したカスタム用紙サイズは給紙されません。その場合、プリンターの本体パネルより給紙するトレイを選択し強制印刷を行ってください。
- PageMaker よりカスタム用紙サイズ印刷時、アプリケーションでトレイの指定を行っても正しくコマンドが出力されないため「自動選択トレイ」の動作となります。「手差しトレイ」などに設定したカスタム用紙サイズは給紙されません。その場合、プリンターの本体パネルより給紙するトレイを選択し強制印刷を行ってください。
- PageMaker からの印刷では「自動トレイ選択」の選択肢が表示されません。必ずトレイ指定の動作になります。（デフォルトは「トレイ1」。）
- 「Microsoft Office XP」文書のオートシェイプの塗りつぶしでテクスチャを指定した場合、印刷結果に透過性は反映されません。
- データ形式（Windows 9x）、出力プロトコル（Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista）を「TBCP」に設定した場合、PS エラーが発生したり、部数設定が不正になる場合があります。その場合、データ形式、出力プロトコルは「ASCII」の設定でご使用ください。
- 「Microsoft Word」のカスタム用紙サイズの文書は正常に印刷されないことがあります。

## Network Monitor for Admin に関する注意と制限事項

### ◆ アンインストール時の制限

- Network Monitor for Admin が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがアンインストールすると、データが完全に削除されず正しくアンインストールされません。インストール時と同じユーザーでログオンしてアンインストールを行ってください。
- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista でアンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。

### ◆ インストール時の制限

- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista でインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- バージョンアップを行う場合は、起動している Network Monitor for Client を終了させてから行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがバージョンアップすると、正しくバージョンアップされません。インストール時と同じユーザーでログオンして行うか、アンインストールしてからインストールを行ってください。
- インストール先のフォルダは Windows ディレクトリを指定しないでください。また、Network Monitor for Client がインストールされている場合は Network Monitor for Client と異なるフォルダを指定してください。
- インストール時にインストール完了画面が背面に表示されることがあります。この場合タスクバー上の該当部分を開いてください。
- ネットワークドライブからインストールするとき、クライアントとサーバーの双方がロングファイルネームをサポートしていない場合、インストールできないことがあります。ロングファイルネームをサポートしていない場合は、インストール元のネットワークドライブのディレクトリ名を DOS8.3 形式で作成してください。
- Windows NT Server4.0、TerminalServerEdition または Windows 2000Server ファミリでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Admin をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。
- インストールモードでインストールを行うには、以下の 2 通りの方法があります
  - [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Admin をインストールします。
  - MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。  
CHANGE USER /INSTALL  
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。  
CHANGE USER /EXECUTE  
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。
- Windows 95/98/Me のネットワークドライブから Windows Server 2003 へのインストールは行う事が出来ません。
- インストールを行う際は、Windows Server 2003 のローカルドライブにコピーし実行してください。

## ◆ 注意 / 制限事項

- ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合（コンピューターの台数は環境によって異なります）です。  
この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] をクリックし、[応答待ち時間] を長めに設定してください。
- TCP/IP の機器検索で指定サブネットを用いて機器検索を行った場合、ルータ機器におけるブロードキャストの設定、機器側のサブネットアドレスの設定によっては、機器検索ができないことがあります。  
この場合、ネットワーク管理者にご相談ください。
- イーサネットボード設定ツールのイーサネットボードリスト画面において TCP/IP プロトコルにてプリンターをブラウズした場合、一部の機種で MAC アドレスが "未取得" と表示される場合があります。このような機種の MAC アドレスを確認する場合は、機種を選択して "次へ" をクリックしてください。
- ネットワークにダイヤルアップ回線を接続しているお客様は、適切な対応を行わない場合、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。
- 次の環境に該当する場合、Network Monitor for Admin を一度削除し、アップグレード後に再インストールする必要があります。
  - OS を Windows 2000/XP/Server 2003/Vista にアップグレードした環境
  - Windows 2000/XP/Server 2003/Vista において、Network Monitor for Admin をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境
- Windows XP Home Edition においては、IPX/SPX プロトコルによる機器検索はおこなえません。
- 同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。  
詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。
- 次の条件に該当する場合、グループメニューの [機器検索] - [IPX/SPX] がグレーアウトし選択できないことがあります。
  - Windows 2000/XP に Novell 社提供の Client をインストールされている環境で、Windows 2000/XP にログインする際に、NetWare へのログインを行っていない。  
Windows 2000/XP へログインする時は NetWare へのログインも同時に行うようお願いします。
- 検索・監視条件設定の範囲指定で指定した範囲が広い場合、検索に時間がかかります。  
[グループ] メニューの [閉じる] をクリックするか、機器検索ウィンドウの右端の X をクリックして中止することが出来ます。
- TCP/IP の機器検索で指定サブネットを用いて機器検索を行った場合、ルータ機器におけるブロードキャストの設定、機器側のサブネットアドレスの設定によっては、機器検索ができないことがあります。この場合、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 「拡張 IEEE 1394 ボード」に接続された機器の詳細情報は、ネットワーク I/F のノードアドレスが "00-00-00-00-00-00" と表示されます。

- ・「拡張 IEEE 1394 ボード」に接続された機器ではイーサネットボード設定ツールは使用出来ません。
- ・SNMPv3 での情報取得時、入力した暗号パスワードと、機器に設定された暗号パスワードが一致しない場合、状態が「応答なし」と表示されます。
- ・機器にサーバー証明書をインストールし、暗号化通信 (SSL 通信) を行う場合、証明書を発行したサーバーにアクセスできない環境では暗号化通信が使用できないことがあります。このとき、機器の通信許可設定が「暗号化通信のみ」だと、アドレス情報管理ツール、ユーザー情報管理ツール、イーサネットボード設定ツール、機器の詳細画面でのリセット機能が使用できなくなります。暗号化通信を可能にするには、証明書を発行したサーバーにアクセスできるよう通信環境を整えるか、インターネットエクスプローラーのインターネットオプションで、サーバー証明書の取り消し確認を無効にしてください。

## Network Monitor for Client に関する注意と制限事項

### ◆ アンインストール時の制限

- ・Network Monitor for Client が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- ・アンインストールを行う場合、全ての印刷が終了していることを確認してください。Network Monitor for Client のポートを使用して印刷している場合はエラーメッセージが表示されます。印刷が終了してから再度アンインストールを行ってください。
- ・アンインストールを行う場合、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っている場合はエラーメッセージが表示されます。ポートの追加、設定を終了してから再度アンインストールを行ってください。
- ・Windows 2000/XP/Server 2003/Vista でアンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- ・アンインストール終了時に再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。

### ◆ 印刷時の制限

- ・代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション (両面ユニットなど) が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- ・代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターに同じサイズ of 用紙をセットしてください。特定の給紙トレイを指定して印刷するときは、同じトレイに同じサイズ of 用紙をセットしてください。RPCS ドライバーを使用しての印刷時に、給紙トレイを指定すると、代行印刷・並行印刷は動作しません。
- ・並行印刷する場合、アプリケーションの印刷ダイアログに「部単位で印刷」という項目があるときは、そのチェックを外してください。
- ・代行印刷、並行印刷した場合、実際に印刷したプリンターがアプリケーションから選択したプリンターと異なる場合があります。このため、機器の詳細情報画面のジョブ履歴には、印刷したジョブが反映されないケースがあります。
- ・Windows 2000/XP/Server 2003/Vista では、印刷通知のダイアログボックスがアプリケーション画面の背面に表示されます。(Windows の仕様) 印刷通知は、タスクバーの表示でご確認ください。

- ・プリントサーバー経由で印刷したときの印刷通知をクライアントパソコンに行う場合、プリントサーバーを起動した直後は通知されないことがあります。
- ・以下の場合、プリントサーバー経由で印刷したときの印刷通知をクライアントパソコンに行うことができません。
  - ・クライアントパソコンにおいて、プリントサーバー上にあるプリンターを追加する際、ログオンしたユーザー名と異なるユーザー名でプリントサーバー上のプリンターに接続した場合
  - ・プリントサーバーに、クライアントパソコンのログオンユーザーと同じアカウントがない場合
  - ・プリントサーバーの OS が Windows XP である場合、サーバーパソコンの Guest アカウントが有効になっていて、かつ、ローカルユーザーとして印刷を行った場合
- ・Windows XP において、2 人目以降にログインしたユーザーのデスクトップがアクティブである時、代行印刷・並行印刷の条件を満たした場合でも、代行印刷・並行印刷は行いません。また、エラー通知 / 印刷完了通知も行いません。
- ・機器が省エネモード状態の時に印刷を行うと、認証情報のチェックが行えず代行印刷機能が正しく機能しない場合があります。

#### ◆ インストール時の制限

- ・ネットワークドライブからインストールするとき、クライアントとサーバの双方がロングファイルネームをサポートしていない場合、インストールできないことがあります。ロングファイルネームをサポートしていない場合は、インストール元のネットワークドライブのディレクトリ名を DOS8.3 形式で作成してください。

< 例 >	○	F:\PRG\RMCLIENT¥	DOS 8.3 形式
	×	F:\PROGRAMFILES\RMCLIENT¥	DOS 8.3 形式でない ディレクトリ名が長すぎる

\* DOS 8.3 形式は、ファイル / ディレクトリ名の文字長が 8 文字以下 + ピリオド + 拡張子 3 文字以下の範囲。

- ・Microsoft Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista でインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- ・バージョンアップを行う場合は、起動している Network Monitor for Client を終了させてから行ってください。また、全ての印刷が終了していること、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。
- ・インストールしたユーザーと違うユーザーがバージョンアップすると、正しくバージョンアップされません。インストール時と同じユーザーでログオンして行うか、アンインストールしてからインストールを行ってください。
- ・インストール先のフォルダは Windows ディレクトリを指定しないでください。また、Network Monitor for Admin がインストールされている場合は Network Monitor for Admin と異なるフォルダを指定してください。
- ・インストール時にインストール完了画面が背面に表示されることがあります。この場合タスクバー上の該当部分を選択し前面に表示してください。
- ・次の環境に該当する場合、Network Monitor for Client を一度削除し、アップグレード後に再インストールする必要があります。
  - ・OS を Windows XP (x64) から Windows Vista (x64) にアップグレードした環境
  - ・Windows XP (x64) / Server 2003 (x64) において、Network Monitor for Client をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境

- WindowsNT Server4.0,TerminalServerEditionまたはWindows 2000Serverファミリでターミナルサービスを実行している環境でNetwork Monitor for Clientをインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、以下の2通りの方法があります。
  1. [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
  2. MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。  
CHANGE USER /INSTALL  
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。  
CHANGE USER /EXECUTE  
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。
- Windows95/98/Me のネットワークドライブから Windows XP (x64) /Server 2003 (x64) /Vista (x64) へのインストールは行う事が出来ません。インストールを行う際は、Windows Server 2003 のローカルドライブにコピーし実行してください。
- インストール終了時に再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。再起動する際、Windows 2000/XP/Server 2003/Vista の環境では Administrator の権限でログインしてください。

#### ◆ ポートの追加/設定時の注意事項

- プリンターのプロパティ画面における [ポートの構成] ボタン (Windows によっては [ポートの設定] ボタン) を押した際、機器の応答が無い場合 (電源断など)、ポートの設定 (ポートの構成) ダイアログはしばらく待ち状態になる場合があります。そのままお待ちいただくか、機器の電源が入っていない場合は電源を入れてください。
- ポートの追加をするときに、機器のアドレスをホスト名で指定するには、該当する機器のホスト名が、hosts ファイルに記述されているか、DNS サーバーに登録されているか、WINS サーバーに登録されている必要があります。ホスト名の文字数には、それぞれ制限がありますので詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。なお、ホスト名が正しく設定されていないと、ポートの追加や機器監視が行えません。
- 同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。

#### ◆ 監視時の注意 / 制限事項

- ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合 (コンピューターの台数は環境によって異なります) です。この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] を選択し [応答待ち時間] を長めに設定してください。
- ネットワークにダイヤルアップ回線を接続している場合、適切な対応を行わなければ、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。

**◆ 印刷時の制限**

- ・ 代行印刷、並行印刷のプリンターの選択画面で、機器検索に時間がかかる場合に、プリンターの選択画面を操作を行うと、プログラムの終了のメッセージが表示される場合があります。プログラムの終了のメッセージで [すぐに終了] ボタンを押下すると、プリンターの選択画面が終了してしまい、ジョブが印刷されません。
- ・ Windows XP (x64) / Vista (x64) において、1人目にログインしたユーザーがログオフした場合、次にログインしたユーザーで印刷通知、代行印刷・並行印刷を行います。
- ・ 以下のような場合、機器からジョブ情報が取得できず、自分のジョブ一覧や印刷完了通知でジョブの状態が "データ転送完了" と表示される場合があります。
  - ・ 機器のジョブスプール機能が有効に設定されている場合
  - ・ PS での印刷など、機器で高負荷な印刷処理を行っている場合
- ・ 代行印刷、並行印刷した場合、印刷元 / 代行 (並行) 先の機器利用可否チェックは行いません。

**◆ ジョブ操作時の注意事項**

- ・ ジョブのキャンセル機能はデータ転送完了前のジョブのみジョブ操作を行えます。
- ・ ジョブの一時停止 / 再開機能は行うことはできません。

**◆ プリンタードライバー連携機能に関する制限事項**

- ・ プリンタードライバーが対応していない場合、以下の制限事項があります。
  - ・ プリンターのプロパティでオプション構成や給紙トレイ用紙の自動設定のための双方向通信が出来ません。(RPCS ドライバー、PS ドライバー)
  - ・ 印刷通知 (完了通知 / エラー通知 / 自分のジョブ一覧) が使用できません。(RPCS ドライバー) (データ転送完了までの状態を通知します)
  - ・ ジョブごとの印刷通知設定が出来ません。
  - ・ 64bit 対応ドライバーがリリースされていない機器への印刷は行えません。

## 印刷ポートについての注意と制限事項

- ・ IPP ポートはプリンターの準備ができていない場合や、印刷中の場合、印刷されない場合があります。その場合は再度印刷を行ってください。

## 9

## TCP/IP 使用時の注意と制限

**◆ 印刷時**

- ・ 印刷データの受信を始めた時点で、印刷データのサイズがハードディスクまたはメモリーの残り容量よりも大きい場合、その印刷データは受信することができません。印刷データが受信容量を超えた場合、クライアントによっては即時再送信をするものがあります。このとき、クライアントがハングアップしたように見えます。対処として、クライアント側でその印刷データの送信を中止する必要があります。
- ・ コンピューター側で IP アドレスやコンピューター名を変更した場合、プリンター側での問い合わせ処理や取り消し処理が正常に行われなくなります。プリンター側でスプールに印刷データがない状態にして、電源を切 / 入してください。



**◆ 設定時**

- ・プリンター側の設定
  - ・IPアドレスの設定には十分注意してください。IPアドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
  - ・使用するネットワーク環境においては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要項目を設定してください。
- ・パソコン側の設定
  - ・IPアドレスの設定には十分注意してください。IPアドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
  - ・NIS (Network Information Service) の管理下で使用されている上位装置で、ネットワーク (IP アドレスなど) の設定をする場合は、NIS の管理者に相談してください。

**◆ 電源切時**

- ・本製品の電源を切るときは、以下の点に注意してください。
- ・印刷出力中の印刷データを含め、プリンターのメモリーにスプールされた印刷データは、すべて削除されます。再び電源を入れたときは、印刷指示された印刷データは存在しません。ただし、印刷指示をした直後に電源を切った場合、印刷データはコンピュータ上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときは、新しく印刷指示された場合でも、保存されている印刷データから順に出力されます。

---

## ハードウェアに関して

---

### 使用上の条件

---

- ・用紙の詳細な内容については、取扱説明書の「印刷用紙について」を参照してください。
- ・カード紙の印刷にはいろいろな制約があります。十分な評価を行った上でご使用願います。
- ・給紙トレイに用紙を補給するときは、前の用紙が完全になくなってからにしてください。用紙をつぎたすと、紙づまりの原因になります。
- ・使用する用紙によっては、給紙時に用紙をさばく音 (分離音) が発生する場合がありますが、異常ではありません。
- ・推奨紙をご使用の場合でもプリンターの設置環境や推奨紙の保管方法や取り扱い方法が悪い場合は、トラブルの原因となることがあります。また、普通紙・再生紙以外の用紙では、寿命・ジャム等の仕様を満足できないことがあります。
- ・推奨紙以外の紙をご使用の場合、以下のトラブルの原因になるおそれがあります。
  - ・用紙のカール、紙づまり、重送、紙シワ、斜行等
  - ・印刷品質の劣化等
  - ・プリンターの故障
- ・他のプリンターで使用できていた用紙が必ずしも使用できるとは限りません。プリンターをリプレースする場合は、実用紙によりご確認ください。
- ・両面印刷ユニットを装着している場合でも、普通紙、再生紙、およびレターヘッド付き用紙以外の用紙は両面印刷できません。

## 用紙の保管について

- ・本装置に適切な用紙でも、取り扱いや保管状態が悪いと用紙が変質し、用紙づまりや故障の原因となります。用紙は以下のことに注意して取り扱い、保管してください。
  - ・給紙トレイに合ったサイズ of 用紙を用意してください。
  - ・バラバラになった用紙を寄せ集めて使用しないでください。
  - ・複数枚重なって排出された場合など、装置を一度通った用紙は再利用しないでください。
  - ・直射日光の当たらない、湿気の少ない場所に保管してください。
  - ・開封後用紙トレイにセットせずに残った用紙または、長時間使用しない用紙は、包装されていた紙に包み、湿気の少ない場所に保管してください。
  - ・用紙は立てかけず、平らな場所に保管してください。
  - ・シワ、折れ、カール等がつかないように保管してください。

## 再生紙について

- ・推奨紙以外の再生紙は、一般の普通紙に比べ以下のような不具合を発生させやすいので、使用できる用紙の注意事項に加えて以下の事項をご留意の上、使用してください。
  - ・吸湿しやすいため、紙カール量、シワ、折れが増大する場合があります、にじみ、重送、給紙ミスや紙づまりの原因となることがあります。
  - ・紙粉、抜きカスなどによる印字品質への影響、給紙ミスや各種センサ系の誤検出の原因となることがあります。
  - ・用紙強度、剛度が弱いため、スタック性、折りたたみ性が劣る場合があります。
  - ・普通紙に比べて長期保存性に劣るため、保存文書等へのご使用は避けてください。
  - ・比較的変色しやすいので、直射日光は避けてください。
  - ・紙厚が若干厚いため、用紙トレイや多重手差しトレイの用紙セット枚数は普通紙に比べて少なくなります。
  - ・紙粉が多いため、清掃、点検を確実に実施してください。
  - ・用紙を装置にセットしたまま長期間放置しないでください。印刷しない場合は、用紙を取り外し包装紙に包んで保管してください。

## 9

## 再生紙の購入、保管

- ・再生紙は、原料として使用される古紙によって品質が大きく変化します。このため、再生紙を大量に購入される場合は、事前に本装置で印刷の確認を行うことをお勧めします。
- ・再生紙は空調された室内に保管し、包装を開封した用紙は速やかに使用してください。

## 用紙がつまったとき

- ・プリンターの電源を入れたままで紙づまりの処置を行ってください。電源を切ると、プリンター内のメモリーに保持されているデータが消えてしまいます。
- ・つまった用紙にはトナーが付着しています。手や衣服などに触れると汚れますのでご注意ください。
- ・つまった用紙はプリンター内部に残らないようすべて取り除いてください。用紙は複数箇所、つまっていることがあります。用紙を取り除くときは、表示以外の箇所に用紙があるか確認しプリンター内でつまっている用紙全てを取り除いてください。

- つまった用紙を勢いよく引っばると用紙が破れ、機器の内部に紙片が残る可能性があります。
- つまっている用紙を取り除く前にカバーを閉じたり電源を入れなおさないでください。プリンター内に残っている用紙が移動して取り除くのが困難になることがあります。用紙が取り除けない場合は、プリンターの電源を切り、保守会社に相談してください。
- 紙づまり処置後に印刷された用紙は、表面や裏面に汚れが付着することがあります。数枚印刷すると汚れは消えます。特に定着ユニットにつまった用紙を引き抜くと、汚れがひどくなりますのでご注意ください。

## 注意と制限事項

- 感光体カバーは、中の感光体（ドラム）に光が当たらないように保護しています。感光体カバーをむやみに開けないでください。
- 感光体ユニット・現像ユニット・定着ユニットは、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷を行うと、寿命が最大半分程度に低下することがあります。
- トナーが手や衣服についたときはすぐに洗ってください。
- 感光体の交換などを行う際は直射日光や強い光の当たる場所を避け、室内の明かりの下でも、速やかに作業してください。
- 感光体をプリンターから取り外した場合は、強い光に当てないように、厚い布などに包んでください。
- トナーカートリッジを立てて置いたり、振ったりする事は行わないでください。トナー漏れや印刷不良の原因となります。
- 各消耗品の「印刷可能ページ数」は同梱品のトナーカートリッジも含め、A4 縦 5% のデータを連続印刷をした場合の目安です。実際の印刷可能ページ数は印刷する用紙の種類・サイズ、印刷内容、1 ジョブあたりの連続印刷ページ数、環境条件によって異なります。またトナーカートリッジは使用期間によっても劣化するため、上記目安より早く交換が必要になる場合があります。
- 寒い所から暖かい所に移動した場合は、1 時間以上室温に慣らしてから使用してください。
- 現像ユニットは立てたり、逆さまにしないでください。トナーカートリッジを立てて置いたり、振ったりする事は行わないでください。トナー漏れや印刷不良の原因となります。
- 前カバーを開けたまま長時間放置しないでください。感光体は、長時間光に当てると性能が低下します。感光体の交換はすみやかに行ってください。
- ドラム表面には手を触れないでください。ドラムを汚したり、傷つけることがあります。
- トナーカートリッジ等の消耗品や部品は、弊社指定の製品により、プリント品質を評価しています。品質維持のため、弊社指定のトナーカートリッジ、ドラムユニット、消耗品または交換部品をご使用ください。
- 本製品用のオプションや弊社製消耗品（純正トナーカートリッジ）をご使用願います。また、純正以外のオプションやトナーまたはトナーカートリッジなどの消耗品を使用すると、性能や寿命に重大な損傷をもたらす可能性があります。この場合に発生した故障は保証の対象とはなりません。

共用オプション・消耗品

- PC-PG45103 : PC-PK4510 と共用

## トナー寿命について

- ・プリンター購入時に添付されているトナーカートリッジの印刷可能ページ数は約 36,000 ページ（A4、黒比率 5%）です。早めにトナーカートリッジをお求めくださることをお勧めします。
- ・本製品には、消耗品が使用されています。寿命（枚数、時間）は A4 縦送り、5% のデータを連続印刷した場合の値です。用紙サイズや用紙方向、連続印刷ページ数、使用環境などによって異なります。また、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷では、寿命が最大半分程度に低下することがあります。

寿命になった消耗品（トナーカートリッジ、ドラムユニット）は交換してください。

消耗品名	寿命目安
トナーカートリッジ	
スタータートナー：	約 36,000 ページ
PC-PZ35501：	約 36,000 ページ
ドラムユニット	
PC-PZ35502：	約 80,000 ページ
ステープラー	
PC-PZ35503：	1 箱（5,000 針× 1 個+カートリッジ× 1 個）
PC-PZ35504：	1 箱（5,000 針× 3 個）

## 保守・運用

### 運用上の注意事項

- ・本製品の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- ・装置や部品の寿命値の算出は A4 換算で行っています。印刷用紙サイズや印刷デュティによっては印刷枚数より早く寿命となることがあります。

## 9

### 保守・運用について

- ・本製品に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作を誤ったり本製品に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- ・本製品は日本国内向けに製造されており、電源仕様の異なる諸外国では使用できません。本製品を日本国外に移動させた場合は、保守サービスの責任は負いかねます。また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国異なります。これらの規則に違反して、本製品および消耗品等を諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は弊社担当営業にお問い合わせください。
- ・本製品またはリサイクル対象外の消耗品は不燃物として、または法令、条例に従って産業廃棄物として、お客さまにて処分、処理をお願いします。
- ・本製品を設置時、プリンターが入っていた箱は保管しておいてください。

- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。寿命（枚数、時間）は A 4 推奨紙を常温常湿環境にて連続印刷した場合の値です。再生紙や幅狭用紙、厚紙、穴あき用紙などを使用した場合は寿命が低下します。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着器や給紙ローラー、分離パッド等）が必要ですので、保守契約を行うようお願いいたします。

## 性能低下の条件

下記条件において、印刷速度が低下することがあります。

- ・画像が入ったデータを印刷する場合
- ・画質優先設定実行時
- ・大量印刷実行時
- ・小サイズ用紙印刷時
- ・用紙種類を「普通紙」以外にした場合
- ・印刷位置変更時
- ・トナーセーブ使用時

## その他

### 形名の読み替え

本製品の形名は PC-PL3550 となりますが、プリンタードライバー、PostScript ドライバーのインストール時の表示や Readme など、提供している資料やソフトウェア上で異なった形名で表示や説明している部分があります。下記に従い読み替えるようお願い致します。

- ・IPSiO SP 8220 → PC-PL3550

### USB について

- ・USB ポート接続していたプリンターをネットワーク接続する場合は、CD-ROM から「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Client ポート（TCP/IP ポート）が使用できます。
- ・USB インタフェース（USB2.0）を装備していますが、Hi-Speed USB2.0 での最大転送速度に対応する為には、パソコン本体のインタフェース及び接続ケーブルが Hi-Speed USB2.0 に対応している必要があります。また、Hi-Speed USB2.0 は USB1.1 と互換性がありますので、パソコン側が Hi-Speed USB2.0 に未対応でも、USB1.1 での転送速度にて動作可能です。
- ・USB は機器の組み合わせにより、動作が保証されない場合があります。USB 接続で印刷される場合は、次の条件を満たすパソコンをご使用ください。
- ・条件を満たしていないパソコンでは誤動作を起こすことがあります。
  - ・USB 接続で使用する場合のパソコンの条件
    - ・対応オペレーティングシステムは Windows 2000/XP/Server 2003/Vista です。
    - ・プリンターとパソコンを接続するケーブル長は 2.0m 以内としてください。
    - ・プリンターとパソコンは直接接続してください。（HUB は使用しないでください。）
    - ・パソコンのチップセットが、インテル製であることを確認してください。

## 560 について

- ・ PC-PL3550 ではオプションの C/S560 用 LAN アダプタ (PC-PB20211) を使用すると、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷がご使用できます。PC-PL 3550/3540/3530/2660 を除く他の機種ではご使用できません。
- ・ プリンターが標準装備している LAN ボードでは、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷は、ご使用いただけません。プリンターが標準装備している LAN ボードと、オプションの C/S560 用 LAN アダプタ (PC-PB20211) は IP アドレス設定などの操作画面や方法が異なります。
- ・ CommuniNet の 560 プラス (パススルー印刷、ページ印刷) は、ご使用いただけません。

## 印刷結果の相違について注意事項

- ・ ご使用の環境や用紙・プリンターの状態により色味が異なることがあります。
- ・ ご使用になるドライバーの種類や OS の種類によって、ドライバーのサポートしている機能および印刷結果に相違がでることがあります。
- ・ 他のプリンターと印刷結果が必ずしも同じにはなりません。プリンターをリプレースする場合は実データによりご確認ください (線の太さ、網掛け、印刷領域等)。

## 印字品質について

- ・ 印刷結果は、同一機種内でのバラツキが存在します。厳密な印刷の必要がある場合は、バラツキを考慮した帳票設計と運用をお願いします。
- ・ バーコード・QR コードの印刷について  
下記項目等により、読み取り可否が変動する場合がありますので、事前に十分ご確認くださいととともに、使用開始後にも確認してください。
  - ・ 帳票デザイン
  - ・ 印刷の向き
  - ・ 用紙のアプリケーション (コードのデザイン、補正有無等)
  - ・ 環境
  - ・ プリンターの状態・設定
  - ・ 純正トナーカートリッジの使用
  - ・ リーダの読み取り性能
- ・ 料金代理収納用バーコード「EAN128 コンビニバーコード」(以降 EAN128 コンビニバーコード) の印刷が可能ですが、読み取りに関しては、帳票デザイン、バーコードの配置 (向き)、アプリケーション、用紙、プリンター、環境、印刷結果の取り扱い、バーコードリーダなどの要因により影響され、読取れない場合があります。実環境で実際に印刷したバーコードの読み取りを事前に確認して頂く必要があります。バーコードは黒一色のみで作成してください。黒とカラーを重ねて印刷するブラックオーバープリントなどは使わないでください。
- ・ EAN128 コンビニバーコードの事前注意点
  - ・ 純正トナーカートリッジの使用
  - ・ バーコードデザインの補正が可能なアプリケーションの使用
  - ・ 紙送り方向とバーコードのバー方向が平行になるバーコードの配置  
また、プリンターの設定やアプリケーションの設定は機種により異なり、印刷位置はプリンターごとに異なる場合がありますので、パソコンやプリンター毎の調整が必要

な場合があります。なお、印刷は、用紙や環境、プリンターの状態により変化する場合がありますので、定期的なバーコードの読み取り確認を推奨致します。

## 移行に関する注意事項

・ PC-PL2650 等の LIPS や、PC-PK4720 等の ESC/Page を PDL（プリンター制御言語）とするプリンターからのリプレース時の、PDL に関する問題点は下記になります。

1) OS にインストールされたプリンタードライバーを使用していない場合。

例. アプリケーションにて直接 LIPS コマンドを生成している  
(Communitnet 560+ ページモード等)

この場合、アプリケーションで本製品に対応した PDL を生成できるようにするか、アプリケーションの出力を OS にインストールされたプリンタードライバーにする必要があります。

2) プリンタードライバーの DevMode 構造体を、アプリケーションが UI を用いないで直接制御している場合。

例. アプリケーションが印刷を実行するとき、プリンタードライバーを使用しているが、UI (Word 等で "印刷" を実行すると出てくるプリンターの設定画面。通常給紙部や、両面印刷等の指定が出来る) を経由しないで直接 DevMode 構造体の値を取得している (PC-PDE 等)。

この場合、上記 PDL だけの問題では無く、プリンタードライバーが変更されると DevMode の値が変わることがあり、思った通りの印刷結果が得られない場合があります。

但し、アプリケーションを作成したときのドライバーと変更後のドライバーで使用している DevMode の値が同じであれば問題は発生しません。

3) 現在 LIPS、または ESC/Page をドライバー経由で通常の使用方法で使用しており、他 PDL での評価をしていない場合。

通常のプリンタードライバー経由の印刷の場合、PDL が切り替わることによる問題はありません。

但し、機種により固有値や機能がありますので、厳密な印刷を求める場合は確認が必要です。

## 清掃について

プリンターを良好な状態に保ち、きれいに印刷するために、以下の部分を定期的に清掃してください。(プリンター内部に、ほこりや汚れがあるときは、乾いた清潔な布で拭いてください。) 専用器具があるものは専用器具を使って清掃してください。専用器具を使用するよう指示があるものの場合、専用器具以外のものを使用して清掃すると、キズや故障が発生することがあります。

- ・ 防塵ガラス
- ・ レジストローラー周辺

## 内蔵フォント

以下のフォントを使用できます。

### 搭載フォント

アウトライン：明朝 L、明朝 L プロポーショナル、ゴシック B、ゴシック B プロポーショナル、Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS、Courier 4書体、Arial 4書体、TimesNewRoman 4書体、Wingdings、Century 朝 L、ゴシック B、平成明朝、平成ゴシック  
 ビットマップ：Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS  
 ポストスクリプト：平成 2 書体（平成明朝 W3、平成角ゴシック W5）、欧文 136 書体 \*1  
 PDF フォント：平成 2 書体（HG 平成明朝 W3、HG 平成角ゴシック）、欧文 136 書体 \*1  
 その他：OCR-B

\*1 PS/PDF オプション装着時

## 有償部品について

以下の部品は有償部品です。

本機の性能を十分に発揮させるために、以下の期間で必ず交換してください。

交換に関しては、担当営業または保守会社までご連絡ください。

### ★重要

- ・有償部品を交換しないと、きちんと印刷できなくなるだけでなく、重送、紙づまりの原因となり故障が多くなることがあります。交換目安は操作パネルで確認したメーターの値か、スタートページプリントまたはプリンター設定リストに印刷されているプリント総ページ数を参考に担当営業または保守会社にご連絡ください。
- ・次の一覧表の数値はあくまで目安であり、故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。

	項番	品名	交換目安 (A4 縦)	備考
有償定期交換部品	1	転写キット	印刷枚数 約90,000ページ *1	プリンター本体用
	2	定着ユニット	印刷枚数 約90,000ページ *1	プリンター本体用
有償寿命部品	3	ピックアップコロ	印刷枚数 約50万ページ *1	プリンター本体用
	4	フィードコロ	印刷枚数 約50万ページ *1	プリンター本体用
	5	セパレートコロ	印刷枚数 約50万ページ *1	プリンター本体用
	6	手差しピックアップコロ	印刷枚数 約16万ページ *1	プリンター本体用
	7	手差しフィードコロ	印刷枚数 約16万ページ *1	プリンター本体用



項番	品名	交換目安 (A4 縦)	備考
8	手差しセパレートコロ	印刷枚数 約16万ページ <sup>*1</sup>	プリンター本体用
9	書込 UNI：総組立	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
10	操作部：DOM：組付	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
11	PSU：DOM/NA：ALEX-C1P1	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
12	PCB：MB：ALEX-P1	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
13	PCB：CTL：AL-P1：DOM：組立	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
14	PCB：IOB	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
15	PCB：BCU：AY-P1：総組立	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
16	ブラシレスモーター：駆動：ドラム	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
17	ブラシレスモーター：駆動：転写	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
18	ブラシレスモーター：駆動：定着	約5年 <sup>*2</sup>	プリンター本体用
19	PCB：SICILIA-B：P-DOM：組立	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
20	PCB：CEBU-B：P-DOM：組立	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
21	PCB：PALAU：組立	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
22	PCB：中継 UNI：組立	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
23	PCB：パンチ：制御	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
24	PCB：メイン制御：総組立	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用
25	PCB：シフト：ジョガー	約5年 <sup>*2</sup>	オプション用

<sup>\*1</sup> 項番 1～2 の交換目安の印刷枚数は用紙サイズ A4 の縦送り連続印刷時の目安となります。

ただし、お客様の使用条件、使用環境によっては半分以下になる場合があります。

<sup>\*2</sup> 項番 3～19 の部品には、アルミ電解コンデンサーが搭載されています。

## ⚠ 注意



### ・アルミ電解コンデンサーについて

このプリンターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週日 8 時間使用で約 5 年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に電解ユニットでの電解液漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を越えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

## 寿命および保守について

### 装置寿命

本機の装置寿命は通常の使用状態で 5 年または 3,200,000 ページ<sup>\*1</sup> のいずれか早いほうです。

<sup>\*1</sup> 平均 8 時間 / 日、20 日 / 月稼働で 5 年間です。両面印刷は 2 ページ分です (A4 縦換算)。

#### ⚠ 注意



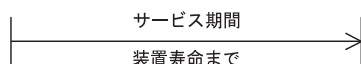
・特殊紙の使用割合が極端に多い場合は、寿命が短くなることがあります。

### 保守部品の保有期間

本機の保守部品の保有期限は製造打ち切り後 5 年間です。

### サービス期間について

本機のサービス期間は下記のとおりです。



## サポート対象外機能一覧

次の機能は、サポート対象外となっております。

印刷および動作等の保証はしておりません。

また、質問などにもお答え出来かねますのでよろしくご理解願います。

この機能をご利用になる場合には、お客様ご自身で十分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。

(弊社では、この機能に関してのテスト、評価等の確認は行っておりません。)

- ・ NEC PC98 環境での印刷
- ・ EtherTalk
- ・ エミュレーションモード (201H、ESC/P、HP-GL/2、TIFF、RPDL)
- ・ 次の用紙サイズへの印刷レジャー (ダブルレター)、リーガル 14 インチ (リーガル)、リーガル 13 インチ (ガバメントリーガル)、レター、八開
- ・ Salutation6.SunOS 環境での印刷
- ・ PostScript English 版ドライバーでの印刷
- ・ PC-PL3550 用プリンタードライバー以外を使用しての印刷 (PDF ダイレクトプリントは除く)
- ・ Win9x、WinMe、Win NT、MAC OS
- ・ 日本語以外の Windows OS
- ・ NetWare
- ・ DEVmode 構造体を制御した印刷

- Web Image Monitor、NetWork Monitor for Client/Admin 以外の機器の監視
- 下記に示すオプションおよび機能はサポートしません
  - 1) 3000 枚一穴対応フィニッシャー
  - 2) 1Giga イーサネットボード
  - 3) 拡張無線 LAN ボード
  - 4) PCL カード
  - 5) BMLinkS カード
  - 6) 蓄積文書暗号化カード
  - 7) 保存用カード
  - 8) 個人認証 IC カード
  - 9) 個人認証 IC カード
  - 10) IC カード
  - 11) IC カード管理ソフト
  - 12) 個人認証カード
  - 13) PDF ダイレクトプリントカード

## 本体、オプション、消耗品一覧

PC-PL3550 ページプリンターは、以下のオプション品、消耗品を用意しています。

形名	品名	備考
PC-PL3550	モノクロページプリンター	本体
PC-PF35501	1000 枚給紙テーブル	オプション *1
PC-PF35502	2000 枚給紙テーブル	オプション *1
PC-PF35503	1200 枚増設トレイ	オプション *1
PC-PH35503	紙揃えユニット	オプション
PC-PH35501	3000 枚フィニッシャー	オプション
PC-PH35502	排紙中継ユニット	オプション
PC-PG35501	専用テーブル	オプション
PC-PG45103	小サイズ用紙対応カセット	オプション
PC-PB35501	オペレーターコールライト	オプション
PC-PA35503	拡張 1284 ボードタイプ A	オプション
PC-PA35501	拡張 HDD タイプ J	オプション
PC-PA35508	マルチエミュレーションカードタイプ C	オプション
PC-PA35502	PS3 カードタイプ C	オプション
PC-PA35506	セキュリティカードタイプ C	オプション
PC-PA35507	VM カードタイプ C	オプション
PC-PM35501	SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C	オプション
PC-PZ35501	トナーカートリッジ	消耗品
PC-PZ35502	ドラムユニット	消耗品
PC-PZ35503	PPC ステーパーカートリッジタイプ C	消耗品
PC-PZ35504	PPC ステーパー針 タイプ C	消耗品
PC-PC1025H	インターフェースケーブルタイプ 4BH	オプション
PC-PC2020AB	USB2.0 ケーブル	オプション

\*1 1000 枚給紙テーブル /2000 枚給紙テーブルの右側に取り付けます。

### ↓ 補足

- ・消耗品購入先
  - ・(株) 日立システムズ
  - ・インターネットショップ <https://mall.rps.ricoh.co.jp/>
  - ・プリンターを購入された販売店

---

## 最新ソフトウェアのダウンロード

---

最新版ソフトウェアは、インターネットのホームページで提供しております。  
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。  
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://www.hitachi.co.jp/printer/>

---

## 最新の OS について

---

最新の OS についての情報は、インターネットのホームページで提供しております。  
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。  
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://www.hitachi.co.jp/printer/>

# CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティー」 について説明しています。

## ファイル一覧

CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティー」 に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUPEXE	P.17 「おすすめインストール」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2 用 RPCS プリンタードライバー	P.282 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2 用 PS3 プリンタードライバー	P.283 「PS3 プリンタードライバー」
Network Monitor for Admin	P.283 「Network Monitor for Admin」
Network Monitor for Client	P.283 「Network Monitor for Client」
True Type World Windows 版	P.285 「TrueTypeWorld」
各種マニュアル	P.288 「各種マニュアル」

## ドライバー (RPCS)

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RPCS が入っています。

## RPCS プリンタードライバー

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

### ◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K\_XP¥DISK1

DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP\_VISTA¥DISK1

### ◆ プリンタードライバーの動作環境

- ・パソコン
  - 対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ
- ・対象 OS
  - Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
- ・ディスプレイ解像度
  - SVGA 800 × 600 ドット以上

### ↓ 補足

- ・詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

**参照**

- ・ P.17 「おすすめインストール」

---

## ドライバー (PS3)

---

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PS3 が入っています。

**重要**

- ・ PS3 ドライバーを使用して印刷するには、PS3 カードが必要です。

---

## PS3 プリンタードライバー

---

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

**◆ ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

DRIVERS¥x86¥PS¥WIN2K\_XP¥DISK1

DRIVERS¥x64¥PS¥XP\_VISTA¥DISK1

**◆ プリンタードライバーの動作環境**

動作環境についての詳細は、『PostScript 3』使用説明書を参照してください。

---

## Network Monitor for Admin

---

Network Monitor for Admin の機能とファイル格納場所の説明です。

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

**◆ ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

NETWORK¥x86¥NETMON¥ADMIN¥DISK1

NETWORK¥x64¥NETMON¥ADMIN¥DISK1

**参照**

- ・ P.162 「Network Monitor for Admin を使う」

---

## Network Monitor for Client

---

**◆ ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

NETWORK¥x86¥NETMON¥CLIENT¥DISK1

NETWORK¥x64¥NETMON¥CLIENT¥DISK1

**◆ Network Monitor for Client の動作環境**

- ・ パソコン

対象 OS が問題なく動作する PC/AT 互換機

- ・対象 OS  
Windows 2000/XP/Vista 日本語版  
Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
- ・ディスプレイ解像度  
SVGA 800×600 ドット以上

↓ 補足

- ・ NEC PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズ、PC98-NX シリーズでは動作しません。

Network Monitor for Client は以下のような機能を備えたソフトウェアです。

- ・ Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 から TCP/IP プロトコル、IPP を使用して、Peer-to-Peer ネットワークで印刷する機能を提供します。
- ・ TCP/IP プロトコルを使用してネットワークにある機器の状態を常に監視できる機能を提供します。

◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Client では以下の操作ができます。

- ・ Peer-to-Peer プリント機能
  - ・ プリントサーバが無くても、直接ネットワークプリンターに印刷できます。
  - ・ 指定したプリンターにジョブがたまっていたり、エラーが発生して印刷できないとき、代替りのプリンターに印刷できます（代行印刷）。
  - ・ 複数部数の印刷を複数のプリンターに割り振って印刷できます（並行印刷）。
  - ・ 並行 / 代行印刷に指定するプリンターをあらかじめグループ登録できます。
- ・ 印刷データを転送中または印刷中に指定したプリンターにエラーが発生した場合、エラーメッセージを通知させることができます。
- ・ 機器監視機能
  - ・ 印刷中、用紙切れなど機器の情報をパソコン上で確認できます。
  - ・ 複数台の機器を使い分けいているときは、それらを同時に監視できます。
  - ・ 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
  - ・ ユーザー ID を使ったジョブの履歴を確認できます。
- ・ 印刷が完了したときに、[印刷通知] ウィンドウを表示して、印刷の完了を通知することができます。また代行印刷したときだけ表示させるなど、印刷条件により通知するかどうかを設定することができます。
- ・ 自分が印刷した文書の履歴、印刷中のジョブ状態を一覧で確認できます。
- ・ 印刷ページを、「プレビュー表示」と「ページ一覧表示」の 2 種類の方法で表示することができます。

↓ 補足

- ・ 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（例えばオプションの給紙テーブルなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- ・ 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターの機種や装備が違う場合、印刷結果が同じにならないことがあります。
- ・ 試し印刷や機密印刷をする場合、代行印刷 / 並行印刷はできません。
- ・ Network Monitor for Client の使いかたについては、同梱の製品マニュアルとヘルプを参照してください。



# TrueTypeWorld

TrueTypeWorld のファイル格納場所と書体見本についての説明です。

## ◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。  
 FONTS¥WIN95NT

## ◆ 書体見本

以下の TrueType フォント 20 書体が収録されています。

羽衣 L

愛の広がる美しいフォント

羽衣 E

愛の広がる美しいフォント

高橋隸書体

愛の広がる美しいフォント

江戸文字勘亭流

愛の広がる美しいフォント

行刻

愛の広がる美しいフォント

半古印体

愛の広がる美しいフォント

行書体

愛の広がる美しいフォント

祥南行書体

愛の広がる美しいフォント

正楷書体

愛の広がる美しいフォント

創英角ポップ体

愛の広がる美しいフォント

創英丸ポップ体

愛の広がる美しいフォント

白洲ペン楷書体

愛の広がる美しいフォント

白洲行草書体

愛の広がる美しいフォント

白洲太楷書体

愛の広がる美しいフォント

平成角ゴシック体™ W3

愛の広がる美しいフォント

平成角ゴシック体™ W9

愛の広がる美しいフォント

平成丸ゴシック体™ W4

愛の広がる美しいフォント

平成丸ゴシック体™ W8

愛の広がる美しいフォント

平成明朝体™ W3

愛の広がる美しいフォント

平成明朝体™ W9

愛の広がる美しいフォント

各書体のフォント名、字母メーカーは以下のとおりです。

フォント名	書体名	字母メーカー名
HG ~ (注)	羽衣 L	株式会社大谷デザイン研究所
HG ~ (注)	羽衣 E	株式会社大谷デザイン研究所
HG ~ (注)	高橋隸書体	株式会社ブリッジ
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	江戸文字勘亭流	株式会社晁文堂
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	行刻	株式会社シイアンドジィ
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	半古印体	株式会社シイアンドジィ
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	行書体	株式会社リコー

フォント名	書体名	字母メーカー名
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	祥南行書体	有澤祥南
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	正楷書体	日本活字工業株式会社
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	創英角ポップ体	株式会社創英企画
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	創英丸ポップ体	株式会社創英企画
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	白洲ペン楷書体	日本書技研究所
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	白洲行草書体	日本書技研究所
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	白洲太楷書体	日本書技研究所
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成角ゴシック体™ W3	(財) 日本規格協会
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成角ゴシック体™ W9	(財) 日本規格協会
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成丸ゴシック体™ W4	(財) 日本規格協会
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成丸ゴシック体™ W8	(財) 日本規格協会
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成明朝体 W3	(財) 日本規格協会
HG ~ &HGP ~ & HGS ~	平成明朝体 W9	(財) 日本規格協会

※フォント名の『~』の個所には書体名が入ります。『HG~』のみの場合は和文プロポーショナルに対応していません。

(注) Windows3.1 のフォーマットで収録しています。

## 基本仕様

True Type World の基本仕様に関する説明です。

### ◆ 文字について

7,602 文字 (MS 標準キャラクタセットに準拠、JIS 漢字第一水準、第二水準を含む) フォーマット /Windows 95 日本語版準拠の TrueType Collection 形式 (拡張子: ttc)

#### ↓ 補足

- Windows 95 以降で和文プロポーショナルフォントを使用できるようになります。
- フォントファイルに組み込まれたフォント情報によって書体表示名が異なります。

「HGP ~」	半角文字・非漢字についてプロポーショナルピッチの情報を格納
「HGS ~」	半角文字についてプロポーショナルピッチの情報を格納
「HG ~」	固定ピッチ情報のみ格納

- 和文プロポーショナル機能を使用するには、TrueType Collection に対応しているアプリケーションが必要です。
- 平成書体は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。他のフォントと同様、フォントとして無断複製することは禁止されています。

### ◆ 対象 OS

TrueType フォントの対象 OS は、下記の通りです。

- Windows 2000/XP/Vista 日本語版
- Windows Server 2003/2003 R2 日本語版

## Windows へのインストール

True Type World の Windows へのインストール方法の説明です。  
ここでは、操作例として 95/98/Me へのインストール方法を説明しています。

### ★重要

- ・ご使用の際には、同梱されている CD-ROM 内の Font ディレクトリにある Readme の使用許諾を参照してください。
- ・すでに Windows 3.1 版の TrueTypeWorld がインストールされているパソコンには、同梱の CD-ROM 内の TrueTypeWorld をインストールしないでください。
- ・インストールされているフォント数が多いとシステムが不安定になる恐れがあります。
- ・リモートドライブ（ネットワーク上のドライブ）にインストールしないでください。アプリケーションからフォントを選択するとき他のフォントが見えなくなるなどの障害が発生する恐れがあります。

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [コントロールパネル] の [フォント] をダブルクリックします。
- 3** [ファイル] メニューの [新しいフォントのインストール] をクリックします。
- 4** CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
- 5** [ドライブ] ボックスのドロップダウンメニューから CD-ROM ドライブを選択します。
- 6** [フォルダ] ボックスで、[fonts] から [win95nt] の順にフォルダを開きます。
- 7** [フォントの一覧] ボックスにフォント名が表示されるので、インストールするフォントをクリックして反転表示させます。
- 8** [フォントフォルダにフォントをコピーする] にチェックが付いていることを確認し、[OK] をクリックします。  
これでインストールは終了です。

### ↓補足

- ・Windows をインストールしたハードディスクに、1 書体当たり約 2～7MB（書体によって異なります）の空き容量が必要です。
- ・インストール後、フォント名は 3 つの書体名「HG～」、「HGP～」、「HGS～」で表示されます。たとえば「行書体」の場合、[コントロールパネル] の [フォント] フォルダの中では、フォント名が「HG 行書体& HGP 行書体& HGS 行書体」と表示されます。
- ・その他の OS へのインストール方法については、OS に同梱の説明書を参照してください。

---

## 各種マニュアル

---

付属の CD-ROM には、PDF 形式の使用説明書が収録されています。  
各種マニュアルのファイル格納場所についての説明です。

### PDF 形式の使用説明書

---

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

**MANUAL¥PC-PL3550**

# Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

## ★重要

- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

lpr、rcp、ftp コマンドを使って印刷できます。

## ↓補足

- sftp コマンドを使用する場合は、ssh v2 に準拠したクライアントソフトが必要です。

## セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

**1** 本機の操作部でTCP/IPプロトコルを有効にし、IPアドレスなどTCP/IPに関するネットワーク環境を設定します。

本機のTCP/IPプロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

**2** WindowsにTCP/IPプロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。ネットワークに関する設定内容はネットワーク管理者の方に確認してください。

**3** lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX用印刷サービス」を組み込みます。

## ↓補足

- IPアドレスの設定方法について詳しくは、本機に同梱の使用説明書を参照してください。
- DHCPを使用して本機のIPアドレスを設定するときは、「DHCPを使用する」を参照してください。
- 本機の指定にホスト名を使用するときは、「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

## 目参照

- P.296 「DHCPを使用する」
- P.290 「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」

## IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

### DNS を使用している場合

DNS サーバ上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

### DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

#### E 参照

- ・ P.126 「テスト印刷をする」

### その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

#### 1 メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

¥WINNT はインストール先のディレクトリです。

#### 2 hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

```
192.168.15.16 hitachi # NP
```

192.168.15.16 は IPv4 アドレス、hitachi はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

```
2001:DB:::100 hitachi # NP
```

2001:DB:::100 は IPv6 アドレス、hitachi はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

#### 3 ファイルを上書き保存します。

#### 補足

- ・ IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- ・ IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003/2003 R2、および Windows Vista です。

## 印刷方法

lpr、rcp、ftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

◆ Windows 2000 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

◆ Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 の場合：

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

↓ 補足

- ・印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- ・「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
  - ・ lpr : 10
  - ・ rcp : 5
  - ・ ftp : 3
- ・ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- ・コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX を使ってオプションを指定する場合と同様です。UNIX を使ってオプションを指定する方法は、「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。
- ・エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

📖 参照

- ・ P242 「オプション指定 (UNIX)」

## lpr

◆ IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -SプリンターのIPアドレス [-Pオプション] [-o1] ¥パス名¥ファイル名

◆ IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -Sプリンターのホスト名 [-P オプション] [-o1] ¥パス名¥ファイル名  
バイナリーファイルを印刷する場合は -ol (小文字の O と、小文字の L) オプションを付けてください。

ホスト名が hitachi のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> lpr -Shitachi -Pfiletype=RPS -ol C:¥PRINT¥file1
```

## rcp

あらかじめ hosts ファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

```
c:> rcp [-b] ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名...] プリンターのホスト名: [オプション]
```

- ・ファイル名には「\*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- ・バイナリーファイルを印刷する場合は -b オプションを付けてください。

ホスト名が hitachi のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 と file2 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 hitachi:filetype=RPS
```

### ↓ 補足

- ・hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

### 目 参照

- ・P.290 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

## ftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

### ◆ 印刷するファイルが1つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

### ◆ 印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名...]
```

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。

### 1 本機の IP アドレス (または hosts ファイルに設定したプリンターのホスト名) を引数にして ftp コマンドを起動します。

```
% ftp 本機のアドレス
```

### 2 ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

```
User:
```

```
Password:
```

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

### 3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

### 4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
```

```
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2
```



## 5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

### ↓ 補足

- ファイル名に「=」、「,」、「\_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- pwd コマンドではオプションを指定できません。
- mput コマンドではファイル名に「\*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 と file2 という名前のファイルを印刷する例  
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2

## sftp

sftp コマンドをご使用の場合は、クライアントソフトが必要です。  
クライアントソフトは、ssh ver2 に準拠した物をご使用ください。

### ★ 重要

- 全てのクライアントが利用できるわけではありません。

### 1 クライアントソフトを起動します。

```
[psftp>open "ホスト名"]と表示されます。
```

### 2 ホスト名を入力し、[Enter] キーを押します。

```
[Login as : "ユーザー名"]と表示されます。
```

### 3 ユーザー名を入力し、[Enter] キーを押します。

初回アクセス時は [Store key in cache? (y/n)] と表示されるので、鍵情報と鍵を保管する (y) かしないか (n) を選択し、[Enter] キーを押します。  
"ユーザー名" と "ホスト名" は入力した名称で表示されます。

### 4 パスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

パスワードは入力しても表示されません。

### ↓ 補足

- 詳しい手順については、クライアントソフトのヘルプまたは取扱説明書をご覧ください。

# Windows ターミナルサービス /Citrix Presentation Server(MetaFrame) を使用する場合

Windows ターミナルサービス /Citrix Presentation Server(MetaFrame) を使用方法の説明です。

## 動作環境

使用可能な OS と MetaFrame との組み合わせは次のとおりです。

- ◆ Windows 2000 Server
  - ・ MetaFrame XP (SP1/SP2/FR1/FR1+SP2/FR2/SP3/FR1+SP2/FR2+SP3/FR3)
  - ・ MetaFrame Presentation Server 3.0
- ◆ Windows Server 2003/2003 R2
  - ・ MetaFrame XP (FR3)
  - ・ MetaFrame Presentation Server 3.0

## 制限

動作が制限される環境についての説明です。

### ◆ 「Windows ターミナルサービス」動作時

Windows 2000 Server ファミリでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Client をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、次の2通りの方法があります。

- 1) [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
- 2) MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
CHANGE USER /INSTALL
```

インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
CHANGE USER /EXECUTE
```

↓ 補足

- ・ 詳しくは Windows のヘルプを参照してください。

### ◆ 印刷時

サイズの大きな画像や、フォントが大量に含まれたデータを印刷すると、画像や文字抜けが発生する場合があります。事前検証のうえ、運用してください。

**◆「クライアントプリンタの自動作成機能」使用時**

「クライアントプリンタの自動作成機能」とは、MetaFrame サーバーにログオンする時に、クライアント側で使用しているローカルプリンタの情報を基にして、MetaFrame サーバー側で、そのクライアント専用の論理プリンタが自動的に作成される機能です。事前検証のうえ、運用してください。

- 大容量の画像データを印刷したり、ISDN などの電話回線を利用した WAN 環境でお使いになる場合、事前検証のうえ、運用してください。
- MetaFrame XP 1.0 以降をご使用の場合は、「Citrix 管理コンソール」より、「クライアントプリンターで使用可能な帯域幅」をお使いの環境に合わせて設定して、使用してください。
- サーバー側で印刷エラーが発生し、印刷ジョブや「クライアントプリンタの自動作成機能」で作成されたプリンターが削除されない場合、次の対処方法を行ってください。
  - MetaFrame XP1.0 SP1/SP2/SP3/FR1  
レジストリにて「完了していない印刷ジョブを削除する」設定を実施します（詳細については MetaFrame の Readme を参照してください）。
  - MetaFrame XP1.0 FR2/FR3
  - MetaFrame Presentation Server 3.0  
Citrix 管理コンソールの「プリンタの管理」のプロパティにて「ログオフ時に保留中の印刷ジョブを削除する」設定を実施します。

**◆「プリンタードライバーの複製機能」使用時**

事前検証のうえ、運用してください。

正しく複製がされない場合は、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして、運用してください。

## DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows 2000 Server および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。
- WINS サーバーを使用する場合は、「WINS サーバーを使用する」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

### 目 参照

- P.126 「テスト印刷をする」
- P.297 「WINS サーバーを使用する場合」

## AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

### ↓ 補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「テスト印刷をする」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。

### 目 参照

- P.126 「テスト印刷をする」
- P.190 「autonet」

# WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS (Windows Internet Name Service) サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Network Monitor for Client のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

## Web ブラウザーを使用する方法

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。  
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。  
Web Image Monitor のトップページが表示されます。
- 3 [ログイン] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。  
ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。
- 5 メニューエリアの [設定] をクリックし、[ネットワーク] エリアの [IPv4] をクリックします。
- 6 [Ethernet+IEEE802.11b] 欄の [WINS] が「有効」になっていることを確認し、[プライマリ WINS サーバー] と [セカンダリ WINS サーバー] にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。



7 [OK] をクリックします。

8 Web ブラウザーを終了します。

---

## telnet を使用する方法

---

### 参照

- P.188 「telnet を使う」

# ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバが管理しているレコード（A レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

## 更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- ・セキュリティー設定がされていない
- ・セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

### ◆ 静的 IP 設定の場合

IP アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、IEEE802.11 の場合  
RNPPRNXX（PRNXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

### ◆ DHCP 設定の場合

DHCP サーバが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- ・本機が DHCP サーバから IP アドレスを取得する際、DHCP サーバが A レコードと PTR レコードを更新
- ・本機が DHCP サーバから IP アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCP サーバが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、IEEE802.11 の場合  
RNPPRNXX（PRNXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

### ↓ 補足

- ・メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。

---

## 動作対象の DNS サーバー

---

### ◆ 静的 IP 設定の場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

### ◆ DHCP 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

### ◆ DHCP 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

---

## 動作対象の DHCP サーバー

---

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCP サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server (Service Pack 3 以降) に標準添付の Microsoft DHCP サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

---

## ダイナミック DNS 機能の設定方法

---

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

### ☰ 参照

- P.193 「dns」



---

## 使用上の注意

---

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

---

### ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

---

弊社製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

# 本機でできるセキュリティー対策

ここでは本機でできるセキュリティー強化について説明しています。  
本章の設定を行うことができるのは管理者となります。

## 認証機能の利用とユーザー管理

### ★重要

- ・管理者認証、ユーザーコード認証以外の認証機能を使用するには、ハードディスクが必要です。
- ◆ **認証機能の設定**  
本機の正しい管理者、また正しいユーザーであることを確認するために、ログインユーザー名とログインパスワードを使用した管理者認証、ユーザー認証を行います。認証を行うためには本体の初期設定で、認証機能を有効に設定する必要があります。
- ◆ **ログイン認証情報を設定する**  
ユーザーは本機のアドレス帳に登録された個人情報によって管理されます。ユーザー認証を有効に設定することで、アドレス帳に登録されたユーザーのみを機器の利用者として設定することができます。
- ◆ **使用できる機能を設定する**  
登録されたユーザーに対して、使用できる機能を設定します。この設定により、ユーザーの使用できる機能を制限することができます。

## 情報の漏洩を防ぐ

- ◆ **文書の複製を抑止する**  
プリンター機能の不正コピー抑止機能を使用し、不正コピーを抑止するために文字列の地紋をつけて印刷できます。
- ◆ **文書の複製をガードする**  
プリンター機能のコピーガード機能を使用し、不正コピーをガードするために地紋を背景全体につけて印刷できます。  
不正コピーガード文書を複合機などで、コピー・ドキュメントボックスへの蓄積をしたときに文書をグレー地にする効果を得るためには、不正コピーガードモジュールが必要です。
- ◆ **文書を他人に見せないように印刷する**  
プリンター機能の機密印刷機能を使用し、出力文書を機密文書として本機に蓄積してから印刷します。本機の操作パネルで印刷を指示し、印刷した文書をすぐに本人が回収するため、他人に見られることを防止することができます。

**◆ 蓄積文書の覗き見を防止する**

ドキュメントボックスに蓄積された文書やスキャナーで読みこんだ文書に対して、その文書を使用できるユーザーとアクセス権を設定することができます。アクセス権の設定されたユーザー以外の第三者による蓄積文書の印刷などの不正利用を防止することができます。

**◆ 蓄積文書の持ち出しを防止する**

ドキュメントボックスに蓄積された文書に対して、その文書を使用できるユーザーとアクセス権を設定することができます。アクセス権の設定されたユーザー以外の第三者による蓄積文書の送信やダウンロードなどの不正利用を防止することができます。

**◆ アドレス帳の登録情報を保護する**

アドレス帳のデータに対して、ユーザーのアクセス権を設定することができます。登録されたユーザー以外の第三者によるアドレス帳のデータの不正利用を防止することができます。

また、アドレス帳のデータを暗号化し、データの読み取りを防止することができます。

**◆ ログ情報の管理**

本機に記憶されたログを消去することでデータの漏洩を防止したり、ログデータを転送することで、不正読み取り履歴や読み取り者の確認ができます。

ログデータを転送するためにはログ収集サーバーが必要です。

**◆ ハードディスクのデータを上書き消去する**

本機を廃棄するときに、ハードディスクに蓄積されていたすべてのデータを上書き消去することや、一時的に保存していたデータを自動で上書き消去することで、データ漏洩を防止することができます。

ハードディスクのデータを上書き消去するためには、セキュリティカードが必要です。

---

## アクセスの制限と管理

---

**◆ 蓄積データの変更、削除を防止する**

ドキュメントボックスに蓄積された文書やスキャナーで読みこんだ蓄積文書に対して、その文書を使用できるユーザーとアクセス権を設定することができます。アクセス権の設定されたユーザーの中でも特定のユーザーに対して蓄積文書の変更や削除を許可するようにできます。

**◆ 機器設定の変更を防止する**

本機の各種機能の設定項目は、管理者の種類によって設定できる項目が異なります。また、管理者が設定すべき項目は、ユーザーでは変更できません。

管理者を登録して本機を運用します。

**◆ 機能の使用を制限する**

本機の各種機能に対してユーザーのアクセス権を設定し、第三者による不正操作の介入を防止することができます。

---

## ネットワークの平行インターフェース設定強化

---

### ◆ 不正なアクセスを防止する

IP アドレスに制限をかけたり、ポートを無効に設定することによって、ネットワーク上での不正アクセスを防止し、アドレス帳や蓄積文書、初期設定のデータなどを保護することができます。

### ◆ パスワードを暗号化通信する

ログインパスワード、PDF 文書のグループパスワード、および IPP 認証のパスワードを暗号化通信し、パスワードを解析される脅威から保護することができます。

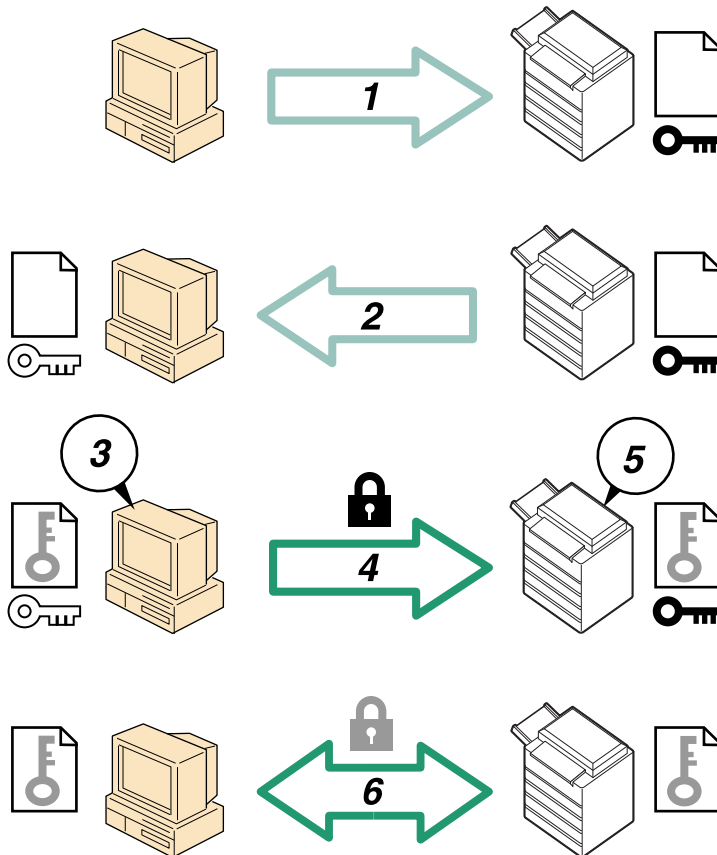
### ◆ 通信経路の保護と暗号化通信

Web Image Monitor や IPP で本機にアクセスするときは、SSL による暗号化通信を確立することができます。また Network Monitor for Admin など本機にアクセスするときは、SNMPv3 や SSL による暗号化通信を確立することができます。

本機にサーバー証明書を導入し、通信経路の確立と通信データの暗号化を行い、盗聴やデータの内容の解析、改ざんを防止することができます。

## SSL（暗号化通信）の概要

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、サーバー証明書を作成、導入します。サーバー証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する2つの運用形態があります。



BBC003S

- 1) ユーザーのパソコンから本機へアクセスするとき、SSL のサーバー証明書と公開鍵を要求します。
- 2) 本機からユーザーのパソコンへサーバー証明書と公開鍵が送られます。
- 3) PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号します。
- 4) 暗号化された共通鍵が本機に送られます。
- 5) 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号化されます。
- 6) 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で復号する安全な通信を実現します。

# 搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

## expat について

本製品に搭載しているコントローラー等のソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

- expat を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社日立製作所が行うものであり、expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd  
and Clark Cooper

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

### ↓ 補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。 <http://expat.sourceforge.net/>

## NetBSD について

### 1. Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product:

This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at <http://www.netbsd.org/>.

Copyright (c) 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 2. Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation.

This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed for the NetBSD Project. See <http://www.netbsd.org/> for information about NetBSD.

This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.

This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.

This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)

This product includes software designed by William Allen Simpson.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.

This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.

This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch

This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.

This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.

This product includes software developed by Mika Kortelainen

This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.

This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.

This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.

This product includes software developed by Adam Glass.

This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.

This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Proje<sup>t</sup>.

This product includes software developed by Alex Zepeda.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.

This product includes software developed by Allen Briggs

This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Bill Paul.

This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute unmlauted o for oe)

This product includes software developed by Boris Popov.

This product includes software developed by Brad Pepers

This product includes software developed by Bradley A. Grantham.

This product includes software developed by Brini.

This product includes software developed by Causality Limited.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor.

This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed by Charles M. Hannum.

This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.

This product includes software developed by Christian E. Hopps.

This product includes software developed by Christian Limpach



This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Chuck Silvers.

This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Colin Wood.

This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited

This product includes software developed by Daishi Kato

This product includes software developed by Dale Rahn.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Darrin B. Jewell

This product includes software developed by David Miller.

This product includes software developed by Dean Huxley.

This product includes software developed by Eduardo Horvath.

This product includes software developed by Eric S. Hvozda.

This product includes software developed by Eric S. Raymond

This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.

This product includes software developed by Ezra Story.

This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Gardner Buchanan.

This product includes software developed by Gary Thomas.

This product includes software developed by Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross

This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.

This product includes software developed by Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by Harvard University.

This product includes software developed by Herb Peyerl.

This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Iain Hibbert

This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.

This product includes software developed by Ian W. Dall.

This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.

This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.

This product includes software developed by James R. Maynard III.

This product includes software developed by Jared D. McNeill.

This product includes software developed by Jason L. Wright

This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, <http://www.and.com/>

This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.

This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.

This product includes software developed by Joerg Wunsch

This product includes software developed by John Birrell.

This product includes software developed by John P. Wittkoski.

This product includes software developed by John Polstra.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone.

This product includes software developed by Jukka Marin.

This product includes software developed by Julian Highfield.

This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.

This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.

This product includes software developed by Kenneth Stailey.

This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.

This product includes software developed by Klaus Burkert, by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.

This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Leo Weppelman.

This product includes software developed by Lloyd Parkes.

This product includes software developed by Luke Mewburn.

This product includes software developed by Lutz Vieweg.

This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.

This product includes software developed by Marc Horowitz.

This product includes software developed by Marcus Comstedt.

This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.

This product includes software developed by Mark Brinicombe.

This product includes software developed by Mark Murray

This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe

This product includes software developed by Markus Wild.

This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Masanobu Saitoh.

This product includes software developed by Masaru Oki.

This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.

This product includes software developed by Mats O Jansson.

This product includes software developed by Matt DeBergalis

This product includes software developed by Matthew Fredette.

This product includes software developed by Matthias Pfaller.

This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Michael Graff.

This product includes software developed by Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Michael Shalayeff.  
 This product includes software developed by Michael Smith.  
 This product includes software developed by Mike Glover and contributors.  
 This product includes software developed by Mike Pritchard.  
 This product includes software developed by Minoura Makoto.  
 This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.  
 This product includes software developed by Niels Provos.  
 This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.  
 This product includes software developed by Niklas Hallqvist.  
 This product includes software developed by Onno van der Linden.  
 This product includes software developed by Paul Kranenburg.  
 This product includes software developed by Paul Mackerras.  
 This product includes software developed by Per Fogelstrom  
 This product includes software developed by Peter Galbavy.  
 This product includes software developed by Phase One, Inc.  
 This product includes software developed by Philip A. Nelson.  
 This product includes software developed by Philip L. Budne.  
 This product includes software developed by RiscBSD.  
 This product includes software developed by Roar Thronaes.  
 This product includes software developed by Rodney W. Grimes.  
 This product includes software developed by Roger Hardiman  
 This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.  
 This product includes software developed by Rolf Grossmann.  
 This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.  
 This product includes software developed by Ross Harvey.  
 This product includes software developed by Scott Bartram.  
 This product includes software developed by Scott Stevens.  
 This product includes software developed by Shingo WATANABE.  
 This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.  
 This product includes software developed by Soren S. Jorvang.  
 This product includes software developed by Stephan Thesing.  
 This product includes software developed by Steve Woodford.  
 This product includes software developed by Takashi Hamada  
 This product includes software developed by Takumi Nakamura.  
 This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.  
 This product includes software developed by Terrence R. Lambert.  
 This product includes software developed by Tetsuya Isaki.  
 This product includes software developed by Thomas Gerner  
 This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.  
 This product includes software developed by Tobias Weingartner.  
 This product includes software developed by Todd C. Miller.  
 This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.  
 This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.  
 This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.

This product includes software developed by ToolS GmbH.

This product includes software developed by Toru Nishimura.

This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

This product includes software developed by Waldi Ravens.

This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. <http://www.zembu.com/>

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Yasushi Yamasaki

This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.

This product includes software developed by the Alice Group.

This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.

This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.

This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.

This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.OpenSSL.org/>)

This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.

This product includes software developed by the RiscBSD kernel team

This product includes software developed by the RiscBSD team.

This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed for the FreeBSD project

This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas

This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.

This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET, Swedish University Computer Network.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

This software includes software developed by the Computer Systems Laboratory at the University of Utah.

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>).

This product includes software developed by Allen Briggs.

In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

---

## Netatalk(NetBSD)/Neta Talk 1.4b2+asun2.1.3 について

---

Copyright (c) 1990,1991 Regents of The University of Michigan. All Rights Reserved.

---

## FreeBSD 4.6.2/netipx について

---

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

---

## Sablotron

---

Sablotron (Version 0.82) Copyright (c) 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer. The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: <http://support-download.com/services/device/sablot/notice082.html>

e) The source code of the Sablotron software is available at: <http://www.gingerall.com>

f) MPL 1.1 is available at: <http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html>

---

## JPEG LIBRARY について

---

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

---

## SASL について

---

CMU libsasl

Tim Martin

Rob Earhart

Rob Siemborski

Copyright (c) 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact.

Office of Technology Transfer

Carnegie Mellon University

5000 Forbes Avenue

Pittsburgh, PA 15213-3890

(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

tech-transfer@andrew.cmu.edu

- 4) Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---

## Samba (Ver 3.0.4) について

---

本製品に搭載している SMB 送信機能では samba ver 3.0.4 を使用しています。

Copyright © Andrew Tridgell 1994-1998

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

### 📖 参照

- 本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。 <http://support-download.com/services/scbs>

---

## RSA BSAFE®

---



- This product includes RSA BSAFE (c) cryptographic software from RSA Security Inc.
- RSA, BSAFE are either registered trademarks or trademarks of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
- RSA Security Inc. All rights reserved.

---

## Open SSL

---

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.



2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact [openssl-core@openssl.org](mailto:openssl-core@openssl.org).
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young ([eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com)). This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)).

Original SSLeay License

Copyright (c) 1995-1998 Eric Young ([eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com)) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young ([eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com)). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

---

# Open SSH

---

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen < y lo@cs.hut.fi >, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

[However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "<http://www.cs.hut.fi/crypto>".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

#### NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

## 9

Cryptographic attack detector for ssh - source code

Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<<http://www.core-sdi.com>>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl  
Theo de Raadt  
Niels Provos  
Dug Song  
Kevin Steves  
Daniel Kouril  
Wesley Griffin  
Per Allansson  
Jason Downs  
Solar Designer  
Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

9

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---

## Open LDAP

---

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

---

## Heimdal

---

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan(Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---

## IPS™ print language emulations

---

Copyright (c) 1987-2006 Zoran Corporation. All rights reserved.

---

## racoon

---

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.  
All rights reserved.



---

# TrouSerS

---

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

## 1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

- a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and
- b) in the case of each subsequent Contributor:
  - i) changes to the Program, and
  - ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

## 2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

### 3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

### 4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

#### 5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

#### 6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

#### 7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

#### ↓ 補足

- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。 [http://sourceforge.net/cvs/?group\\_id=126012](http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012)

# 索引

## アルファベット索引

access	189
AutoNet	296
autonet	190
devicename	191
DHCP	290, 296
dhcp	191
dhcp6	192
diprint	193
DNS	290
dns	193
domainname	195
/etc/hosts	239
/etc/printcap	239
ftp	213, 216, 218, 225, 249, 289, 292
help	195
hostname	195
ifconfig	196
info	197, 216
ipds	197
IPP	22
ipp	197
IPP (Network Monitor for Client)	181
ipsec	198
ipv6	198
IP アドレス	11, 290
IP アドレスの設定 (UNIX)	236
ISDN	301
lpq	213, 218, 249
lpr	198, 289, 291
LPR ポート	28
MetaFrame	294
mshell	188
NetBSD	306
Network Monitor for Admin	162
Network Monitor for Client	179, 232, 283
Network Monitor for Client (インストール)	19
Network Monitor for Client ポート	19
Network Monitor for Client ポート (設定変更)	25
OK キー	12
passwd	198
pathmtu	199
PDF ダイレクトプリント	57
PDF ダイレクトプリント (コマンド)	57
prnlog	199, 218
PS3	283
rcp	213, 216, 218, 225, 249, 289, 292
rhpp	199
route	200
RPCS	282
rsh	213, 216, 218, 225
set	201
sftp	216, 218, 225, 293
show	203, 219
smb	203
SNMP	212
snmp	204
SNMPv1	212
SNMPv2	212
SNMPv3	212
SNMP コミュニティ名設定ツール	212
sntp	206
spoolsw	207
ssdp	207
ssh	208
SSL (暗号化通信)	305
Standard TCP/IP ポート	26
status	208, 213, 218
syslog	209, 225
TCP/IP	20
TCP/IP 使用時の注意と制限	268
telnet	188
TrueTypeWorld	285
UNIX	57
upnp	209
USB 接続	35
USB 接続 (Windows 2000)	35
USB 接続 (Windows Server 2003/2003 R2)	36
USB 接続 (Windows Vista)	38

USB 接続 (Windows XP) .....	36
web .....	209
Web Image Monitor .....	105, 153
Windows 2000 .....	42
Windows Server 2003 .....	42
Windows Server 2003 R2 .....	42
Windows Vista .....	43
Windows XP .....	42
Windows ターミナルサービス .....	294
Windows ネットワークプリンター .....	33, 231
Windows の印刷ポート .....	14
wins .....	210
WINS サーバー .....	297
WSD ポート .....	30
wsmfp .....	210

## あ行

合紙 .....	90
アドレス情報の管理 .....	178
印刷準備 .....	13
印刷設定メニュー .....	133
印刷中止 .....	83
印刷中止 (印刷開始前) .....	84
印刷中止 (印刷途中) .....	83
印刷部数 (UNIX) .....	245
印刷枚数情報の保存 .....	169
印刷枚数情報のリセット .....	170
印刷枚数の表示 .....	168
印刷用紙 .....	103
インストール (Network Monitor for Admin) .....	163
インストールシエルの実行 (UNIX) .....	236
インストールシエルの実行結果 (UNIX) .....	239
インターフェース設定メニュー .....	145
エミュレーション切替 .....	91
エミュレーションとプログラム (UNIX) .....	242
エラー履歴 .....	85
おすすめインストール .....	17
オプション構成 .....	44
オプション構成 (自動設定) .....	44
オプション構成 (手動設定) .....	45

オプション指定 (UNIX) .....	242
オプション指定の変更方法 (UNIX) ..	248
オプション装着状況 .....	127

## か行

解像度 (UNIX) .....	246
カウンター情報 .....	127
各使用説明書の記載内容 .....	10
仮想プリンター .....	97
仮想プリンター (印刷) .....	101
仮想プリンター (削除) .....	101
仮想プリンター (設定確認) .....	100
仮想プリンター (設定変更) .....	99
仮想プリンター (追加) .....	97
管理者モード .....	157
管理者モード (Web Image Monitor) ..	159
機器監視設定 .....	179
機器情報 (UNIX/mshell) .....	216
機器の監視 .....	162, 179
機器の状態表示 (UNIX) .....	249
機能別ウィンドウ .....	47
機密印刷 .....	67
機密印刷 (操作部からの印刷指示) ..	68
機密印刷 (文書消去) .....	69
給紙トレイ (UNIX) .....	243
強制印刷 .....	80
強制印刷 (印刷中止) .....	81
ゲストモード .....	157
困ったときは (USB 接続) .....	39
困ったときは (インストール) .....	42
コメントの変更 .....	176

## さ行

最新ソフトウェアのダウンロード ..	281
最新の OS について .....	281
サポート対象外機能一覧 .....	278
システム設定メニュー .....	128
システムログ情報 (UNIX/mshell) ..	225
自動メール通知 .....	183
取得情報 .....	218
寿命および保守について .....	278
省エネモード .....	174
使用説明書 .....	9
使用説明書の分冊構成 .....	9

状態表示 (Network Monitor for Admin) .....	175
状態表示 (Network Monitor for Client) .....	180
状態表示 (UNIX/mshell) .....	213
スクロールキー .....	12
ステーブル .....	93
ステーブル (UNIX) .....	247
ステーブル位置 .....	93
ステーブル注意事項 .....	94
スプール印刷 .....	88
スプール印刷ジョブ一覧 .....	177
スプールディレクトリの作成 .....	240
制限 (Windows ターミナルサービス / MetaFrame) .....	294
セキュリティー管理メニュー .....	141
セキュリティー対策 .....	302
接続方法 .....	13
節電 .....	174
セットアップ UNIX .....	235
選択キー .....	12
選択文書印刷 .....	77
全文書印刷 .....	78
双方向通信 .....	44
ソート .....	87
ソート部数 (UNIX) .....	245

## た行

ダイナミック DNS .....	299
ダイレクトプリント .....	193
試し印刷 .....	64
試し印刷 (1 部目) .....	64
試し印刷 (2 部目以降) .....	65
試し印刷 (文書消去) .....	66
調整管理メニュー .....	119
直接印刷 .....	289, 291
著作権 .....	306
テスト印刷メニュー .....	125
搭載エミュレーション情報 .....	127
トップページ (Web Image Monitor) ..	154
トラブルシューティング (USB 接続) .....	39
トラブルシューティング (インストール) .....	42

## な行

内蔵フォント .....	276
認証 (メール) .....	185
ネットワークインターフェースボード .....	164
ネットワーク接続 .....	14
ネットワークプリンターの設定 .....	231

## は行

排紙トレイ (UNIX) .....	245
パスワード (Network Monitor for Admin) .....	174
パラレル接続 .....	40
パンチ .....	95
パンチ (UNIX) .....	247
パンチ位置 .....	95
パンチ注意事項 .....	95
表紙 .....	89
表示画面とキー操作について .....	12
表示言語切替 .....	149
ファームのバージョン情報 .....	127
ファイル一覧 (CD-ROM 収録ソフトウェア) .....	282
フィニッシャー .....	92
不正コピーガード機能 .....	58
不正コピー抑止印刷 .....	58
プリンター言語情報 .....	127
プリンタードライバ .....	282, 283
プリンタードライバ画面 .....	47
プリンタードライバ設定画面 (Windows 2000) .....	48
プリンタードライバ設定画面 (Windows Server 2003/2003 R2) .....	51
プリンタードライバ設定画面 (Windows Vista) .....	54
プリンタードライバ設定画面 (Windows XP) .....	51
プリンタープロパティ (Windows 2000) .....	48, 49, 50
プリンタープロパティ (Windows Server 2003/2003 R2) .....	51, 52, 53
プリンタープロパティ (Windows Vista) .....	54, 55, 56
プリンタープロパティ (Windows XP) .....	51, 52, 53

プリントサーバ	15
プリントジョブ情報 (UNIX/mshell)	218
プリントログ情報 (UNIX/mshell)	218
文書一覧画面	61
文書一覧画面 (文書印刷)	64
文書印刷機能	61
文書複製の抑止	58
文書複製の抑止 (おことわり)	60
ヘルプ (Web Image Monitor)	159
ヘルプのダウンロード (Web Image Monitor)	160
ヘルプへのリンク (Web Image Monitor)	161
補助メニュー	150
ホスト名	290
保存文書	73
保存文書 (操作部からの印刷指示)	75
保存文書 (文書消去)	76
保留文書	70
保留文書 (操作部からの印刷指示)	72
保留文書 (文書消去)	73
本体機器名の変更	176
本体、オプション、消耗品一覧	280

## ま行

マークについて	11
マスクパターン (不正コピー)	59
マニュアル	288
メール通知	182
メッセージ	225
メニュー (Web Image Monitor)	157
メニューキー一覧	109
メニューロック (機器側操作部)	165
メモリー内残存データ状態確認メニュー	113
モード (Web Image Monitor)	157
戻るキー	12

## や行

ユーザー ID 一覧画面	61
ユーザー ID 一覧画面 (文書印刷)	77
ユーザー情報管理ツール	167
ユーザー情報の管理	167
ユーザー認証 (Web Image Monitor)	156
有償部品について	276

要求時メール	186
要求時メール通知	184
用紙	103
用紙サイズ (UNIX)	244
用紙種類	103
用紙種類 (UNIX)	244
用紙設定 (Network Monitor for Admin)	166
用紙設定メニュー	114

## ら行

利用制限 (機能ごと)	171
利用制限 (ユーザーごと)	172
両面印刷 (UNIX)	246
ローカル接続	16
ログアウト (Web Image Monitor)	156
ログイン (Web Image Monitor)	156
ログファイルの作成	241

## わ行

ワンクリック設定	47
----------	----




# HITACHI

---

株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部  
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

■製品に関するお問い合わせ■

HITACカスタマ・アンサ・センター（HCAセンター）

 0120-2580-12

ご利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00  
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

PL3550B-002

製造元:株式会社リコー

© Hitachi, Ltd. 2014. All rights reserved.